

Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting

リリース 6.5.1

インストールガイド

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise Reporting インストールガイド, 6.5.1

Copyright © 1991, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 インストールの概要	7
概要	7
コンポーネント	7
インストールコンポーネント	8
Hyperion Enterprise Reporting Client	9
Hyperion Common Logon	10
Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション	10
Hyperion Distributed Applications	11
第 2 章 インストール	13
Hyperion Enterprise Reporting のインストールに必要なシステムの条件	13
要件	15
Web サーバソフトウェア	15
サーバのインストールと設定	15
Hyperion Enterprise Reporting プリンタドライバ	15
以前のリリースからのアップグレード	16
サイレントインストール	16
第 3 章 インストールの開始	21
セットアッププログラムについて	21
ユーザーアカウント制御機能 (UAC)	24
コンポーネントの指定	24
第 4 章 Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール	29
セットアップオプション	29
基本インストールの実行	32
アップデートのインストールの実行	37
第 5 章 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール	43
セットアップオプション	43
インストールオプション	45
サーバインストール	46
標準サーバインストールの実行	46
カスタムサーバインストールの実行	52

Common Security Services (CSS) のインストール	57
ワークステーションインストール	59
標準ワークステーションインストールの実行	59
カスタムワークステーションインストールの実行	60
第 6 章 Hyperion Distributed Applications のインストール	63
セットアップオプション	63
Hyperion Enterprise Distributed Applications Server のインストール	64
Hyperion Enterprise Distributed Applications Client のインストール	68
第 7 章 Hyperion Reporting Client インストール後のタスク	73
クライアント用 ODBC データソースの作成 (Essbase のみ)	73
ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースの作成 (Essbase のみ)	74
ODBC ワークステーションエントリの選択 (Essbase のみ)	74
ODBC の詳細設定	75
Essbase のインストールの確認	76
Hyperion Enterprise のインストールの確認	76
トラブルシューティング	76
Hyperion Enterprise Reporting Client で使用する Hyperion DataExtend のセットアップ	77
Hyperion Enterprise Reporting Client .INI ファイルのカスタマイズ (Essbase のみ)	78
Repeng prod-server-set-app.ini ファイルのカスタマイズ	79
Rw32.ini ファイルのカスタマイズ	79
Shared.ini ファイルのカスタマイズ	80
Repeng.ini ファイルの設定のカスタマイズ	81
異なる Essbase レポートディレクトリの定義	81
Essbase への複数のサーバ名の定義	82
第 8 章 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションインストール後のタスク	83
ネットワークを介した Hyperion データアクセスのための Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのセットアップ	84
エージェントモニタのログオン設定	84
FrontPage 2000 サーバ拡張機能のインストールと設定	85
インストールの確認	86
テスト 1 - Hyperion Enterprise Reporting のチェック	86
テスト 2 - 静的レポートの作成	87
テスト 3 - Web サーバへのアクセス	88
テスト 4 - Spider.dll へのアクセス	88
テスト 5 - 製品一覧からレポートへのドリルダウン	89

テスト 6 - 動的レポートへのアクセス	89
テスト 7 - 動的チャートへのアクセス	90
テスト 8 - 基準ベースのページへのアクセス	90
テスト 9 - エージェントの使用（サーバイnstoolのみ）	91
テスト 10 - Web ページからのスプレッドシートの実行	92
INI ファイル設定の必要条件	92
エージェントに対する ODBC の設定	93
第 9 章 Hyperion 分散型ツールインストール後のタスク	95
Hyperion Distributed Schedules での Hyperion DataExtend の使用	95
Hyperion Distributed Schedules クライアントソフトウェアの更新	97
サーバ INI ファイル設定の必要条件	97
サーバコンポーネントのインストール	98
始める前に	98
Hyperion 分散型ツールサーバのセットアップ	98
ネットワークを介した Hyperion データアクセスのためのシステムセッ アップ	100
第 10 章 Hyperion Enterprise Reporting のアンインストール	103
以前のリリースのアンインストール	103
第 11 章 Hyperion Enterprise Reporting のアップグレード	105
インストールのアップグレード	105
インストールの修復	105
インストールの修復	106
付録 A. Web 環境の手動設定	107
IIS の設定	107
Web サーバの設定	107
Microsoft IIS の設定	109
外部認証を使用する HER の設定	110
IIS 認証	110
索引	111

1

インストールの概要

この章の内容

概要	7
コンポーネント	7
インストールコンポーネント	8

概要

この章では、今回のリリースのオラクル社の Hyperion Enterprise Reporting に含まれる製品について説明し、各製品に対するハードウェアおよびソフトウェアの要件を示します。また、インストールする製品ごとに参照の必要な章も示します。

Microsoft Windows NT LAN Manager (NTLM)、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)、Microsoft Active Directory (MSAD) などの既存の認証サービスを使用するか、オラクル社の Hyperion(R) Enterprise をインストールするときに独自の基本認証を使用することができます。選択した認証サービスの情報は管理者によって変更されます。インストール後は、必要に応じてプロバイダを追加できます。外部認証およびシングル（単一）サインオンについて詳しくは、オラクル社の『Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting 管理者用ガイド』を参照してください。

コンポーネント

今回のリリースの Hyperion Enterprise Reporting には、次の製品が含まれています。

- Hyperion Enterprise Reporting Windows Client および Client ツール (Hyperion Analyst、Hyperion Retrieve for Reporting、Hyperion DataExtend、Hyperion Schedules を含む)
- Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション
- Hyperion 分散型ツール (Client および Server 用、Hyperion Distributed Retrieve および Hyperion Distributed Schedules を含む)

注： Hyperion Distributed Retrieve と Hyperion Distributed Schedules は、Oracle Essbase ではサポートされていません。

- Hyperion Common Logon は、いずれかの Hyperion アプリケーションに 1 回ログオンするだけで、他の Hyperion アプリケーションへもログオンできます。

インストールプログラムでは、任意の製品、またはすべての製品をインストールできます。インストール処理は、選択した製品ごとに繰り返されます。各製品の

必要条件を注意してお読みください。製品によっては、別の製品をインストールしないと正しく動作しない場合があります。

次の表に、このリリースをインストールする際に読むと役立つ項や読む順番を示します。

表 1 インストール時の参照先

インストールする製品	参照先
今回のリリースの Hyperion Enterprise Reporting に含まれるす べての製品	章順にすべての章（この章を含む）
Hyperion Enterprise Reporting Client	<ol style="list-style-type: none">1. 8 ページの「インストールコンポーネント」2. 第 2 章「インストール」3. 第 3 章「インストールの開始」4. 第 4 章「Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール」5. 第 7 章「Hyperion Reporting Client インストール後のタスク」
Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケー ション	<ol style="list-style-type: none">1. 8 ページの「インストールコンポーネント」2. 9 ページの「Hyperion Enterprise Reporting Client」3. 第 2 章「インストール」4. 第 4 章「Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール」5. 第 5 章「Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール」6. 第 8 章「Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションインストール後のタスク」
Hyperion Distributed Applications	<ol style="list-style-type: none">1. 11 ページの「Hyperion Distributed Applications」2. 第 3 章「インストールの開始」3. 第 6 章「Hyperion Distributed Applications のインストール」4. 第 9 章「Hyperion 分散型ツールインストール後のタスク」
Hyperion Common Logon	<ol style="list-style-type: none">1. 8 ページの「インストールコンポーネント」2. 第 2 章「インストール」

インストールコンポーネント

Hyperion Enterprise Reporting をインストールする際、次のコンポーネントをすべてインストールすることも、また一部のみをインストールすることもできます。

- Hyperion Enterprise Reporting Client
- Hyperion Common Logon
- Hyperion Enterprise Web アプリケーション
- Hyperion Distributed Application Server
- Hyperion Distributed Application Client

後続の項では、これらのコンポーネントのインストール処理の概要を説明します。

Hyperion Enterprise Reporting Client

この項では、Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール処理の概要を説明します。Hyperion Enterprise Reporting のこのコンポーネントのインストール手順については、[第 4 章「Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting Client は、財務データを現金出納報告書、予定財務諸表、損益計算書、および貸借対照表などの形式で表すことのできる、強力なグラフィックツールです。Hyperion Enterprise Reporting Client を使用すると、Hyperion Solutions（Hyperion Enterprise および Essbase）の製品データソースから必要なデータの検索と計算が可能になり、その結果を任意の形式で表示できます。Hyperion Enterprise Reporting Client には、次のコンポーネントが含まれています。

- Hyperion Enterprise Reporting Client
- Hyperion Retrieve for Reporting
- Hyperion DataExtend
- Hyperion Schedules

注： Hyperion Analyst、Hyperion DataExtend および Hyperion Retrieve for Reporting は、Hyperion Enterprise のみで使用できます。Essbase では使用できません。

Hyperion Enterprise Reporting Client には、次の 2 種類のインストールがあります。

- 基本インストール - Hyperion Enterprise Reporting Client の新規インストールを実行します。
- アップデートのインストール - 旧バージョンの Hyperion Enterprise Reporting Client を置き換えます。

[第 4 章「Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール」](#)では、インストールの種類別に手順を説明しています。

どちらの種類のインストールを行う場合でも、Hyperion Enterprise Reporting Client をローカルドライブから実行するか、またはネットワークサーバから実行するかをセットアップオプションで選択できます。

- 標準セットアップ - すべてのファイルをローカルドライブにインストールします。この方法でインストールした場合、ローカルドライブからプログラムファイルを実行します。
- ワークステーション用セットアップ - 必要最小限のファイルをローカルにインストールします。この方法でインストールした場合、サーバからプログラムファイルを実行します。

注： ワークステーション用セットアップを実行するには、サーバに対して標準セットアップを実行しておく必要があります。

Hyperion Common Logon

Hyperion Common Logon をサポートする Hyperion Solutions アプリケーションを実行すると、Hyperion Common Logon が自動的に読み込まれます。Hyperion Common Logon の読み込みが完了すると、システムトレイアイコンが表示されます。

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション

この項では、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール処理の概要を説明します。Hyperion Enterprise Reporting のこのコンポーネントのインストール手順については、[第 5 章「Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションは、Web サーバ、およびインターネットまたはイントラネットを使用して Hyperion Solutions アプリケーションからレポートを検索します。取得したレポートは、Web ブラウザを介してクライアントのコンピュータに配布されます。Web サーバは HTTP（ハイパーテキスト転送プロトコル）を使って情報を送信します。

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの Web サイトで、Hyperion Solutions アプリケーションのレポートにアクセスするハイパーテキストリンクを含む Web ページを作成できます。クライアントコンピュータから Web サーバにアクセスし、Hyperion Solutions アプリケーションのレポートをリクエストすると、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションによってそのリクエストが Hyperion Enterprise Reporting に渡されます。Hyperion Enterprise Reporting はアプリケーションからレポートデータを取得し、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションに渡します。データはここで HTML（ハイパーテキストマークアップ言語）に変換されてクライアントのコンピュータに送信され、Web ブラウザに表示されます。

インストールの際のクイックリファレンスとして、また問題が発生した場合のトラブルシューティングガイドとして、次のタスクリストを使用してください。インストール中またはインストール後に問題が発生するのを防ぐために、リストに記されている参照項目をすべて読んだ後、次のタスクを順番どおりに行ってください。

1. Web サーバのインストールと設定を行います。
2. 必要な Hyperion 製品を Web サーバにインストールします。
3. Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションを使用できるように各 Hyperion 製品が設定されていることを確認します。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting Readme』を参照してください。
4. Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションをインストールします。詳しくは、[第 5 章「Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール」](#)を参照してください。.INI ファイルの設定については、[92 ページの「INI ファイル設定の必要条件」](#)を参照してください。
5. サーバを再起動し、サービスが開始されたことを確認します。
6. GhostScrip など、PDF を生成するソフトウェアをインストールします。

7. Web ウィザードを使用する場合は、FrontPage 2000 と FrontPage 2000 サーバ拡張機能をインストールします。
8. ネットワークデバイスにインストールされている Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション Web サーバ以外の Hyperion アプリケーションにアクセスするために、ユーザ設定を行います。
9. システムに Hyperion Enterprise SE 4.43 がインストールされている環境で Hyperion Enterprise SE のデモアプリケーションを使用する予定がある場合は、アプリケーションの INI ファイルを変更します。詳しくは、[第 8 章「Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションインストール後のタスク」](#)を参照してください。
10. Hyperion Enterprise Reporting を実行し、すべての Hyperion アプリケーションが一覧に表示されることを確認してください。また、デフォルトのプリンタが設定されており、すべてのアプリケーションで印刷プレビュー機能を使ってレポートが表示できることも確認します。

ヒント： 代わりにテスト 1 の手順に従うこともできます。詳しくは、[86 ページの「テスト 1 - Hyperion Enterprise Reporting のチェック」](#)を参照してください。

11. [87 ページの「テスト 2 - 静的レポートの作成」](#) および [88 ページの「テスト 3 - Web サーバへのアクセス」](#) で説明されている手順に従って、テスト 2 と 3 を実行します。
12. [88 ページの「テスト 4 - Spider.dll へのアクセス」](#) で説明されている手順に従ってテスト 4 を実行し、Web サーバ上にある spider.dll にアクセスします。
13. クライアントワークステーションから Web ブラウザを実行し、テスト 4 を繰り返します。
14. [86 ページの「インストールの確認」](#) で説明されている手順に従ってテスト 5 ～ 9 を実行し、その他の Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの機能をテストします。

Hyperion Distributed Applications

この項では、Hyperion Enterprise Reporting Distributed Applications のインストール処理の概要を説明します。Hyperion Enterprise Reporting のこのコンポーネントのインストール手順については、[第 6 章「Hyperion Distributed Applications のインストール」](#)を参照してください。

Hyperion Distributed Schedules は、Hyperion Enterprise レポートをリモートデータ入力形式に変換するスプレッドシートインターフェイスを備えたプログラムです。Hyperion Distributed Schedules を使用すると、Hyperion Enterprise Reporting で作成したレポートにデータを入力したり、データを変更したりすることができます。

リモートデータ入力機能によって、クライアントワークステーションに Hyperion Enterprise、Essbase、または Hyperion Enterprise Reporting をインストールせずにアプリケーションにデータを入力できます。ユーザは、ワークステーションに

Hyperion Distributed Schedules クライアントコンポーネントをインストールするだけで済みます。

Hyperion Distributed Retrieve は、Hyperion Enterprise アプリケーション（データソース）と Microsoft Excel ワークシートの間でリモートデータを交換するための Microsoft Excel のアドインソフトウェアです。

注： Hyperion Distributed Retrieve と Hyperion Distributed Schedules は、Essbase ではサポートされていません。

Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve をインストールする前に、次のコンポーネントをインストールして設定する必要があります。

- Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ（Hyperion Enterprise または Essbase で使用）。詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。
- Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve。詳しくは、[第 6 章「Hyperion Distributed Applications のインストール」](#)を参照してください。

注： 旧バージョンの Hyperion Enterprise Reporting をアンインストールするには、[103 ページの「以前のリリースのアンインストール」](#)を参照してください。

2

インストール

この章の内容

Hyperion Enterprise Reporting のインストールに必要なシステムの条件	13
要件	15
Web サーバソフトウェア	15
サーバのインストールと設定	15
Hyperion Enterprise Reporting プリンタドライバ	15
以前のリリースからのアップグレード	16
サイレントインストール	16

この章では、ハードウェアおよびソフトウェアの要件と、Hyperion Enterprise Reporting Web または Hyperion 分散型ツールをインストールする前に行う必要があるタスクの詳細について説明します。また、レポートやパッケージを印刷できるようにコンピュータを設定する方法についても説明します。

この手順にすべて従うと、Hyperion Enterprise Reporting の各コンポーネントをインストールできます。個々のコンポーネントのインストール手順は、第 3 章以降で説明されています。

Hyperion Enterprise Reporting のインストールに必要なシステムの条件

次の表に、今回のリリースの Hyperion Enterprise Reporting に含まれる製品のシステム要件を示します。

表 2 必要システム

コンポーネント	要件
データソース 注： Hyperion Distributed Applications Client はデータソースを使用しません。	次のいずれかの製品 <ul style="list-style-type: none">● Hyperion Enterprise リリース 5.5.4、6.0、6.0.1、6.1、6.1.1、6.2、6.3、6.4、6.4.1、6.5 または 6.5.1● Essbase リリース 7.1.x、System 9 注： Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの場合、製品はサーバにのみインストールしてください。
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">● クライアント：次のいずれかの製品<ul style="list-style-type: none">○ Microsoft Windows 2003 Server、Service Pack 2○ Microsoft Windows XP Professional（クライアント）

コンポーネント	要件
	<ul style="list-style-type: none"> ○ Microsoft Vista ● サーバ：次のいずれかの製品 ○ Microsoft Windows 2003、Service Pack 2
コンピュータ	<ul style="list-style-type: none"> ● クライアント：次のいずれかの構成 <ul style="list-style-type: none"> ○ 最小システム要件：133 MHz の Pentium プロセッサ、128 MB の RAM、および 100 MB のハードディスク空き容量 ○ 推奨システム要件：200 MHz 以上の Pentium プロセッサ、256 MB 以上の RAM、および 200 MB のハードディスク空き容量 ● サーバ：次のいずれかの構成 <ul style="list-style-type: none"> ○ 最小システム要件：200 MHz の Pentium プロセッサ、および 256 MB の RAM ○ 推奨システム要件：500 MHz 以上の Pentium III プロセッサ、および 512 MB 以上の RAM
モニタおよび他の周辺装置	最低 - SVGA 1024 x 768 解像度
Web ブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> ● Microsoft Internet Explorer 7.0 および 8.0 (Fusion) ● Mozilla FireFox 2.0.0.3 ● FireFox 3 または 3.1 (Fusion) <p>注： Web ブラウザは、HTML テーブル、HTML フレーム、および基本テキスト認証プロトコルをサポートしている必要があります。</p>
その他のソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ● クライアント：Adobe Acrobat Reader 7.0 以降
Microsoft Data Access (MDAC)	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise Reporting Client：リリース 2.5 以降 ● Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションおよび Distributed Applications： <ul style="list-style-type: none"> ○ クライアント：N/A ○ サーバ：リリース 2.5 以降
Web サーバ (Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションおよび Distributed Applications のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ● クライアント：N/A ● サーバ：次のいずれかの製品 <ul style="list-style-type: none"> ○ Microsoft IIS 7.0 (Windows 2008 の場合) ○ Microsoft IIS 6.0 (Windows 2003 の場合)
アドインアプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● Hyperion Enterprise Reporting Client、Client Tools、および Distributed Tools Client：次のいずれかの製品 <ul style="list-style-type: none"> ○ Microsoft Office 2003 ○ Microsoft Office XP (2002) ○ Microsoft Office 2007 ● サーバ (Hyperion Distributed Applications 以外) <ul style="list-style-type: none"> ○ Microsoft Office 2003 ○ Microsoft Office XP (2002) ○ Microsoft Office 2007 <p>注： Web ウィザードを使用する場合、Microsoft Front Page 2000 サーバ拡張機能が必要です。</p>

要件

以下の項では、Hyperion Enterprise Reporting をインストールするための要件について説明します。

Web サーバソフトウェア

Hyperion Enterprise Reporting Web ソフトウェアをインストールする前に、指定された順序で、Web サーバに次のソフトウェアをインストールする必要があります。インストール結果の確認も行ってください。

1. 次のオペレーティングシステムのいずれか。
 - Microsoft Windows 2003 Web Edition、Service Pack 1
 - Microsoft Windows 2003 Server、Service Pack 2
 - Microsoft Windows 2008 Server
2. 以下のリリースの Microsoft Internet Information Server (IIS) のいずれか。
 - IIS 6.0 (Windows 2003 の場合)
 - IIS 7.0 (Windows 2008 の場合)
3. 次のいずれかの Hyperion 製品
 - Hyperion Enterprise リリース 5.5.4、6.0、6.0.1、6.1、6.1.1、6.2、6.3、6.4、6.4.1、6.5 または 6.5.1。インストール内容には、Hyperion Enterprise SE Release のドライバは含まれていません。Hyperion Enterprise のインストールについて詳しくは、『Hyperion Enterprise インストールガイド』を参照してください。
 - Essbase Client リリース 7.1.x、System 9。Essbase のインストールについて詳しくは、該当する製品リリースのインストールガイドを参照してください。
 - Hyperion Enterprise Reporting Client 詳しくは、[8 ページの「インストールコンポーネント」](#)を参照してください。

サーバのインストールと設定

Hyperion Enterprise Reporting Web または Hyperion 分散型ツールをインストールする前に、Web サーバをインストールする必要があります。両製品には IIS が必要です。

サーバのインストールおよび設定方法については、[付録 A「Web 環境の手動設定」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting プリントドライバ

レポートを印刷可能なファイルとして PDF 形式に変換する処理は、オープンソースの PDF 作成プログラムである GhostScript および HRPrinter で行います。レポー

トを PDF ファイルに印刷する必要があるユーザは、システムに GhostScript リリース 8.54 以降をインストールする必要があります。ファイルを PDF 形式に印刷する前に、デフォルトのプリンタとして HRPrinter をインストールして設定する必要があります。HRPrinter は Hyperion Enterprise Reporting のインストール時にデフォルトでシステムにインストールされます。インストール後に PDF ドライバのプロパティをカスタマイズする必要はありません。

また、Adobe Acrobat Reader から PDF ファイルを印刷できます。PDF ファイルを使用すると、レポートを表示または印刷するときに、Hyperion Enterprise Reporting で定義されたレポート書式を維持できます。PDF ファイルを印刷する前に、HRPrinter をサーバにインストールする必要があります。デフォルトでは、HRPrinter は Hyperion Enterprise Reporting をインストールするときにインストールされます。Hyperion Enterprise Reporting のインストールパッケージには、PDF ファイルの生成に関連するファイルが含まれています。インストール後に PDF ドライバのプロパティをカスタマイズする必要はありません。

以前のリリースからのアップグレード

旧リリースの Hyperion Enterprise Reporting Web からアップグレードする場合は、このリリースをインストールする前に、次のタスクを実行する必要があります。

- spider.prf ファイル（表示されない「隠しファイル」に設定されています）のコピーと、変更したテンプレートを、一時ディレクトリに保存します。インストールが完了したら、これらのファイルを元の位置に戻します。
- scripts または hspider ディレクトリ全体のコピーを忘れずにバックアップしてください。
- 旧リリースの Hyperion Enterprise Reporting Web および Hyperion Distributed アプリケーションをすべてアンインストールします。

サイレントインストール

同じインストールオプションを使用して複数のコンピュータに Hyperion Enterprise Reporting とそのコンポーネントをインストールする場合は、インストール設定を記録し、コマンド行からサイレントインストールを実行できます。サイレントインストールによってインストールを自動化できるので、Hyperion Enterprise Reporting とそのコンポーネントのインストールのたびに設定を指定する手間が省けます。サイレントインストールは、ワークステーションインストール専用です。

インストール設定を記録するには、まず応答ファイルを作成し、標準インストールを実行して応答ファイルに設定を記録します。その後コマンド行からサイレントインストールを実行する場合には、この応答ファイルによって標準（サイレント以外）インストールと同じインストールオプションが設定されます。

サイレントインストールを使用して、Hyperion Enterprise Reporting の次のコンポーネントのインストールを自動化できます。

- Hyperion Enterprise Reporting Windows Client セットアッププログラム
- Hyperion Common Logon

- Hyperion Enterprise Reporting Distributed Client

- ▶ サイレントインストールを使用して Hyperion Enterprise Reporting Windows Client をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 目的のインストールファイルをローカルドライブ、同じネットワークドライブの別の場所、または別のネットワークドライブにコピーします。

注： 続行する前に、旧バージョンの Hyperion Enterprise Reporting Windows Client をワークステーションからアンインストールしておく必要があります。

- 2 **【スタート】** メニューから **【ファイル名を指定して実行】** を選択します。
- 3 ネットワークドライブ上の Hyperion Enterprise Reporting インストールディレクトリにある Client フォルダへのパスを設定し、**setup -r -f1<パス>\<ファイル名>.iss** と入力します。

注： **-f1** パラメータは、ハイフン、英字の f、および数字の 1 です。**-f1** パラメータを使用すると、記録ファイル (.iss) のパスおよびファイル名を指定できます。**-f1** パラメータと **-r** パラメータの両方を同時に使用しない場合、デフォルトの記録ファイル **setup.iss** は Windows ディレクトリに作成されます。また、**-f1** パラメータに続くパスには空白文字を含めないでください。

- 4 **【ようこそ】** 画面で、**【次へ】** をクリックします。
- 5 すべての必須情報を入力して、インストールの各ステップを完了します。
オプションと設定は自動的に応答ファイル<ファイル名>.iss に記録されます。
- 6 **【完了】** をクリックして、Hyperion Enterprise Reporting Windows Client のインストールを終了します。
- 7 サイレントモードを使用して、別のコンピュータに Hyperion Enterprise Reporting Windows Client をインストールするには、次の手順に従います。

1. Hyperion Enterprise Reporting ソフトウェアを Oracle E-Delivery のサイトからダウンロードします。
2. ネットワークドライブ上の Hyperion Enterprise Reporting インストールディレクトリにある Client フォルダへのパスを設定します。
3. **setup -s -f1<パス>\<ファイル名>.iss** を実行します。ここで、パスはネットワークドライブ上の応答ファイルの場所です。

- ▶ サイレントインストールを使用して Hyperion Common Logon をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 目的のインストールファイルをローカルドライブ、同じネットワークドライブの別の場所、または別のネットワークドライブにコピーします。

注： 続行する前に、旧バージョンの Hyperion Enterprise Reporting Windows Client をワークステーションからアンインストールしておく必要があります。

- 2 **【スタート】** メニューから **【ファイル名を指定して実行】** を選択します。

- 3 ネットワークドライブ上の Hyperion Enterprise Reporting インストールディレクトリにある Common Logon フォルダへのパスを設定し、**setup -r -f1<パス>\<ファイル名>.iss** と入力します。

注： **-f1** パラメータは、ハイフン、英字の f、および数字の 1 です。**-f1** コマンドを使用すると、記録ファイル (.iss) のパスおよびファイル名を指定できます。**-f1** パラメータと **-r** パラメータの両方を同時に使用しない場合、デフォルトの記録ファイル setup.iss は Windows ディレクトリに作成されます。また、**-f1** パラメータに続くパスには空白文字を含めないでください。

- 4 [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。

オプションと設定は自動的に応答ファイル<ファイル名>.iss に記録されます。

- 5 [完了] をクリックして、Hyperion Common Logon のインストールを終了します。
- 6 サイレントモードを使用して、別のコンピュータに Hyperion Common Logon をインストールするには、次の手順に従います。
 1. Hyperion Enterprise Reporting ソフトウェアを Oracle E-Delivery のサイトからダウンロードします。
 2. ネットワークドライブ上の Hyperion Enterprise Reporting インストールディレクトリにある Common Logon フォルダへのパスを設定します。
 3. **setup -s -f1<パス>\<ファイル名>.iss** を実行します。ここで、パスはネットワークドライブ上の応答ファイルの場所です。

➤ サイレントインストールを使用して Hyperion Enterprise Reporting Distributed Client をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 目的のインストールファイルをローカルドライブ、同じネットワークドライブの別の場所、または別のネットワークドライブにコピーします。

注： 続行する前に、旧バージョンの Hyperion Enterprise Reporting Windows Client をワークステーションからアンインストールしておく必要があります。

- 2 [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- 3 ネットワークドライブ上の Hyperion Enterprise Reporting インストールディレクトリにある HSDist フォルダへのパスを設定し、**setup.exe -r -f1<パス>\<ファイル名>.iss** と入力します。

注： **-f1** パラメータは、ハイフン、英字の f、および数字の 1 です。**-f1** パラメータを使用すると、記録ファイル (.iss) のパスおよびファイル名を指定できます。**-f1** パラメータと **-r** パラメータの両方を同時に使用しない場合、デフォルトの記録ファイル setup.iss は Windows ディレクトリに作成されます。また、**-f1** パラメータに続くパスには空白文字を含めないでください。

- 4 [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。

- 5 すべての必須情報を入力して、インストールの各ステップを完了します。

オプションと設定は自動的に応答ファイル<ファイル名>.iss に記録されます。

- 6 [完了] をクリックして、Hyperion Enterprise Reporting Distributed Client のインストールを終了します。
- 7 サイレントモードを使用して、別のコンピュータに Hyperion Enterprise Reporting Distributed Client をインストールするには、次の手順に従います。
 1. Hyperion Enterprise Reporting ソフトウェアを Oracle E-Delivery のサイトからダウンロードします。
 2. ネットワークドライブ上の Hyperion Enterprise Reporting インストールディレクトリにある HSDist フォルダへのパスを設定します。
 3. **setup.exe -s -f1<パス>\<ファイル名>.iss** を実行します。ここで、パスはネットワークドライブ上の応答ファイルの場所です。

この章の内容

セットアッププログラムについて	21
ユーザーアカウント制御機能 (UAC)	24
コンポーネントの指定	24

セットアッププログラムについて

Hyperion Enterprise Reporting の各コンポーネントを選択してインストールするには、この製品用の `install.exe` ファイルを使用します。

注： 製品のインストールを始める前に、第1章「インストールの概要」に記述されているシステム要件を満たしていることを確認し、必要に応じて、第2章「インストール」の説明に従ってインストールの準備作業を行ってください。これらの作業を怠ると、インストールしたコンポーネントが正しく動作しない場合があります。

► Hyperion Enterprise Reporting セットアッププログラムを起動するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

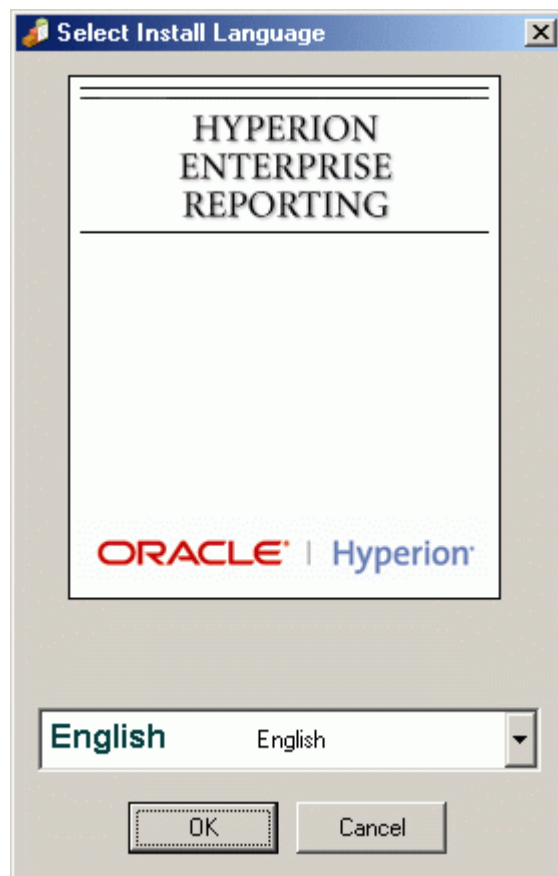
- Hyperion Enterprise Reporting ソフトウェアを Oracle E-Delivery のサイトからダウンロードした場合は、次のいずれかの操作を行います。
- インストールプログラムをダウンロードしたディレクトリに移動し、**install.exe** をダブルクリックします。
- Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、次のコマンドを [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに入力します。

Drive:\directory\install.exe

ここで、Drive および directory は、install.exe インストールプログラムがあるドライブとフォルダです。

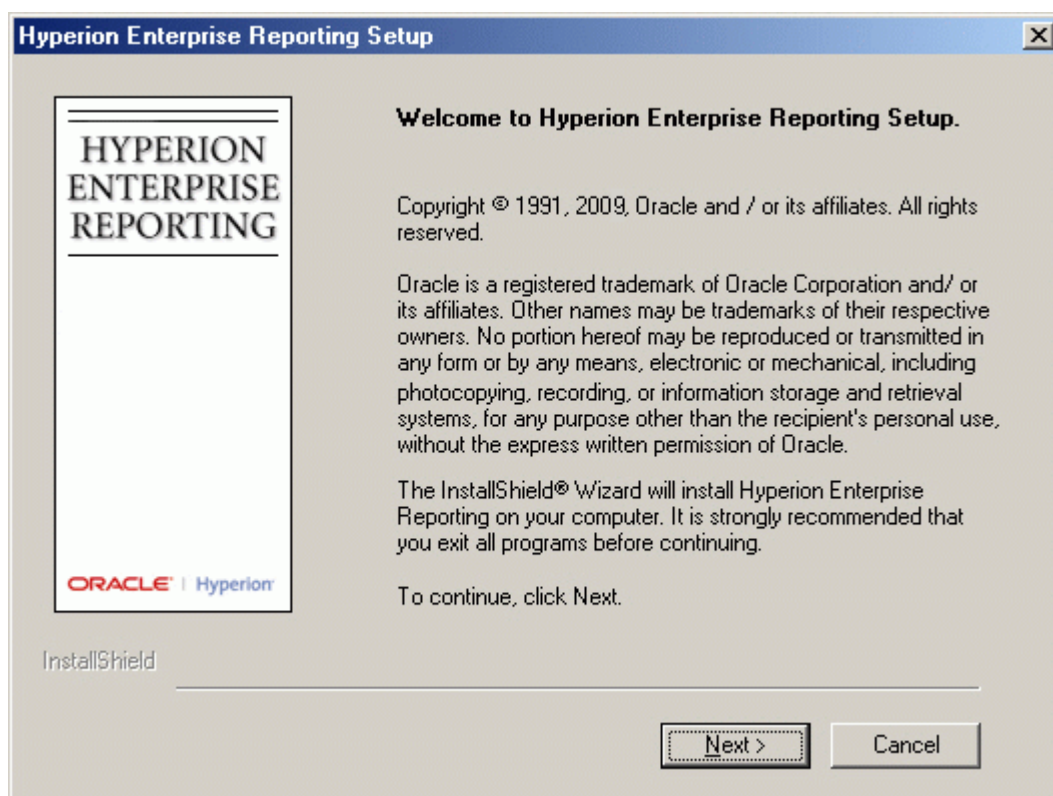
次の図に示す [Select Install Language] ダイアログボックスが表示されます。

図 1 [Select Install Language] ダイアログボックス



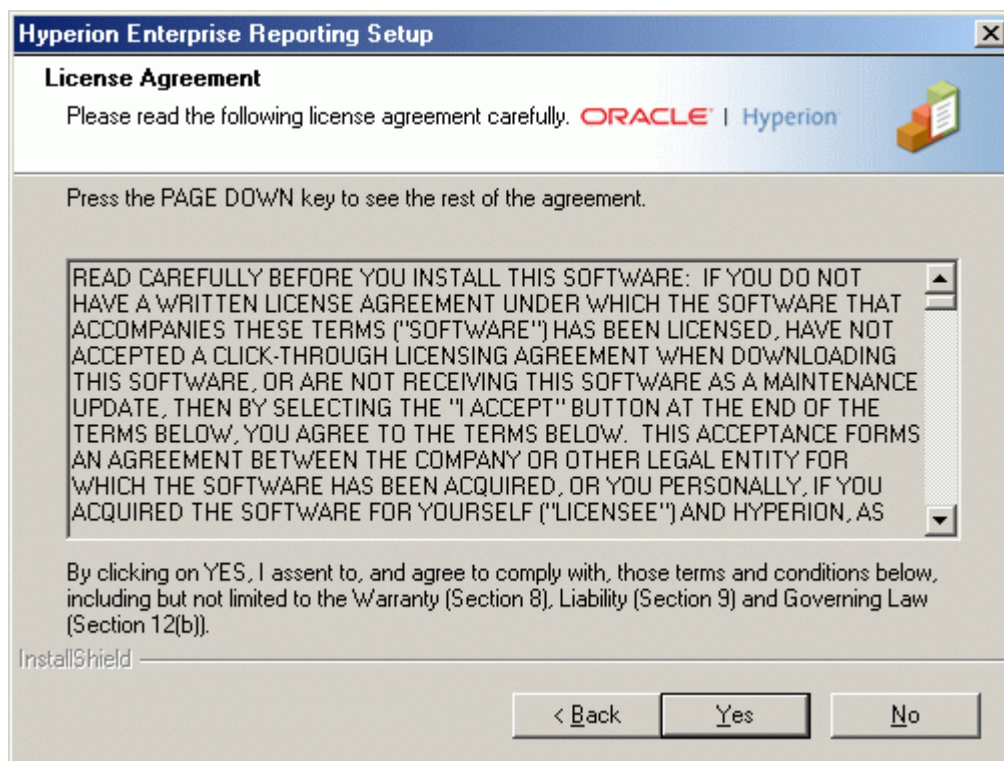
- 2 インストールする言語をドロップダウンリストから選択し、[OK] をクリックします。
次の図に示す [Hyperion Enterprise Reporting セットアップへようこそ] 画面が表示されます。

図 2 [Hyperion Enterprise Reporting セットアップへようこそ] 画面



3 [次へ] をクリックします。

[使用許諾契約] ダイアログボックスが表示されます。



4 使用許諾契約をよく読んで、次のいずれかの操作を行います。

- 前のダイアログボックスを表示するには、[戻る] を選択します。
- インストールを継続するには、[はい] を選択します。

- インストールを終了するには、[いいえ] を選択します。

使用許諾契約に関するダイアログボックスで [はい] を選択した場合は、[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。

ユーザーアカウント制御機能（UAC）

Windows Vista および Windows 2008 Server のユーザーアカウント制御機能では、安全ではない可能性があるソフトウェアが明示的な許可なくコンピュータに変更を加えることができないため、コンピュータの安全性とセキュリティが向上します。

ユーザーアカウント制御機能をサポートするために、インストール時に HYPENT_HOME フォルダが作成されます。このフォルダには、Hyperion Enterprise システム INI ファイルである hypent.ini、repeng.ini、および analyst.ini が含まれます。HYPENT_HOME の場所をインストール作業時に定義できます。Windows Vista および Windows 2008 Server の新しいセキュリティ拡張機能のため、これらの Hyperion Enterprise システム INI ファイルが WINDOWS システムフォルダから HYPENT_HOME フォルダに移動されました。

<application>.ini ファイルはアプリケーションフォルダにあります。

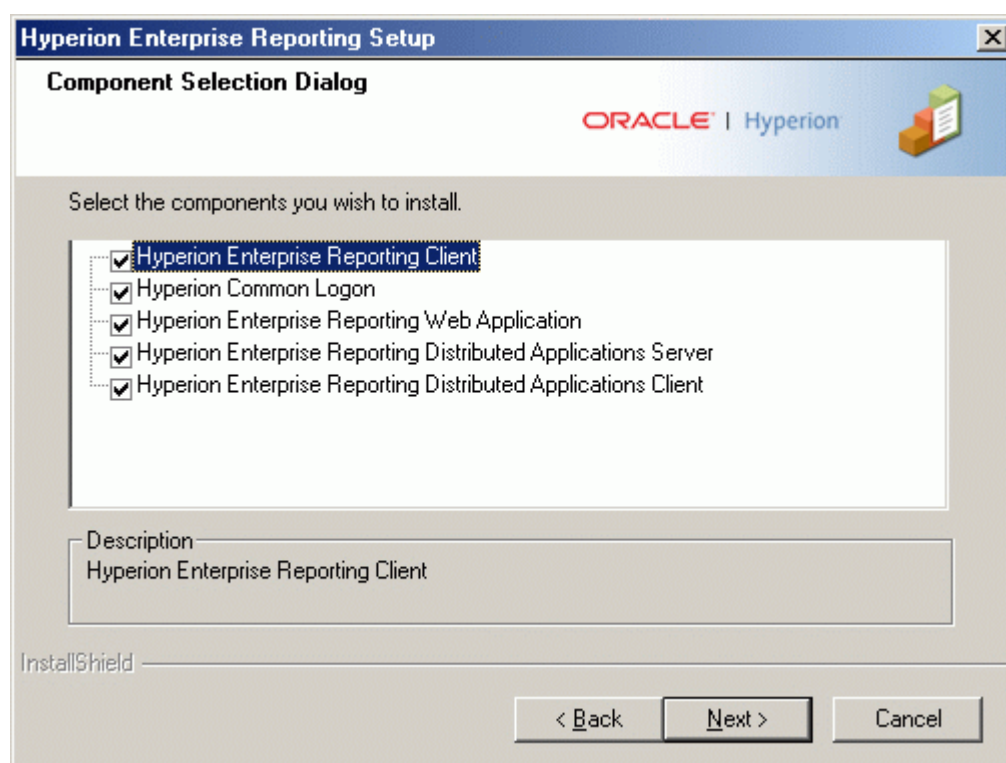
注： インストール時にシステム全体のファイルの場所を指定する場合、デフォルトの <Install Drive\hypent_home> を選択するか、カスタムの場所を指定します。Program Files フォルダまたは Windows フォルダを選択しないでください。

コンポーネントの指定

Hyperion Enterprise Reporting をインストールする際は、この製品のすべてのコンポーネントをインストールすることも、選択したコンポーネントのみをインストールすることもできます。インストールするコンポーネントの選択は、[図 3](#) に示す [コンポーネントの選択] ダイアログボックスで行います。

注： Hyperion Common Logon コンポーネントをインストールすると、いずれかの Hyperion アプリケーションに 1 度ログオンするだけで、他の Hyperion アプリケーションへもログオンできるようになります。

図 3 「コンポーネントの選択」ダイアログボックス



▶ インストールするコンポーネントを指定するには、次の手順に従います。

- 1 「コンポーネントの選択」ダイアログボックスで、インストールしないコンポーネントのチェックボックスをオフにします。
- 2 インストールするコンポーネントのチェックボックスがオンになっていることを確認し、「次へ」をクリックします。

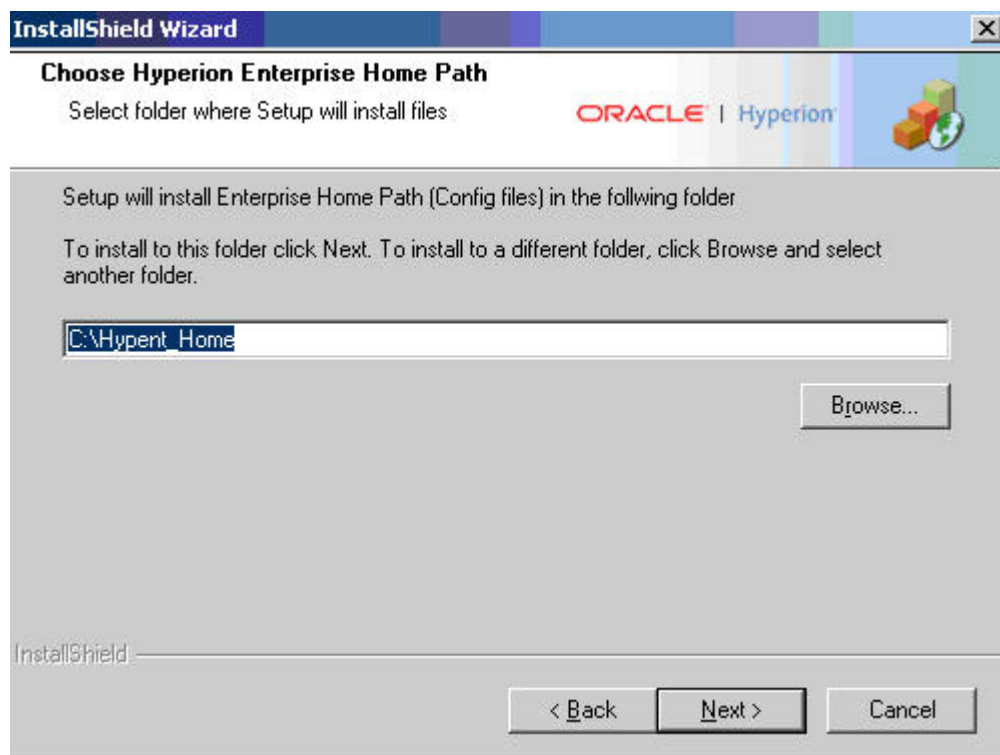
次に表示されるダイアログボックスは、選択したコンポーネントにより異なります。

次の表に、各コンポーネントのインストール手順の参照先を示します。

コンポーネント	インストール手順の参照先
Hyperion Enterprise Reporting Client	第 4 章「Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール」 を参照してください。
Hyperion Common Logon	画面に表示される指示に従ってください。
Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション	第 5 章「Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール」 を参照してください。
Hyperion Enterprise Distributed Applications Server	第 6 章「Hyperion Distributed Applications のインストール」 を参照してください。
Hyperion Enterprise Distributed Applications Client	第 6 章「Hyperion Distributed Applications のインストール」 を参照してください。

- 3 「Hyperion Enterprise Home Path (Hyperion Enterprise のホームパス)」ダイアログボックスが表示されます。

注： Hyperion Enterprise Reporting のインストールを実行しているコンピュータに Hyperion Enterprise がインストールされていて、Hyperion Enterprise のインストールおよび設定時に指定した Hypent_Home の場所が存在する場合、Hyperion Enterprise Reporting 用にこの場所を選択します。Hyperion Enterprise Reporting のインストール用に別の場所を指定すると、以前の Hypent_Home の場所は使用されなくなります。



注： 詳しくは、24 ページの「ユーザーアカウント制御機能 (UAC)」を参照してください。

1. **【参照】** をクリックします。
2. 別のインストールパスを選択するには、次の手順に従います。
[ディレクトリの選択] ダイアログボックスが表示されます。



3. Hyperion Enterprise をインストールするディレクトリを選択するか、またはディレクトリ名を入力します。フォルダが作成されます。
4. [OK] をクリックします。
5. [次へ] をクリックします。

4

Hyperion Enterprise Reporting Clientのインストール

この章の内容

セットアップオプション.....	29
基本インストールの実行.....	32
アップデートのインストールの実行.....	37

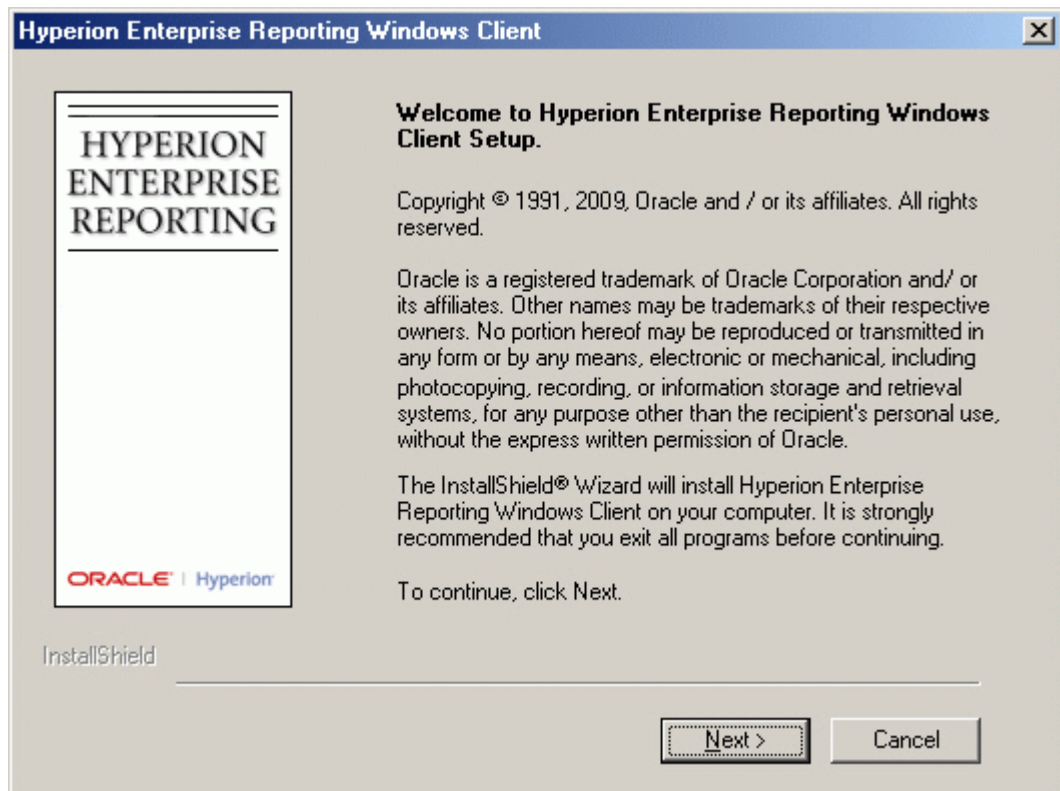
Hyperion Enterprise Reporting Client は、サーバおよびワークステーションのどちらからでも実行できるように設定できます。いずれの設定を行う場合も、アップデートのインストールまたは基本インストールを実行できます。この章では、セットアップオプションとインストールオプション、および基本インストールとアップデートのインストールの実行手順について説明します。

この時点で、Hyperion Enterprise Reporting Windows Client セットアッププログラムの「ようこそ」画面が表示されていることを確認してください。この画面が表示されていない場合は、[第3章「インストールの開始」](#)の手順に従ってください。その際、Hyperion Enterprise Reporting Client コンポーネントを必ず選択してください。

セットアップオプション

インストール開始時に「コンポーネントの選択」ダイアログボックスから「Hyperion Enterprise Reporting Client」を選択すると、次の図に示す「Hyperion Enterprise Reporting Windows Client セットアップへようこそ」ダイアログボックスが表示されます。

図 4 [Hyperion Enterprise Reporting Windows Client セットアップへようこそ] ダイアログボックス

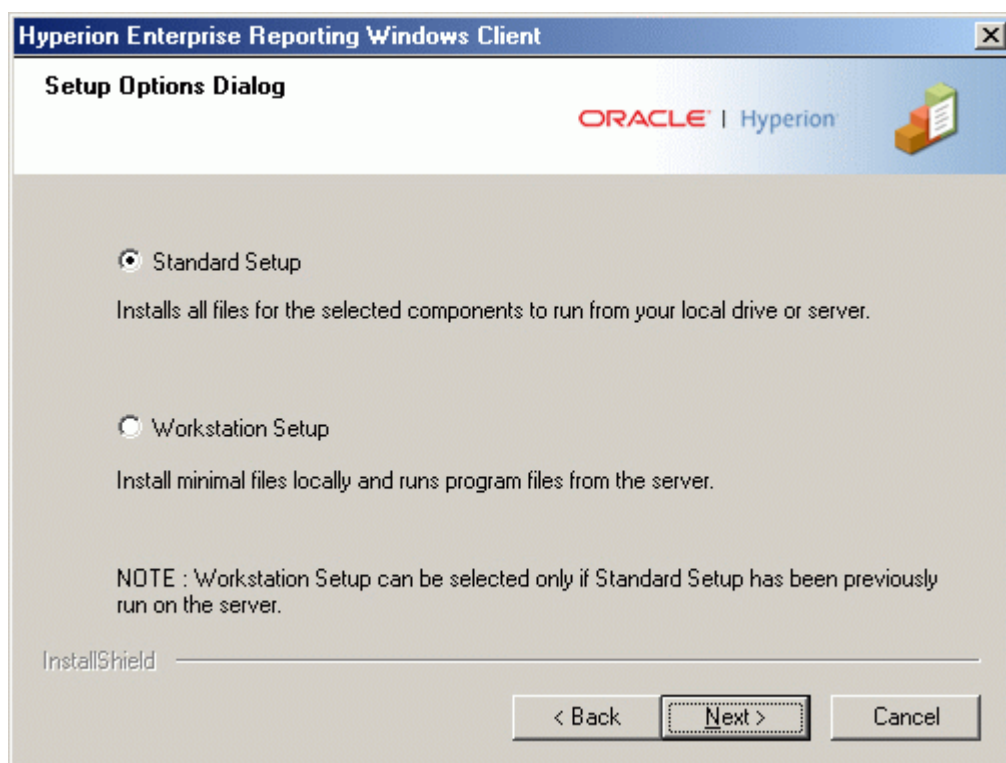


Hyperion Enterprise Reporting Client をインストールするときは、次のセットアップオプションのいずれかを選択する必要があります。

- 標準セットアップ - Hyperion Enterprise Reporting Client のすべてのファイルがインストールされ、サーバまたはワークステーションから実行されます。
- ワークステーション用セットアップ - サーバにインストールされている Hyperion Enterprise Reporting プログラムファイルをワークステーションが実行できるように、ワークステーションに最小限のファイルがインストールされます。ワークステーション用セットアップは、サーバで標準セットアップが実行された後でのみ実行することができます。

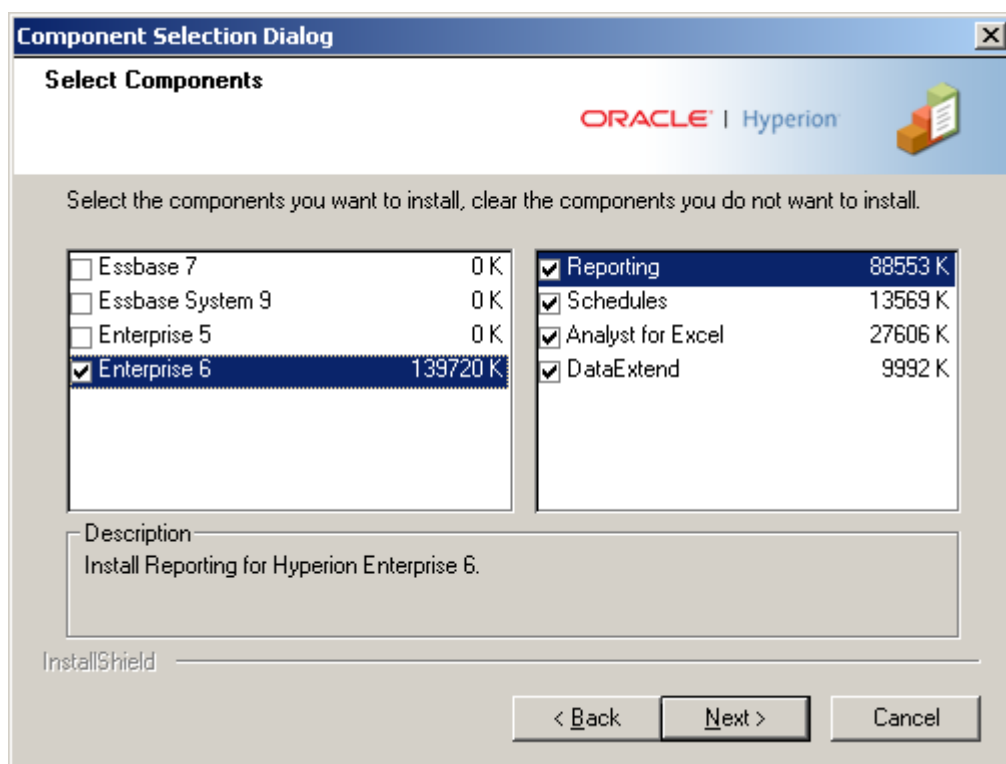
セットアップオプションの選択は、次の図に示す [セットアップオプション] ダイアログボックスで行います。

図 5 Hyperion Enterprise Reporting Client の [セットアップオプション] ダイアログボックス



次に、[コンポーネントの選択] ダイアログボックスからインストールするコンポーネントを選択します。[コンポーネントの選択] ダイアログボックスを次の図に示します。

図 6 Hyperion Enterprise Reporting Client の [コンポーネントの選択] ダイアログボックス



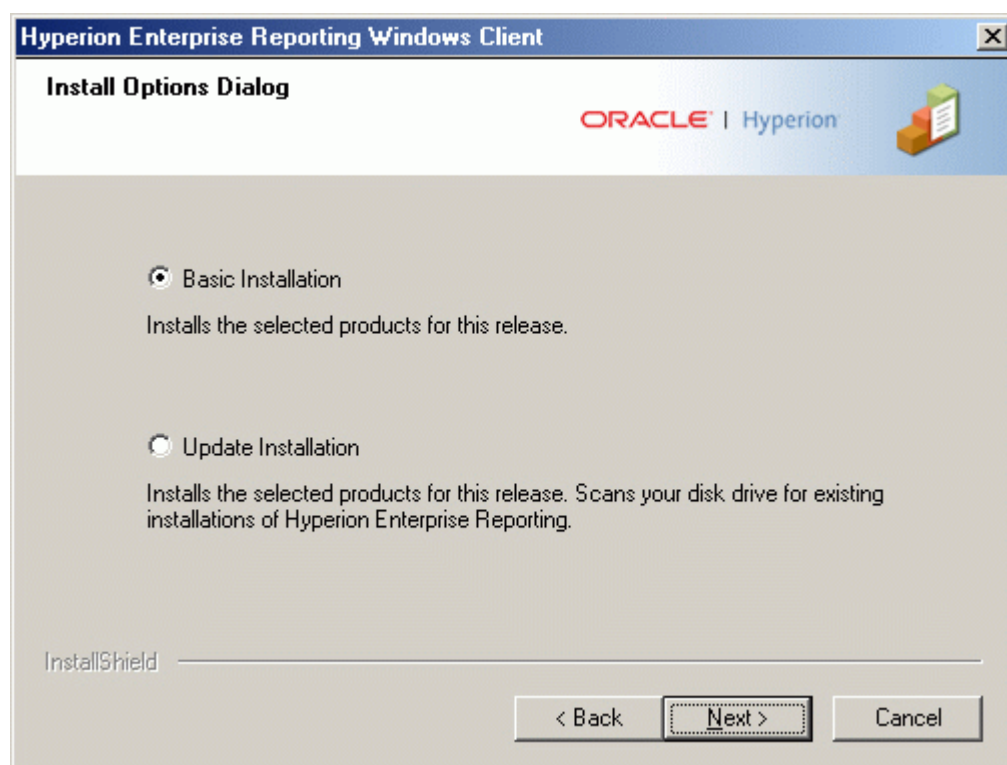
左側に、サーバに既にインストールされている Hyperion 製品が一覧表示されます。右側には、左側で選択した製品のインストール可能な Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントが一覧表示されます。

セットアップオプションおよびインストールコンポーネントを選択したら、次のインストールオプションのいずれかを選択する必要があります。

- 基本インストール - このリリースの Hyperion Enterprise Reporting Client の、選択したコンポーネントのすべてのファイルがインストールされます。
- アップデートのインストール - 以前の Hyperion Enterprise Reporting Client が存在しないかディスクがスキャンされた後、新しいファイルまたは更新されたファイルのみがインストールされます。

インストールオプションの選択は、次の図に示す [インストールオプション] ダイアログボックスで行います。

図 7 Hyperion Enterprise Reporting Client の [インストールオプション] ダイアログボックス



基本インストールの実行

基本インストールでは、Hyperion Enterprise Reporting Client および付属コンポーネントの完全なインストールが実行されます。

- 基本インストールを実行するには、次の手順に従います。
 - 1 [ようこそ] ダイアログボックス (図 4) の [次へ] をクリックします。
[セットアップオプション] ダイアログボックス (図 5) が表示されます。
 - 2 セットアップオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

[コンポーネントの選択] ダイアログボックス (図 6) が表示されます。

3 左側に表示されたインストール済みの Hyperion 製品ごとに、次の手順に従います。

1. 左側のボックスで、製品名を選択します。
2. 右側のボックスで、その製品に含まれるコンポーネントのうち、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。

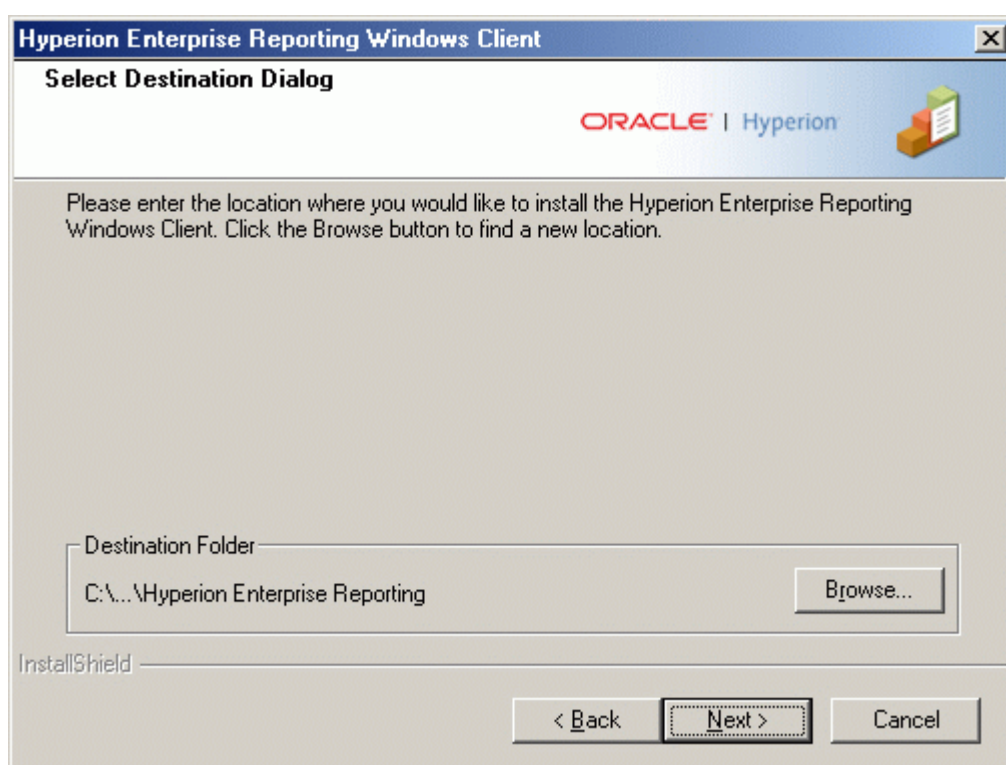
4 [次へ] をクリックします。

[インストールオプション] ダイアログボックス (図 7) が表示されます。

5 [基本インストール] を選択し、[次へ] をクリックします。

[インストール先選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 8 Hyperion Enterprise Reporting Client の [インストール先選択] ダイアログボックス



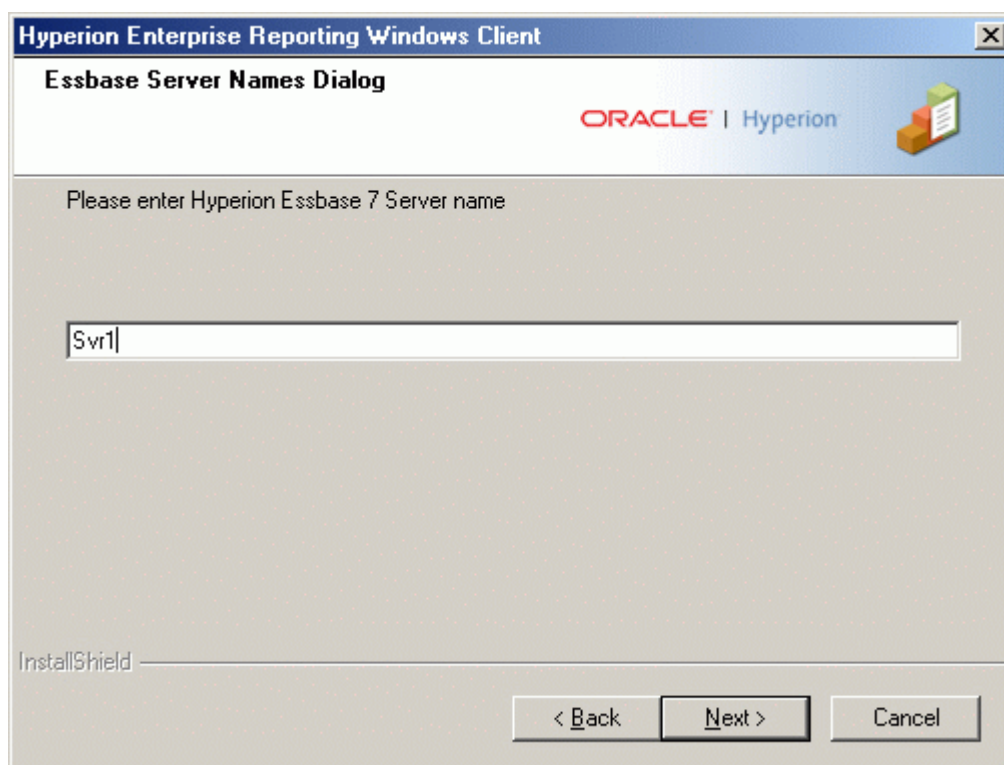
6 Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール先ディレクトリを指定します。

- デフォルトのインストール先ディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のインストール先ディレクトリを選択するには、次の手順に従います。
 1. [参照] ボタンをクリックします。
 2. 指定するディレクトリをクリックします。
 3. [OK] をクリックします。
 4. [次へ] をクリックします。

注： デフォルトのドライブは、オペレーティングシステムのあるドライブです。デフォルトのディレクトリは、\Program Files\Hyperion Solutions\Hyperion Enterprise Reporting です。

Essbase のコンポーネントをインストールしている場合は、[Essbase Server Names] ダイアログボックスが表示されます。

図 9 Hyperion Enterprise Reporting Client の [Essbase Server Names] ダイアログボックス



それ以外の場合は、[プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスが表示されます。

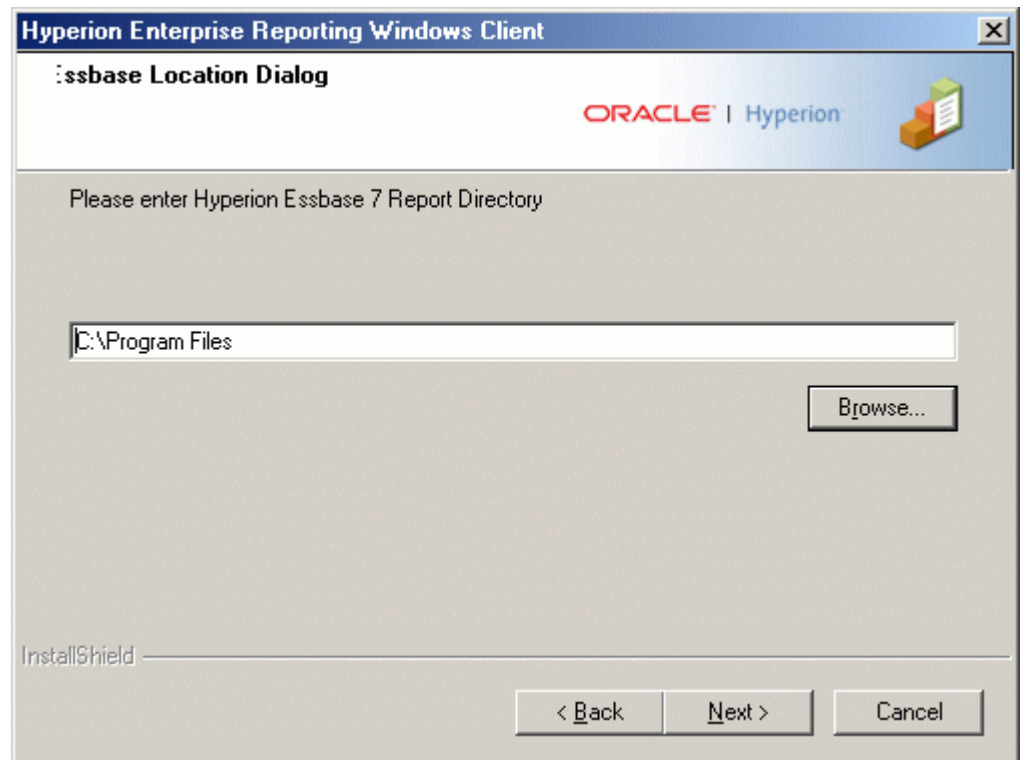
7 Essbase と使用する Hyperion Enterprise Reporting Client をインストールしている場合は、次の手順に従います。それ以外の場合は、ステップ 8 に進みます。

1. [Essbase Server Names] ダイアログボックスに Essbase のサーバ名または TCP/IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

注： サーバ名または TCP/IP アドレスは、Essbase データベースがある場所です。複数のサーバ名または TCP/IP アドレスを、Svr1|Svr2|Svr3 のように縦線で区切って入力できます。この情報は HYPENT_HOME ディレクトリの repeng.ini ファイルに保存されるため、後で編集することができます。詳しくは、[81 ページの「Repeng.ini ファイルの設定のカスタマイズ」](#)を参照してください。

[Essbase Location] ダイアログボックスが表示されます。

図 10 Hyperion Enterprise Reporting Client の [Essbase Location] ダイアログボックス



2. 次のいずれかの方法でレポートディレクトリを指定します。
 - ディレクトリ名を入力し、[次へ] をクリックします。
 - 次の手順に従って Essbase Report ディレクトリを選択します。
 1. [参照] ボタンをクリックします。
 2. 指定するディレクトリをクリックします。
 3. [OK] をクリックします。
 4. [次へ] をクリックします。

注： 指定したディレクトリが、Hyperion Enterprise Reporting Client のレポートが保存されるメインディレクトリとなります。すべてのユーザは、このディレクトリに書き込みができます。この情報は HYPENT_HOME ディレクトリの repeng.ini ファイルに保存されるため、後で編集することができます。詳しくは、[81 ページの「Repeng.ini ファイルの設定のカスタマイズ」](#)を参照してください。

次の図に示す [プログラムフォルダの選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 11 Hyperion Enterprise Reporting Client の [プログラムフォルダの選択] ダイアログボックス



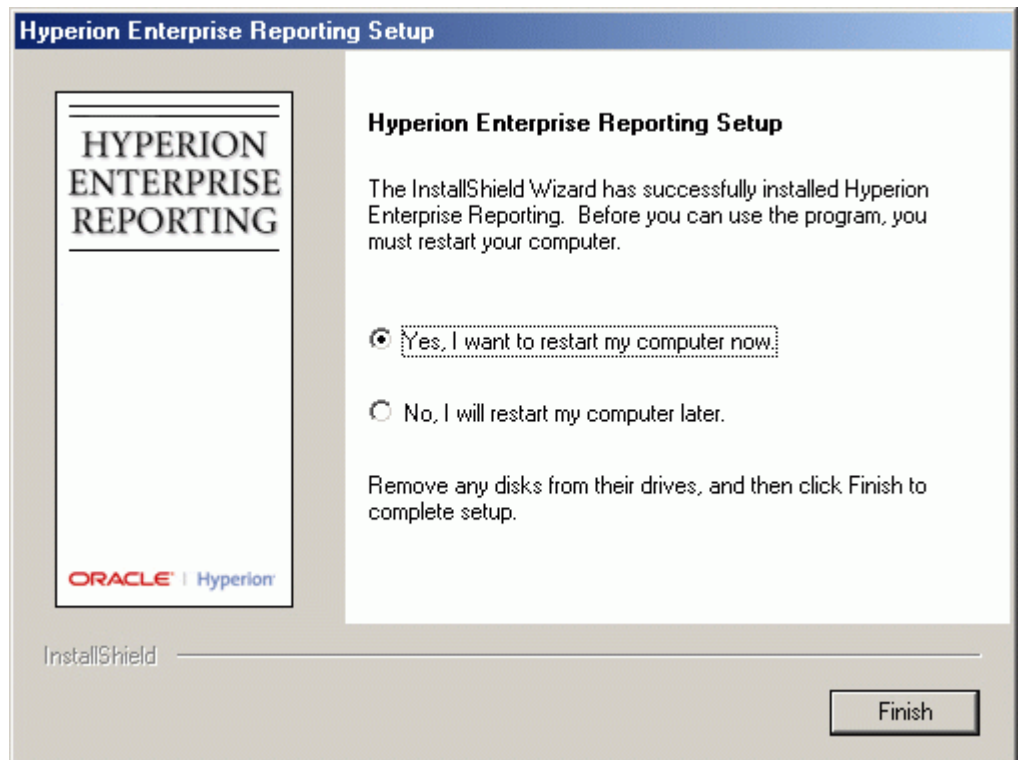
- 8 Hyperion Enterprise Reporting アイコンを登録するフォルダ名を入力するか、または既存フォルダの一覧のフォルダ名をクリックして、[次へ] をクリックします。

セットアッププログラムによって Hyperion Enterprise Reporting Windows Client がインストールされます。

- 9 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照します。
- インストールするコンポーネントが他になく、図 12 に示されているように、コンピュータを再起動するかどうかを選択するためのメッセージが表示された場合は、[はい] または [いいえ] を選択し、[完了] をクリックします。

図 12 Hyperion Enterprise Reporting インストール後の再起動の確認

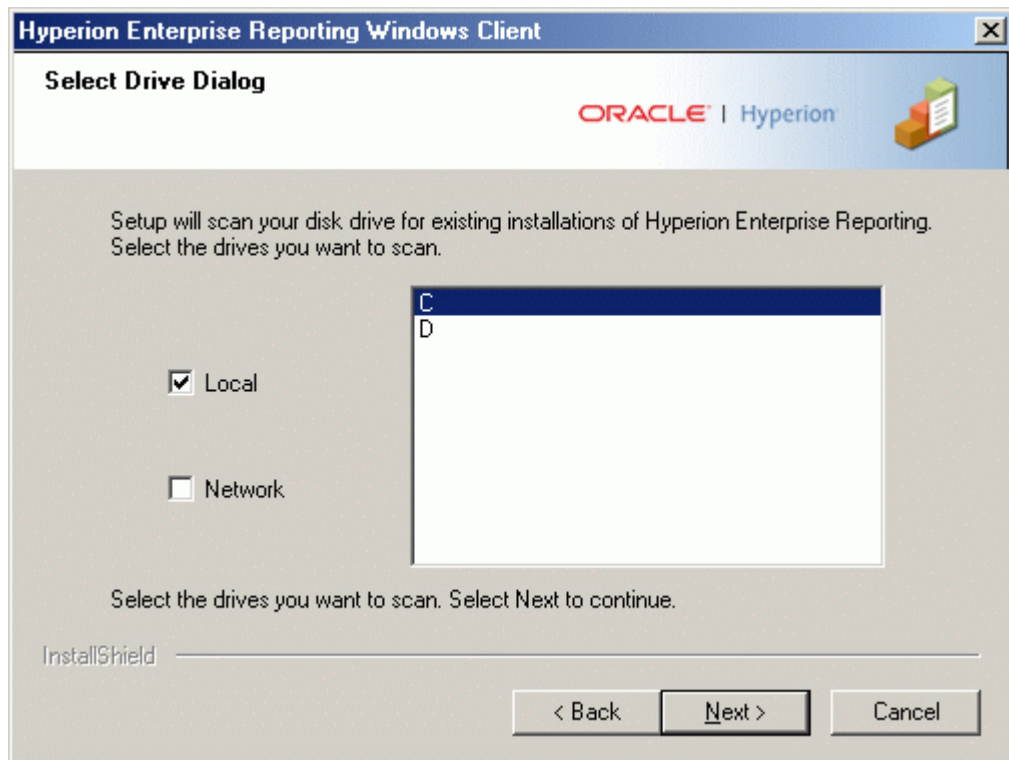


アップデートのインストールの実行

アップデートのインストールを実行すると、ユーザのローカルドライブで旧リリースの Hyperion Enterprise Reporting Client が検索され、今回のリリースの新しいファイルまたは更新されたファイルがインストールされます。旧リリースの Hyperion Enterprise Reporting を実行する場合は、アップデートのインストールを実行することをお勧めします。

- ▶ アップデートのインストールを実行するには、次の手順に従います。
- 1 [ようこそ] ダイアログボックス (図 4) の [次へ] をクリックします。
[セットアップオプション] ダイアログボックス (図 5) が表示されます。
- 2 セットアップオプションを選択し、[次へ] をクリックします。
[コンポーネントの選択] ダイアログボックス (図 6) が表示されます。
- 3 左側に表示されたインストール済みの Hyperion 製品ごとに、次の手順に従います。
 - 1. 左側のボックスで、製品名を選択します。
 - 2. 右側のボックスで、その製品に含まれるコンポーネントのうち、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。
- 4 [次へ] をクリックします。
[インストールオプション] ダイアログボックス (図 7) が表示されます。
- 5 [アップデートのインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。
次の図に示す [ドライブ選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 13 Hyperion Enterprise Reporting Client の [ドライブ選択] ダイアログボックス

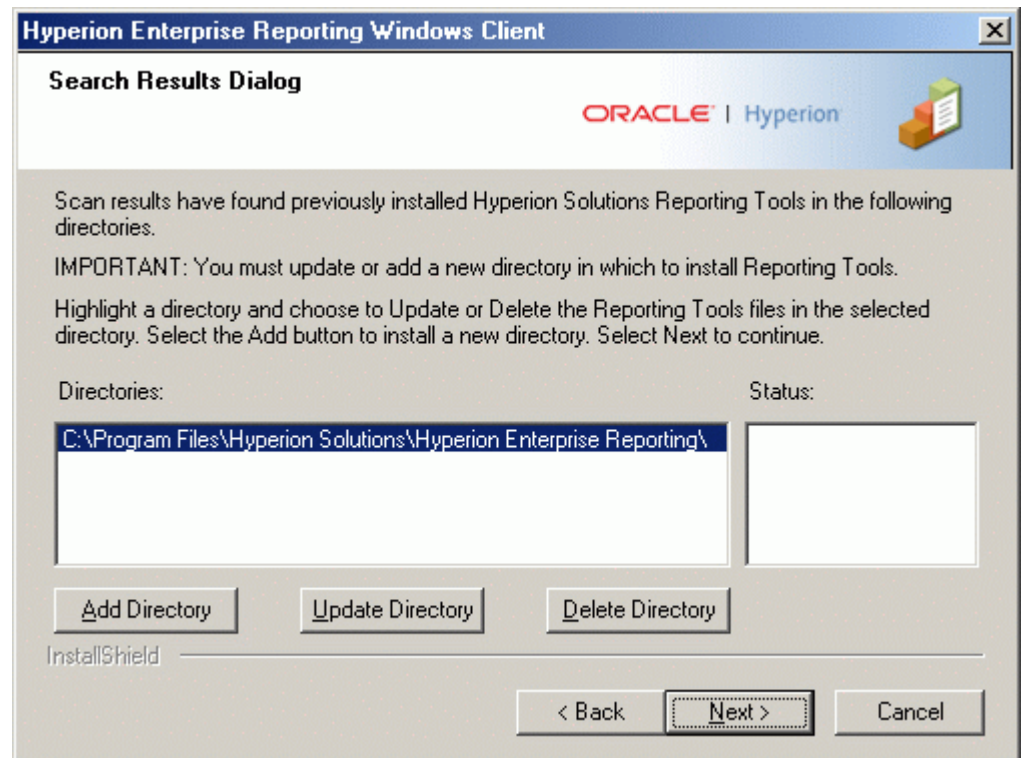


6 旧リリースの Hyperion Enterprise ReportingClient をスキャンするローカルディスクドライブまたはネットワークディスクドライブを選択します。

1. [ローカル] または [ネットワーク] チェックボックスのいずれか、あるいはその両方をオンにし、ローカルディスクドライブまたはネットワークディスクドライブを一覧表示します。
2. ディスクドライブの一覧から、スキャンする対象を選択します。
3. [次へ] をクリックします。

次の図に示す [検索結果] ダイアログボックスが表示されます。

図 14 Hyperion Enterprise Reporting Client の [検索結果] ダイアログボックス



- 7 次の1つまたは複数のオプションを使って、Hyperion Reporting Tools がインストールされるディレクトリを追加または更新し、[次へ] をクリックします。
- ディレクトリを更新するには、ディレクトリを選択して、[ディレクトリの更新] をクリックします。
 - ディレクトリを追加するには、[ディレクトリの追加] をクリックし、次の図に示す [新規ディレクトリの追加] ダイアログボックスで必要なディレクトリを追加します。

図 15 「新規ディレクトリの追加」ダイアログボックス



- ディレクトリを削除するには、ディレクトリ名を選択して「**ディレクトリの削除**」をクリックします。

注意 「検索結果」ダイアログボックスでディレクトリを削除すると、そのディレクトリはディスクドライブから削除されます。

- すべてのディレクトリをリセットするには、ディレクトリの追加、更新、または削除を行った後に表示される「**ステータス**」ボックスの下に表示される「**ステータスのリセット**」ボタンをクリックします。

Essbase のコンポーネントをインストールしている場合は、図 9 に示す「Essbase Server Names」ダイアログボックスが表示されます。

8 Essbase と使用する Hyperion Enterprise Reporting Client をインストールしている場合は、次の手順に従います。それ以外の場合は、ステップ 8 に進みます。

1. Essbase のサーバ名または TCP/IP アドレスを入力し、「**次へ**」をクリックします。

注： サーバ名または TCP/IP アドレスは、Essbase データベースがある場所です。複数のサーバ名または TCP/IP アドレスを、Svr1|Svr2|Svr3 のように縦線で区切って入力できます。この情報は HYPENT_HOME ディレクトリの repeng.ini ファイルに保存されるため、後で編集することができます。詳しくは、81 ページの「**Repeng.ini ファイルの設定のカスタマイズ**」を参照してください。

「Essbase Location」ダイアログボックス (図 7) が表示されます。

2. 次のいずれかの方法でレポートディレクトリを指定します。
 - ディレクトリ名を入力し、「**次へ**」をクリックします。
 - 次の手順に従って Essbase Report ディレクトリを選択します。

1. **【参照】** ボタンをクリックします。
2. 指定するディレクトリをクリックします。
3. **【OK】** をクリックします。
4. **【次へ】** をクリックします。

注： これは、Hyperion Enterprise Reporting Client のレポートが保存されるメインディレクトリです。すべてのユーザは、このディレクトリに書き込みができます。この情報は HYPENT_HOME ディレクトリの repeng.ini ファイルに保存されるため、後で編集することができます。詳しくは、[81 ページの「Repeng.ini ファイルの設定のカスタマイズ」](#)を参照してください。

9 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール後に、Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照してください。
- インストールするコンポーネントが他になく、[図 12](#) に示されているように、コンピュータの再起動を確認するメッセージが表示された場合は、**【はい】** または **【いいえ】** を選択し、**【完了】** をクリックします。

5

Hyperion Enterprise Reporting Webアプリケーションのインストール

この章の内容

セットアップオプション.....	43
インストールオプション.....	45
サーバインストール.....	46
ワークステーションインストール.....	59

この章では、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのサーバとワークステーションのインストール方法について説明します。

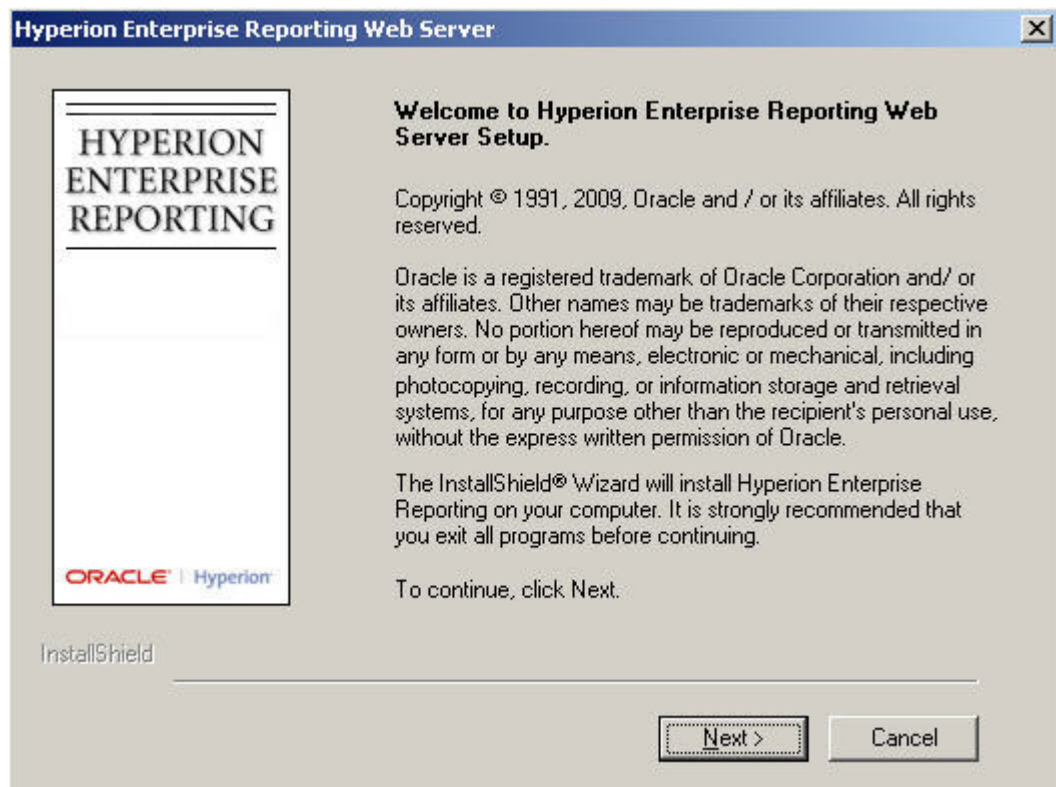
この時点で、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバセットアッププログラムの [ようこそ] 画面が表示されていることを確認してください。この画面が表示されていない場合は、第3章「インストールの開始」の手順に従ってください。その際、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションコンポーネントを必ず選択してください。

注： Hyperion Enterprise Reporting Client または Hyperion Common Logon を選択した場合、これらのコンポーネントがインストールされた後に Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストールが始まります。Hyperion Enterprise Reporting Client は、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションをインストールする前にインストールする必要があります。

セットアップオプション

インストール開始時に [コンポーネントの選択] ダイアログボックスから [Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション] を選択すると、[Hyperion Enterprise Web サーバセットアップへようこそ] ダイアログボックスが表示されます。

図 16 [Hyperion Enterprise Reporting Web サーバーセットアップへようこそ] ダイアログボックス

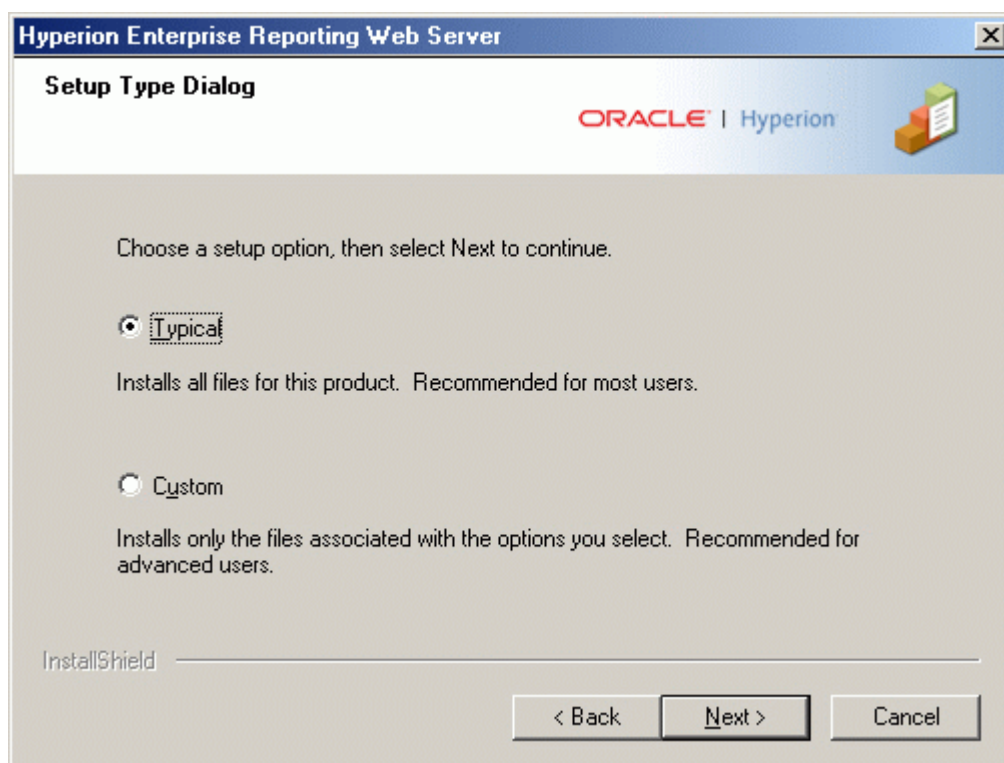


Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションをインストールするときは、次のセットアップオプションのいずれかを選択する必要があります。

- 標準 - Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのすべてのファイルをインストールします。
- カスタム - Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションファイルのうち、選択したファイルのみをインストールします。

図 17 に示すように、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの [セットアップの種類] ダイアログボックスからセットアップオプションを選択します。

図 17 Hyperion Enterprise Reporting Web サーバーの [セットアップの種類] ダイアログボックス



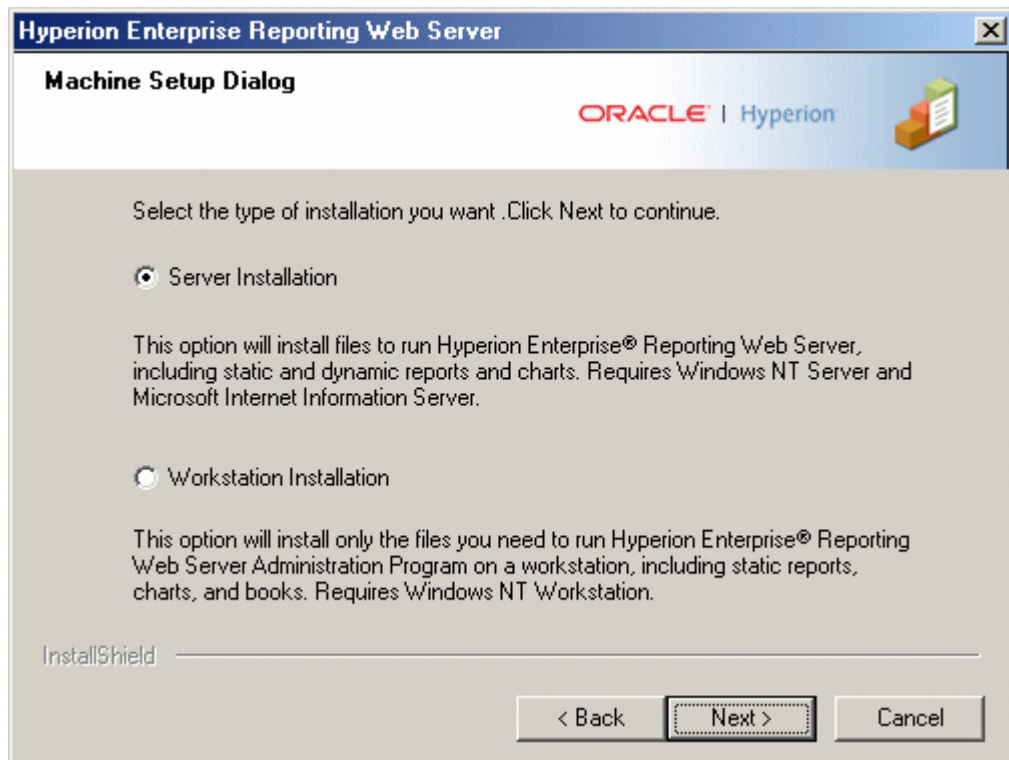
インストールオプション

Hyperion Enterprise Reporting Web Application のセットアップオプションを選択したら、次のインストールオプションのいずれかを選択する必要があります。

- サーバインストール - Hyperion Enterprise Reporting Web サーバを実行するためのファイルがインストールされます。サーバのインストールには、Windows サーバオペレーティングシステム（Windows 2003 Server または Windows 2008 Server）と IIS が必要です。詳しくは、[46 ページの「サーバインストール」](#)を参照してください。
- ワークステーションインストール - Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ管理プログラムをワークステーションで実行するために必要なファイルのみがインストールされます。ワークステーションインストールには、Windows Vista Workstation または Windows XP Workstation が必要です。ワークステーションインストールについては、[59 ページの「ワークステーションインストール」](#)を参照してください。

Hyperion Enterprise Reporting Web の [マシンセットアップ] ダイアログボックスからインストールオプションを選択します。

図 18 「マシンセットアップ」 ダイアログボックス



サーバインストール

サーバインストールでは、必要なすべてのプログラムファイルを Web サーバ上にインストールします。Windows サーバのオペレーティングシステム (Windows 2003 Server または Windows 2008 Server) および IIS が、サーバのインストールを実行するコンピュータにインストールされている必要があります。

標準サーバインストールまたはカスタムサーバインストールのいずれかを選択できます。標準サーバインストールは短時間で完了します。カスタムサーバインストールでは、インストールするファイルを選択することができます。

注： Common Security Services (CSS) をインストールする場合は、カスタムサーバインストールを実行する必要があります。

標準サーバインストールの実行

標準サーバインストールでは、Hyperion Enterprise Reporting Web のすべてのファイルがデフォルトのインストール先ディレクトリにインストールされます。

▶ 標準サーバインストールを行うには、次の手順に従います。

1 図 16 の「ようこそ」画面で、「次へ」をクリックします。

「セットアップの種類」ダイアログボックス (図 17) が表示されます。

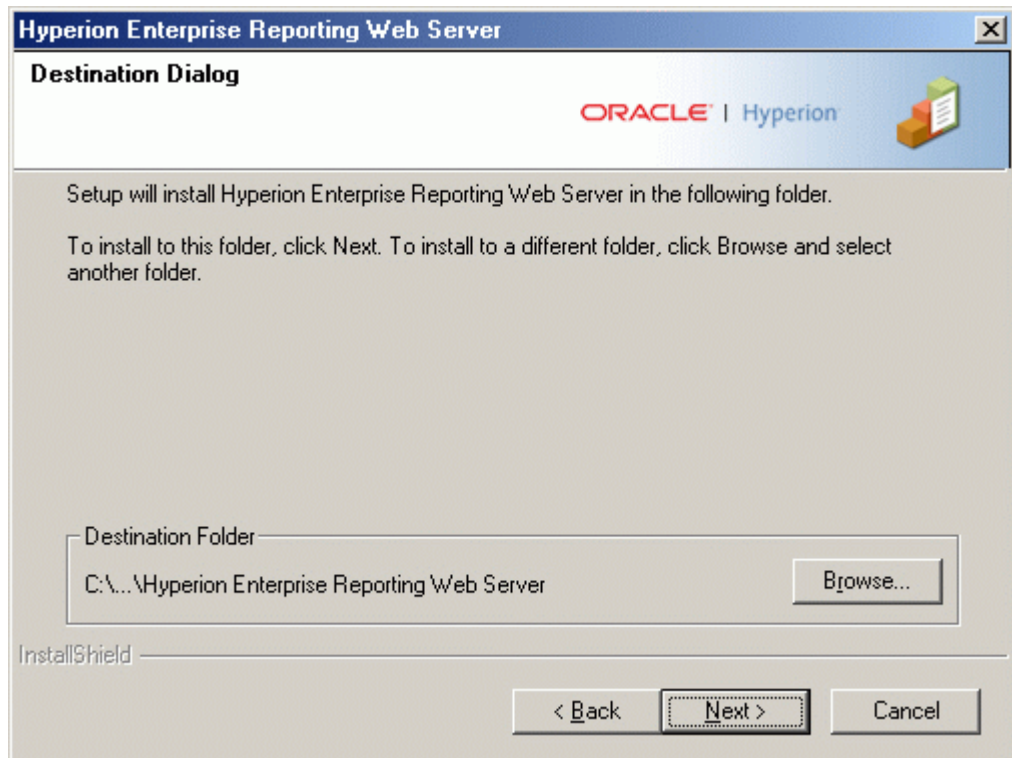
2 「標準」セットアップオプションを選択して「次へ」をクリックします。

「マシンセットアップ」ダイアログボックス (図 18) が表示されます。

3 [サーバーインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。

[インストール先] ダイアログボックスが表示されます。

図 19 Hyperion Enterprise Reporting Web サーバーの [インストール先] ダイアログボックス

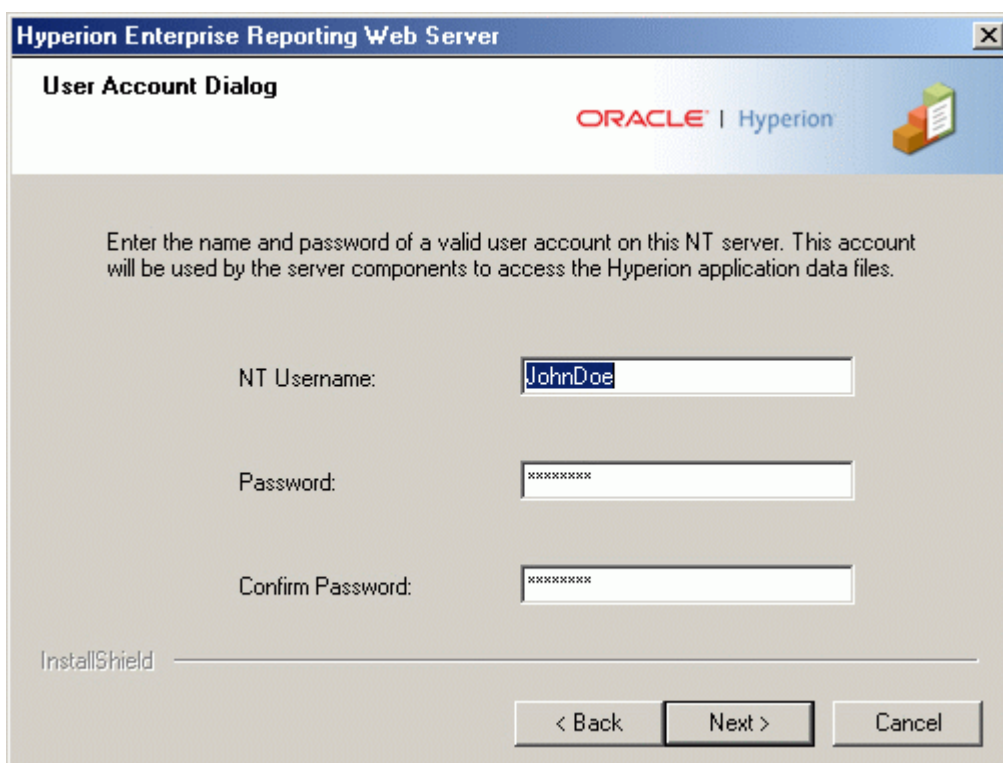


4 Hyperion Enterprise Reporting Web サーバをインストールするディレクトリを指定します。

- デフォルトのインストール先ディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のインストール先ディレクトリを選択するには、次の手順に従います。
 1. [参照] ボタンをクリックします。
 2. 指定するディレクトリをクリックします。
 3. [OK] をクリックします。
 4. [次へ] をクリックします。

次の図に示す [ユーザーアカウント] ダイアログボックスが表示されます。

図 20 [ユーザーアカウント] ダイアログボックス



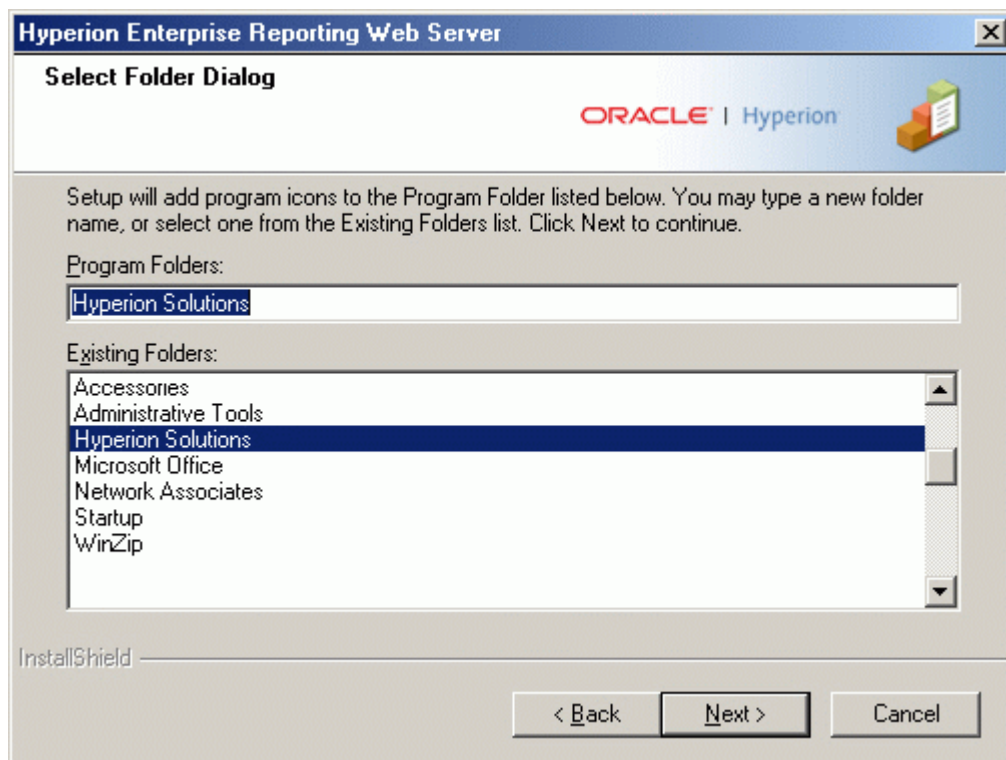
- 5 [NT ユーザー名] および [パスワード] ボックスにユーザ名とパスワードを入力します。[パスワードの確認] ボックスにパスワードを再度入力し、[次へ] をクリックします。

注： このアカウントは、サーバコンポーネントが Hyperion アプリケーションデータファイルにアクセスするために使用します。Hyperion Enterprise Reporting のアプリケーションファイルや関連製品（Hyperion Enterprise や Essbase など）が保存されているすべてのコンピュータおよびディレクトリへのアクセス権を持つユーザ名を入力する必要があります。ユーザアカウントは、後で Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ管理プログラムを使用して変更できます。[ユーザーアカウント] ダイアログボックスでは、次の形式でユーザ名を入力する必要がある場合があります。

domainname\username

次の図に示す [フォルダの選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 21 「フォルダの選択」ダイアログボックス

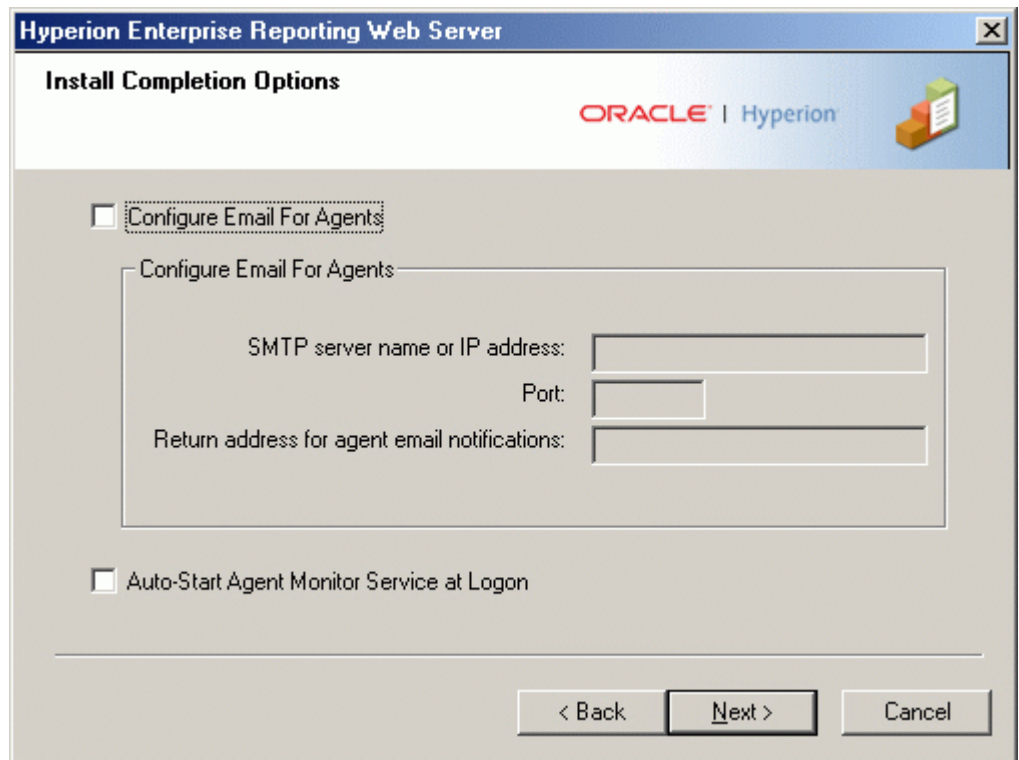


6 プログラムフォルダを指定します。

- デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のプログラムフォルダを使用する場合は、次のいずれかの方法で指定します。
 - [既存のフォルダ] リストのフォルダ名をクリックし、[次へ] をクリックします。
 - 新規プログラムフォルダにインストールする場合は、フォルダの名前を入力して [次へ] をクリックします。

次の図に示す「インストール完了オプション」ダイアログボックスが表示されます。

図 22 「インストール完了オプション」 ダイアログボックス



The dialog box is titled "Hyperion Enterprise Reporting Web Server" and "Install Completion Options". It features the Oracle Hyperion logo in the top right corner. The main content area contains two sections. The first section is titled "Configure Email For Agents" and is preceded by an unchecked checkbox. Below this title is a group box containing three text input fields: "SMTP server name or IP address:", "Port:", and "Return address for agent email notifications:". The second section is preceded by another unchecked checkbox and is labeled "Auto-Start Agent Monitor Service at Logon". At the bottom right, there are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

7 オプション：次のいずれか、または両方のタスクを実行します。

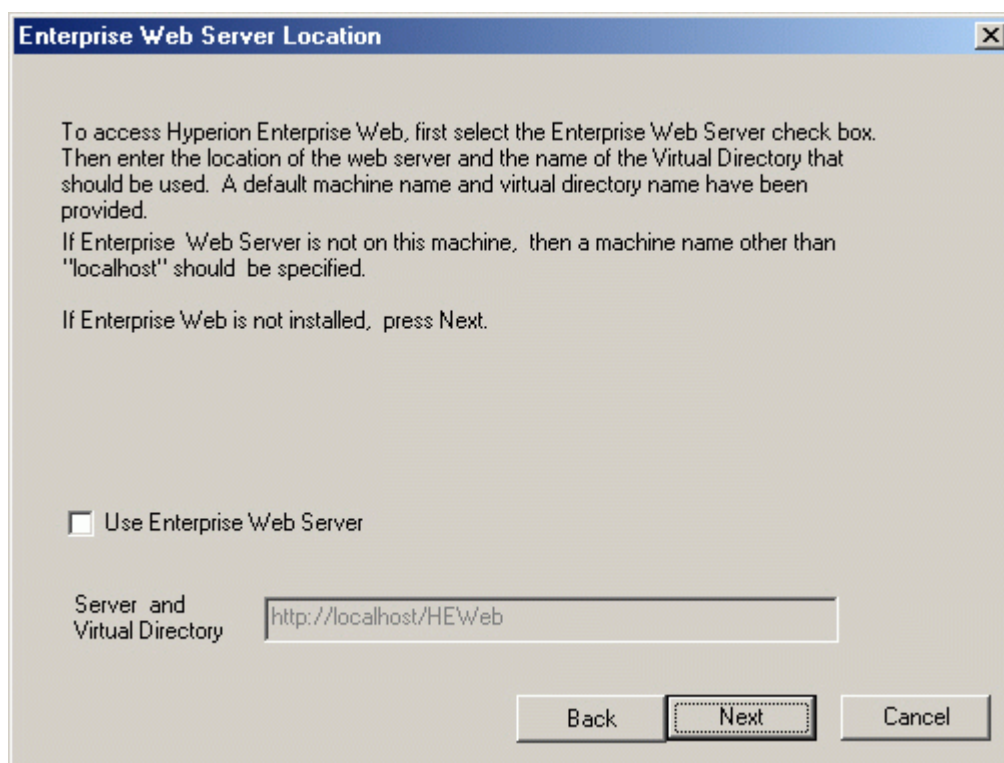
- エージェント用に電子メールを構成します。
 1. 「エージェント電子メールの構成」を選択します。
 2. SMTP サーバ名または IP アドレスを入力します。
 3. 「ポート」にポート番号を入力します。
 4. 「エージェント電子メール通知用差出人住所」に目的のメールアドレスを入力します。
- システムを再起動したときにエージェントモニタを自動的に起動するには、「ログオン時にエージェントモニタを開始」チェックボックスをオンにします。

注： Web サーバと Essbase サーバプログラムが同じコンピュータにインストールされている場合は、「ログオン時にエージェントモニタを開始」オプションは選択しないでください。

8 「次へ」をクリックします。

次の図に示す「Hyperion Enterprise Web サーバーの場所」ダイアログボックスが表示されます。

図 23 「Enterprise Web サーバーの場所」 ダイアログボックス



9 オプション：Hyperion Enterprise Reporting から Hyperion Enterprise Web サーバへアクセスできるように設定するには、次の手順に従います。

1. 「Enterprise Web サーバーの使用」チェックボックスをオンにします。
2. Hyperion Enterprise Web サーバのサーバおよび仮想ディレクトリを入力して「次へ」をクリックします。

注： Hyperion Enterprise Web サーバの場所の指定には、URL 内でスラッシュ (/) を使用してください。

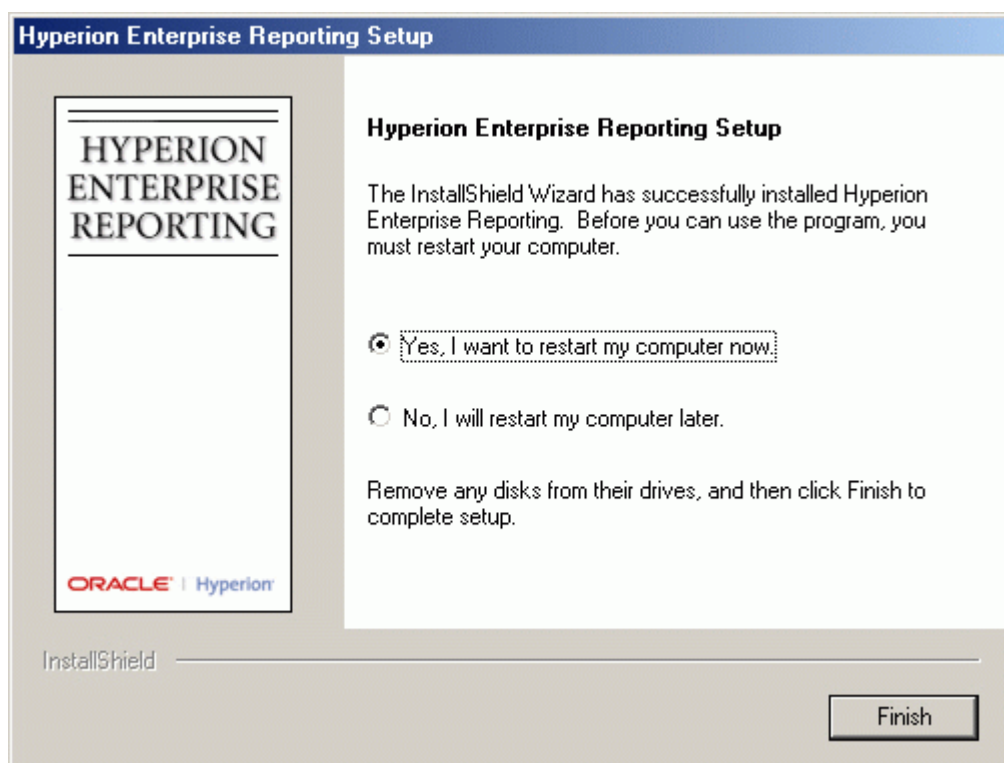
10 「次へ」をクリックします。

セットアップの進行状況を示すメッセージが表示され、セットアッププログラムによって必要なファイルがコピーされます。

11 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照します。
- インストールするコンポーネントが他になく、コンピュータを再起動するかどうかを選択するためのメッセージが表示された場合は、「はい」または「いいえ」を選択し、「完了」をクリックします。次の図に再起動の確認ダイアログボックスを示します。

図 24 Hyperion Enterprise Reporting Web インストール後の再起動の確認



注： Hyperion Enterprise Reporting を実行する前に、コンピュータを再起動する必要があります。

カスタムサーバイnstallの実行

カスタムサーバイnstallでは、Hyperion Enterprise Web サーバの指定したファイルのみがインストールされます。また、ファイルのインストール先ディレクトリを指定することもできます。

► カスタムサーバイnstallを行うには、次の手順に従います。

1 図 16 の [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。

[セットアップの種類] ダイアログボックス (図 17) が表示されます。

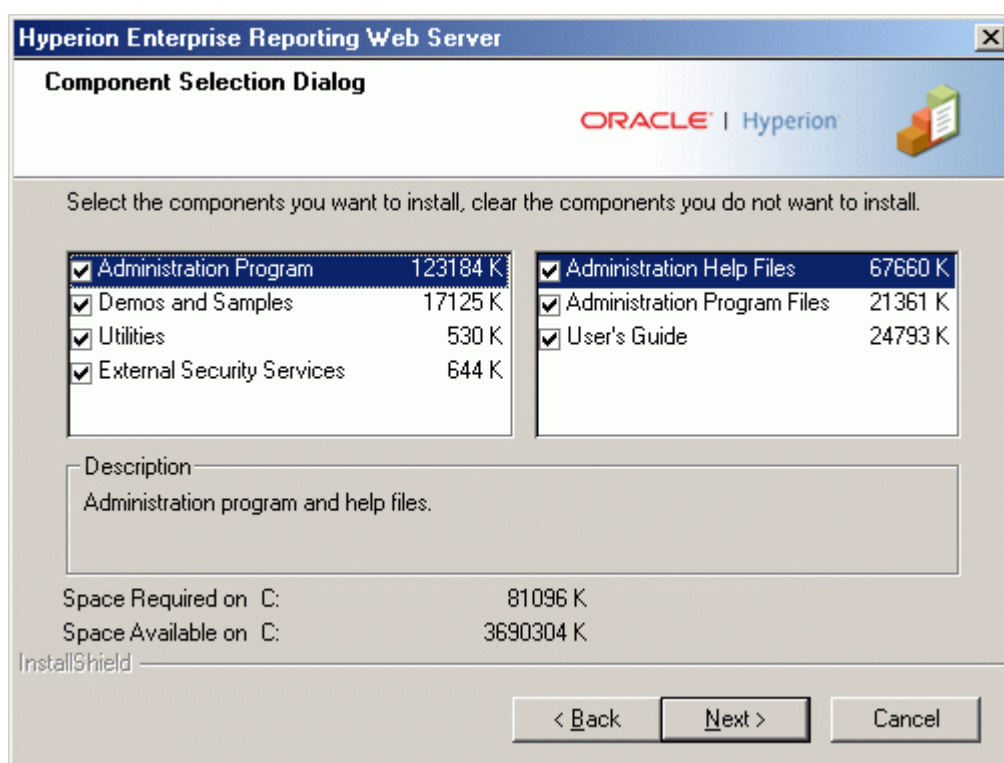
2 [カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。

[マシンセットアップ] ダイアログボックス (図 18) が表示されます。

3 [サーバーインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。

次の図に示す [コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 25 「コンポーネントの選択」 ダイアログボックス - サーバインストール



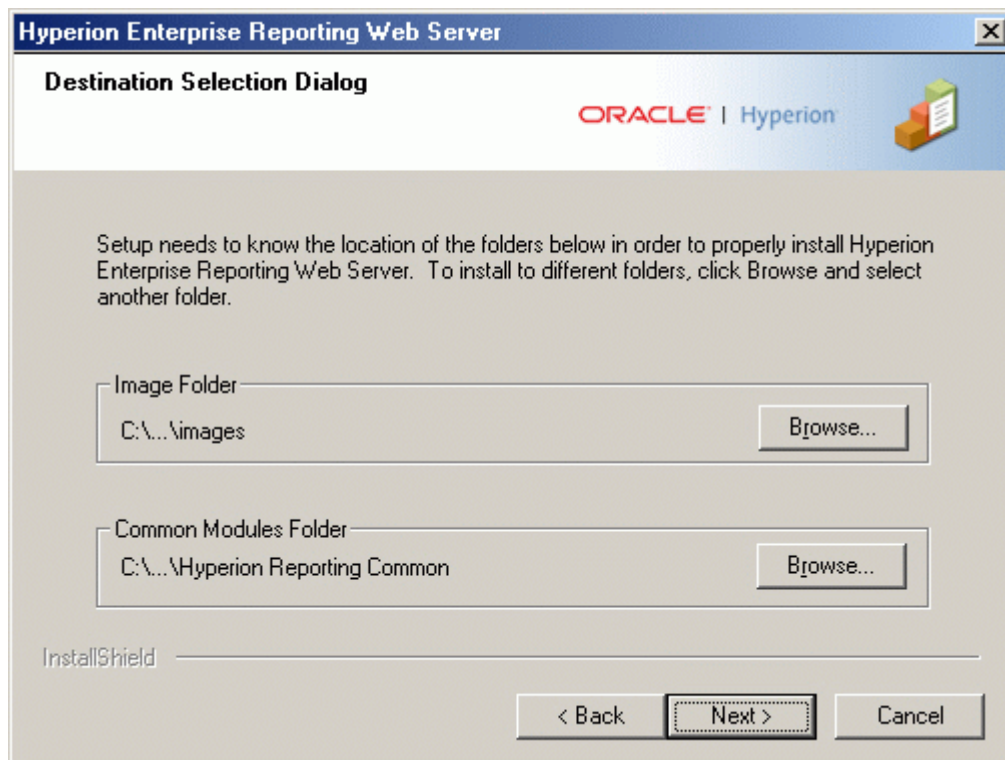
左側のボックスには、サーバインストールで選択が可能な Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの主要コンポーネントが一覧表示されます。右側には、左側で選択されている主要コンポーネントのサブコンポーネントが一覧表示されます。

- 4 インストールしない主要コンポーネントのチェックボックスをオフにします。
- 5 インストールする主要コンポーネントごとに次の手順に従い、[次へ] をクリックします。
 1. 左側のリスト内のコンポーネントが選択され、チェックボックスもオンになっていることを確認します。
コンポーネントを選択すると、そのサブコンポーネントが選択された状態で右側のリストに表示されます。
Hyperion Enterprise Reporting で外部認証を設定するには、[外部セキュリティサービス] を選択します。Hyperion Enterprise Reporting の外部認証の設定方法については、『Hyperion Enterprise Reporting 管理者用ガイド』を参照してください。
 2. 右側のボックスで、インストールしないサブコンポーネントのチェックボックスをオフにします。
[インストール先] ダイアログボックス (図 19) が表示されます。
- 6 Hyperion Enterprise Reporting Web サーバをインストールするディレクトリを指定します。
 - デフォルトのインストール先ディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
 - デフォルト以外のインストール先ディレクトリを選択するには、次の手順に従います。

1. **【参照】** ボタンをクリックします。
2. 指定するディレクトリをクリックします。
3. **【OK】** をクリックします。
4. **【次へ】** をクリックします。

次の図に示す「インストール先選択」ダイアログボックスが表示されます。

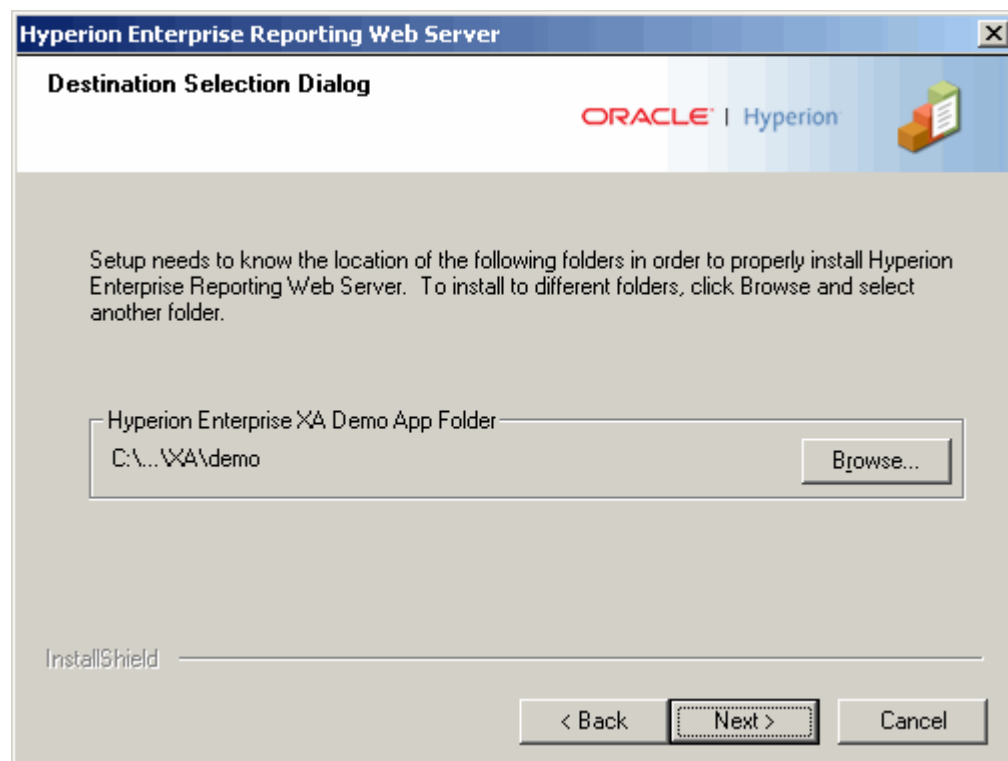
図 26 「インストール先選択」ダイアログボックス



- 7 オプション：それぞれの「インストール先選択」ダイアログボックスで、画像、共通のモジュール、またはデモアプリケーションのインストール先としてデフォルトディレクトリ以外のディレクトリを指定するには、次の手順に従います。

1. **【参照】** ボタンをクリックします。
2. 指定するディレクトリをクリックします。
3. **【OK】** をクリックします。

次の「インストール先選択」ダイアログボックスが表示されます。



4. [参照] ボタンをクリックします。
 5. 指定するディレクトリをクリックします。
 6. [OK] をクリックします。
 - 8 それぞれの [インストール先選択] ダイアログボックスでディレクトリを指定するか、またはデフォルトのディレクトリを使用するように設定した後、[次へ] をクリックします。
- [ユーザーアカウント] ダイアログボックス (図 20) が表示されます。
- 9 [NT ユーザー名] および [パスワード] ボックスにユーザ名とパスワードを入力します。[パスワードの確認] ボックスにパスワードを再度入力し、[次へ] をクリックします。

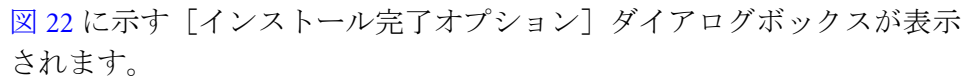
注： Hyperion Enterprise Reporting のアプリケーションファイルや関連製品 (Hyperion Enterprise や Essbase など) が保存されているすべてのコンピュータおよびディレクトリへのアクセス権を持つユーザ名を入力する必要があります。ユーザアカウントは、後で Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ管理プログラムを使用して変更できます。[ユーザーアカウント] ダイアログボックスでは、次の形式でユーザ名を入力する必要がある場合があります。

domainname\username

[フォルダ選択] ダイアログボックス (図 21) が表示されます。

- 10 プログラムフォルダを指定します。
 - デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。

- デフォルト以外のプログラムフォルダを使用する場合は、次のいずれかの方法で指定します。
 - **【既存のフォルダ】** リストのフォルダ名をクリックし、**【次へ】** をクリックします。
 - 新規プログラムフォルダにインストールする場合は、フォルダの名前を入力して **【次へ】** をクリックします。

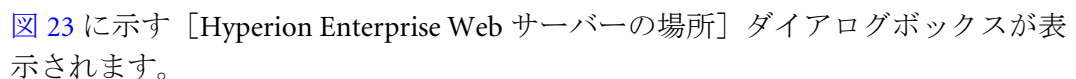
 **図 22** に示す **【インストール完了オプション】** ダイアログボックスが表示されます。

11 オプション：次のいずれか、または両方のタスクを実行します。

- エージェント用に電子メールを構成します。
 1. **【エージェント電子メールの構成】** を選択します。
 2. SMTP サーバ名または IP アドレスを入力します。
 3. ポート番号を入力します。
 4. エージェント電子メール通知に使用する電子メールアドレスを入力します。
- システムを再起動したときにエージェントモニタを自動的に起動するには、**【ログオン時にエージェントモニタを開始】** チェックボックスをオンにします。

注： Web サーバと Essbase サーバプログラムが同じコンピュータにインストールされている場合は、**【ログオン時にエージェントモニタを開始】** オプションは選択しないでください。

12 **【次へ】** をクリックします。

 **図 23** に示す **【Hyperion Enterprise Web サーバーの場所】** ダイアログボックスが表示されます。

13 オプション：Hyperion Enterprise Reporting から Hyperion Enterprise Web サーバへアクセスできるように設定するには、次の手順に従います。

1. **【Enterprise Web サーバーの使用】** チェックボックスをオンにします。
2. Hyperion Enterprise Web サーバのサーバおよび仮想ディレクトリを入力して **【次へ】** をクリックします。

注： Hyperion Enterprise Web サーバの場所の指定には、スラッシュ (/) を使用してください。

14 **【次へ】** をクリックします。

セットアップの進行状況を示すメッセージが表示され、セットアッププログラムによって必要なファイルがコピーされます。

15 次のいずれかの操作を行います。

- **【コンポーネントの選択】** ダイアログボックスから **【外部セキュリティサービス】** を選択した場合は、[57 ページの「Common Security Services \(CSS\) のインストール」](#) の手順に従います。

- Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照します。
- インストールするコンポーネントが他になく、コンピュータを再起動するかどうかを選択するためのメッセージが表示された場合は、[はい] または [いいえ] を選択し、[完了] をクリックします。図 24 に、再起動の確認ダイアログを示します。

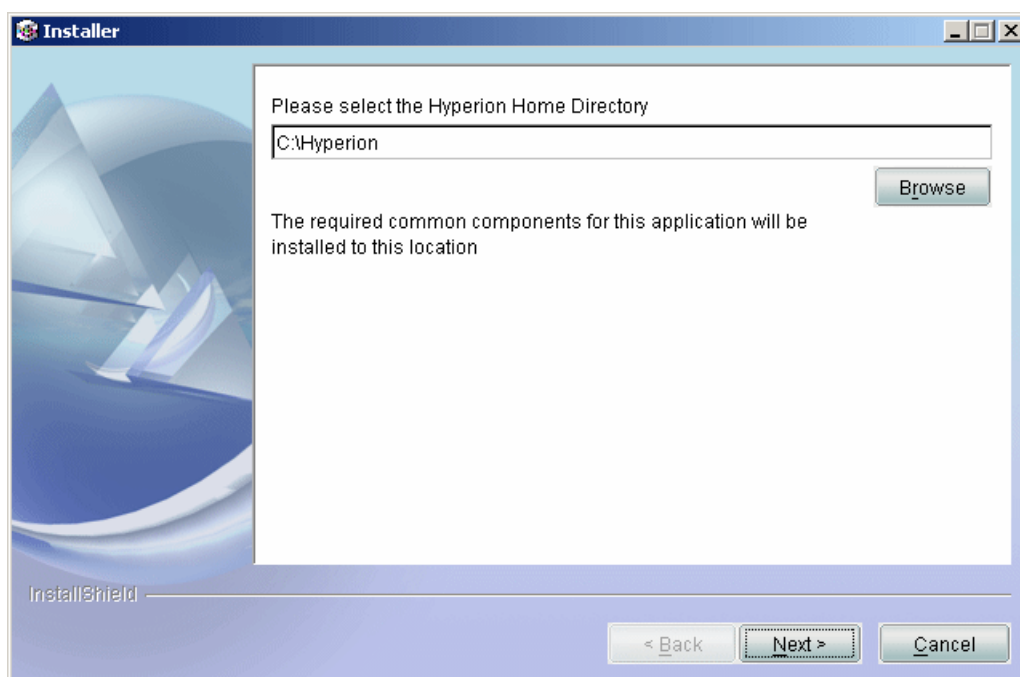
注： Hyperion Enterprise Reporting を実行する前に、コンピュータを再起動する必要があります。

Common Security Services (CSS) のインストール

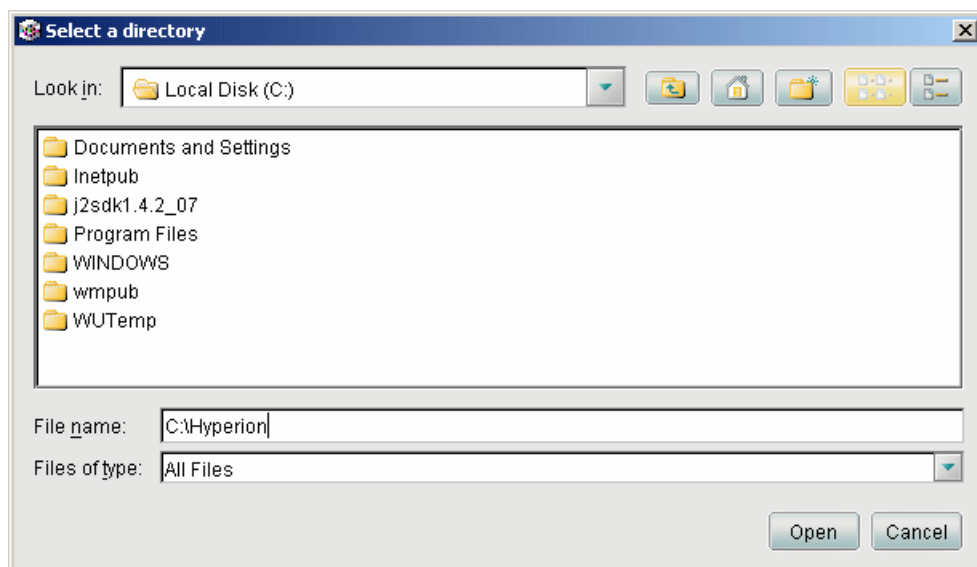
Hyperion Enterprise Reporting をインストールし、外部セキュリティサービスのインストールオプションを選択した場合は、完全インストール処理に CSS をインストールするためのステップが追加されます。

- ▶ Hyperion ホームディレクトリを設定するには、次の手順に従います。
- 1 インストールプログラム内で、Hyperion ホームのインストール先としてデフォルトのディレクトリを選択するか、[参照] をクリックします。

Hyperion ホームディレクトリが検出された場合、CSS はそのディレクトリにインストールされます。



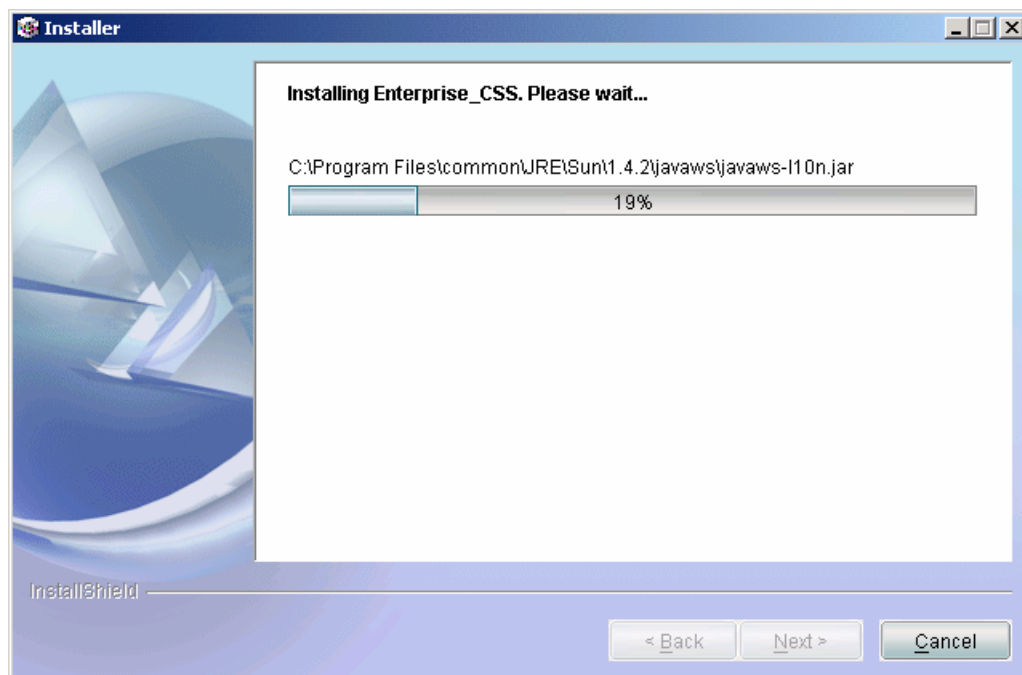
ディレクトリを選択するためのダイアログボックスが表示されます。



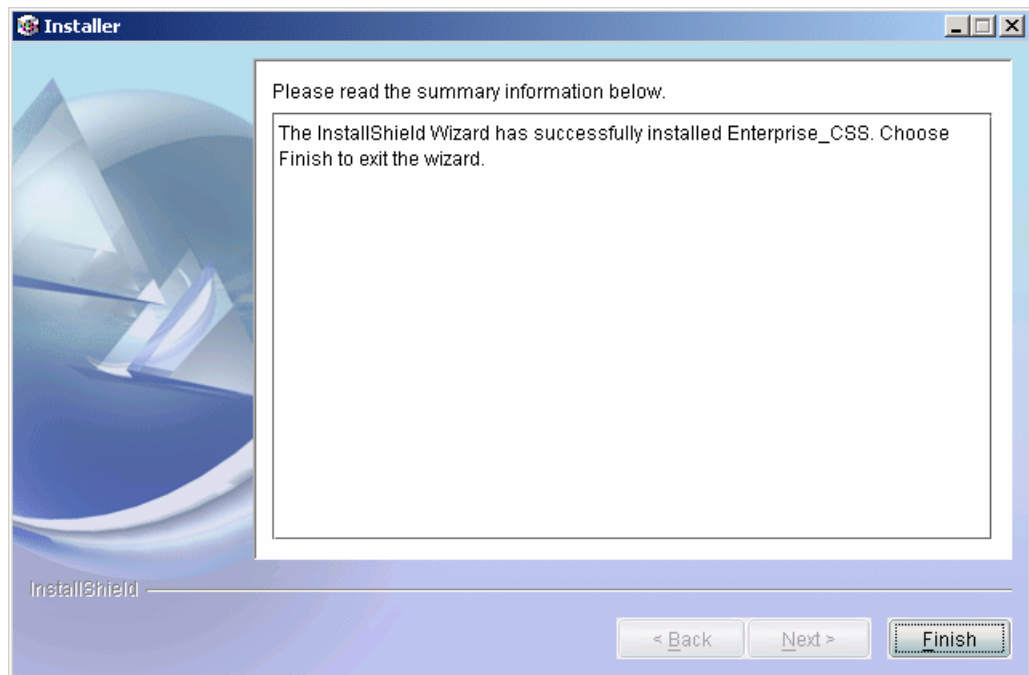
2 使用するディレクトリを選択し、[開く] をクリックします。

3 [次へ] をクリックします。

インストールの進行状況を示すダイアログボックスが表示されます。



インストールが正常に終了すると、サマリ情報を示すダイアログボックスが表示されます。



- 4 [完了] をクリックします。

ワークステーションインストール

ワークステーションインストールでは、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ管理プログラムをワークステーションで実行するために必要なファイルのみがインストールされます。標準ワークステーションインストールまたはカスタムワークステーションインストールのいずれかを選択できます。

標準サーバインストールは短時間で完了します。カスタムサーバインストールでは、インストールするファイルを選択することができます。

注： ワークステーションインストール時に、ポストスクリプトファイルの管理などの HRPrinter アクティビティを管理するために、フォルダがワークステーションに作成されます。

標準ワークステーションインストールの実行

標準ワークステーションインストールでは、ワークステーションからの実行に必要なすべての Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションコンポーネントがインストールされます。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting Web Application の標準ワークステーションインストールを行うには、次の手順に従います。

- 1 図 16 の [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。

[セットアップの種類] ダイアログボックス (図 17) が表示されます。

- 2 [標準] を選択して [次へ] をクリックします。

[マシンセットアップ] ダイアログボックス (図 18) が表示されます。

3 [ワークステーションインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。

[インストール先] ダイアログボックス (図 19) が表示されます。

4 Hyperion Enterprise Reporting Web サーバをインストールするディレクトリを指定します。

- デフォルトのインストール先ディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のインストール先ディレクトリを選択するには、次の手順に従います。

1. [参照] ボタンをクリックします。
2. 指定するディレクトリをクリックします。
3. [OK] をクリックします。
4. [次へ] をクリックします。

[フォルダ選択] ダイアログボックス (図 21) が表示されます。

5 プログラムフォルダを指定します。

- デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のプログラムフォルダを使用する場合は、次のいずれかの方法で指定します。
 - 既存のプログラムフォルダを使用する場合は、[参照] ボタンをクリックして目的のフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
 - 新規プログラムフォルダにインストールする場合は、フォルダの名前を入力して [次へ] をクリックします。

6 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール後に、Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照してください。
- インストールするコンポーネントが他になく、コンピュータを再起動するかどうかを選択するためのメッセージが表示された場合は、[はい] または [いいえ] を選択し、[完了] をクリックします。図 24 に、再起動の確認ダイアログを示します。

カスタムワークステーションインストールの実行

カスタムワークステーションインストールでは、ワークステーションから実行するように指定した Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションコンポーネントのみがインストールされます。

- Hyperion Enterprise Reporting Web Application のカスタムワークステーションインストールを行うには、次の手順に従います。

1 図 16 の [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。

[セットアップの種類] ダイアログボックス (図 17) が表示されます。

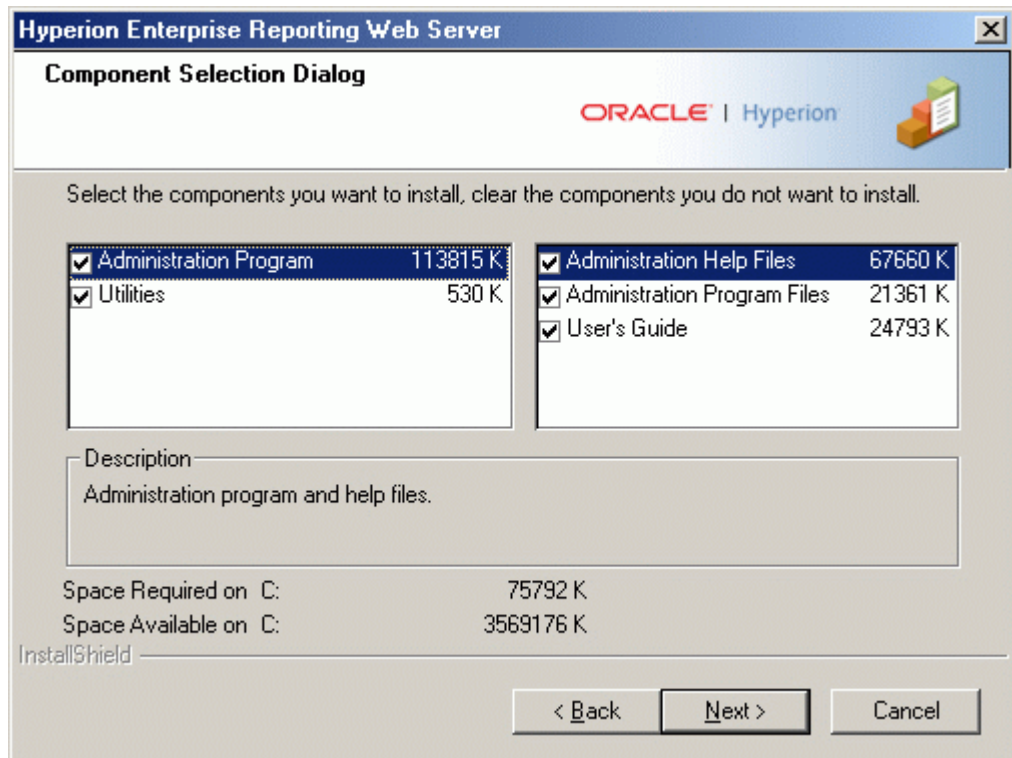
2 [カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。

[マシンセットアップ] ダイアログボックス (図 18) が表示されます。

3 [ワークステーションインストール] を選択し、[次へ] をクリックします。

次の図に示す [コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。

図 27 [コンポーネントの選択] ダイアログボックス - ワークステーションインストール



左側には、ワークステーションインストールで選択が可能な Hyperion Enterprise Reporting Web Application の主要コンポーネントが一覧表示されます。右側には、左側で選択されている主要コンポーネントのサブコンポーネントが一覧表示されます。

4 左側のボックスで、インストールしない主要コンポーネントのチェックボックスをオフにします。

5 インストールする主要コンポーネントごとに次の手順に従い、[次へ] をクリックします。

1. 左側のリスト内のコンポーネントが選択され、チェックボックスもオンになっていることを確認します。

コンポーネントを選択すると、そのサブコンポーネントが選択された状態で右側のリストに表示されます。

2. 右側のボックスで、インストールしないサブコンポーネントのチェックボックスをオフにします。

[インストール先] ダイアログボックス (図 19) が表示されます。

6 Hyperion Enterprise Reporting Web サーバをインストールするディレクトリを指定します。

- デフォルトのインストール先ディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のインストール先ディレクトリを選択するには、次の手順に従います。
 1. [参照] ボタンをクリックします。
 2. 指定するディレクトリをクリックします。
 3. [OK] をクリックします。
 4. [次へ] をクリックします。

[インストール先選択] ダイアログボックス (図 26) が表示されます。

7 次のいずれかの操作を行います。

- 画像と共通モジュール用にデフォルトのディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
 - 画像または共通モジュールの一方、あるいはその両方を保存するディレクトリを変更するには、[画像フォルダ] ボックスまたは [共通モジュールフォルダ] ボックスの [参照] ボタンをクリックして別のディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。
- [フォルダ選択] ダイアログボックス (図 21) が表示されます。

8 プログラムフォルダを指定します。

- デフォルトのプログラムフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- デフォルト以外のプログラムフォルダを使用する場合は、次のいずれかの方法で指定します。
 - 既存のプログラムフォルダを使用する場合は、[参照] ボタンをクリックして目的のフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
 - 新規プログラムフォルダにインストールする場合は、フォルダの名前を入力して [次へ] をクリックします。

9 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール後に、Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照してください。
- インストールするコンポーネントが他になく、コンピュータを再起動するかどうかを選択するためのメッセージが表示された場合は、[はい] または [いいえ] を選択し、[完了] をクリックします。図 24 に、再起動の確認ダイアログを示します。

注： Hyperion Enterprise Reporting を実行する前に、コンピュータを再起動する必要があります。

この章の内容

セットアップオプション.....	63
Hyperion Enterprise Distributed Applications Server のインストール.....	64
Hyperion Enterprise Distributed Applications Client のインストール	68

この2つのコンポーネントの一方をインストールするか、または両方をインストールするかについては、Hyperion Enterprise Reporting のインストール時に選択できます。詳しくは、[24 ページの「コンポーネントの指定」](#)を参照してください。

ここでは、Hyperion Enterprise Reporting のどのコンポーネントを選択したかによって、次の画面のいずれかが表示されます。

- Hyperion Enterprise Reporting Distributed Applications Server セットアップへようこそ
- Hyperion Enterprise Reporting Distributed Applications Client セットアップへようこそ

この2つ以外の画面が表示されたときは、[第3章「インストールの開始」](#)の手順に従ってください。その場合、Hyperion Enterprise Reporting Distributed Application のいずれかのコンポーネントを必ず選択してください。

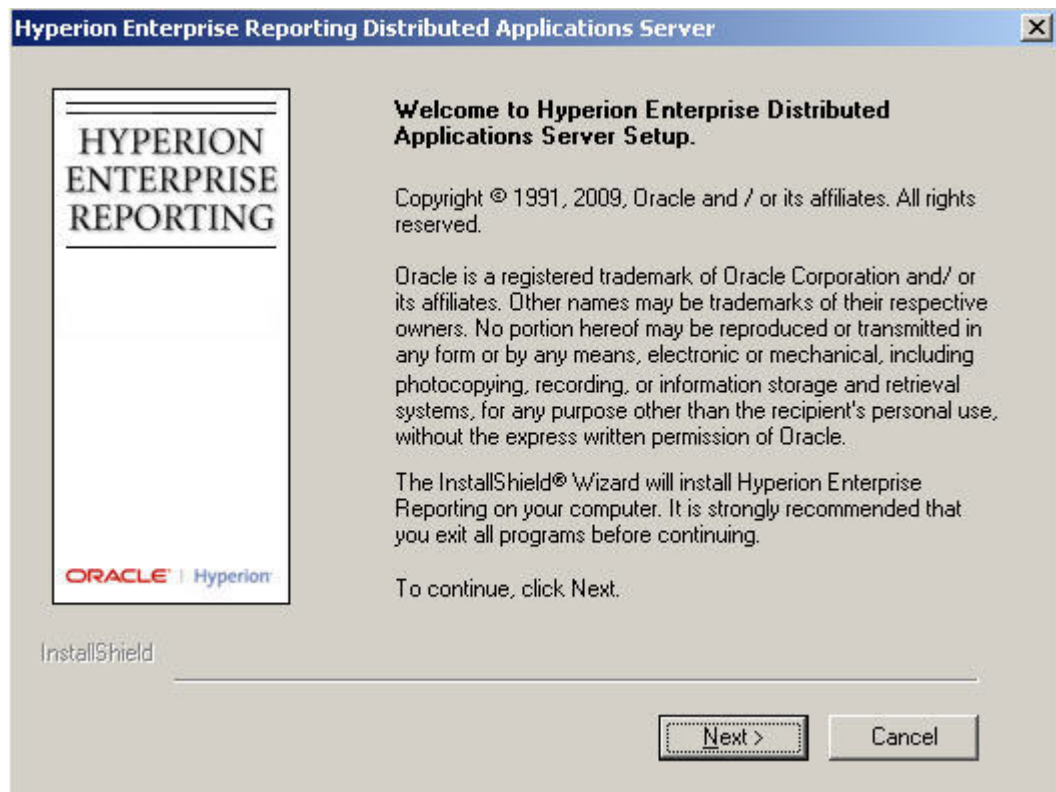
セットアップオプション

Hyperion Enterprise Reporting 分散型ツールをインストールする場合は、次のセットアップオプションのいずれかを選択する必要があります。

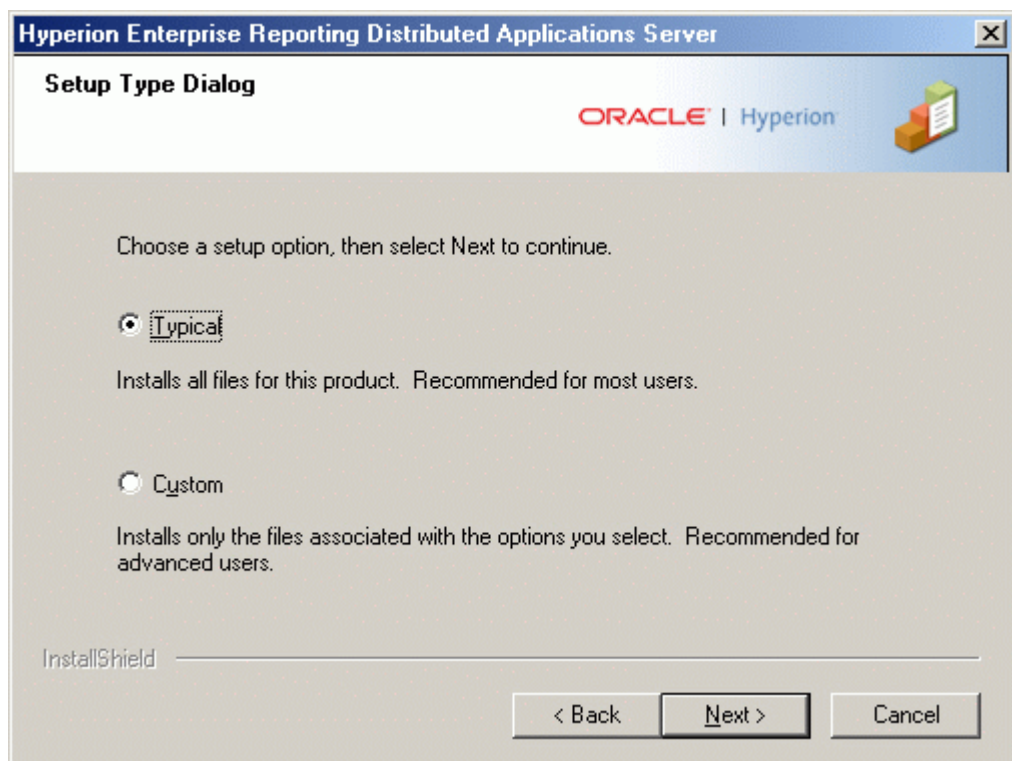
- 標準 - Hyperion Enterprise Distributed Applications Server のすべてのファイルを、デフォルトのインストール先ディレクトリにインストールします。
- カスタム - Hyperion Enterprise Distributed Applications Server のファイルのうち選択したもののみをインストールします。また、インストール先ディレクトリをコンポーネントごとに指定することができます。

Hyperion Enterprise Distributed Applications Server のインストール

インストール時に [コンポーネントの選択] 画面から [Hyperion Enterprise Distributed Applications Server] を選択した場合は、[Hyperion Enterprise Distributed Applications Server セットアップへようこそ] ダイアログボックスが表示されます。

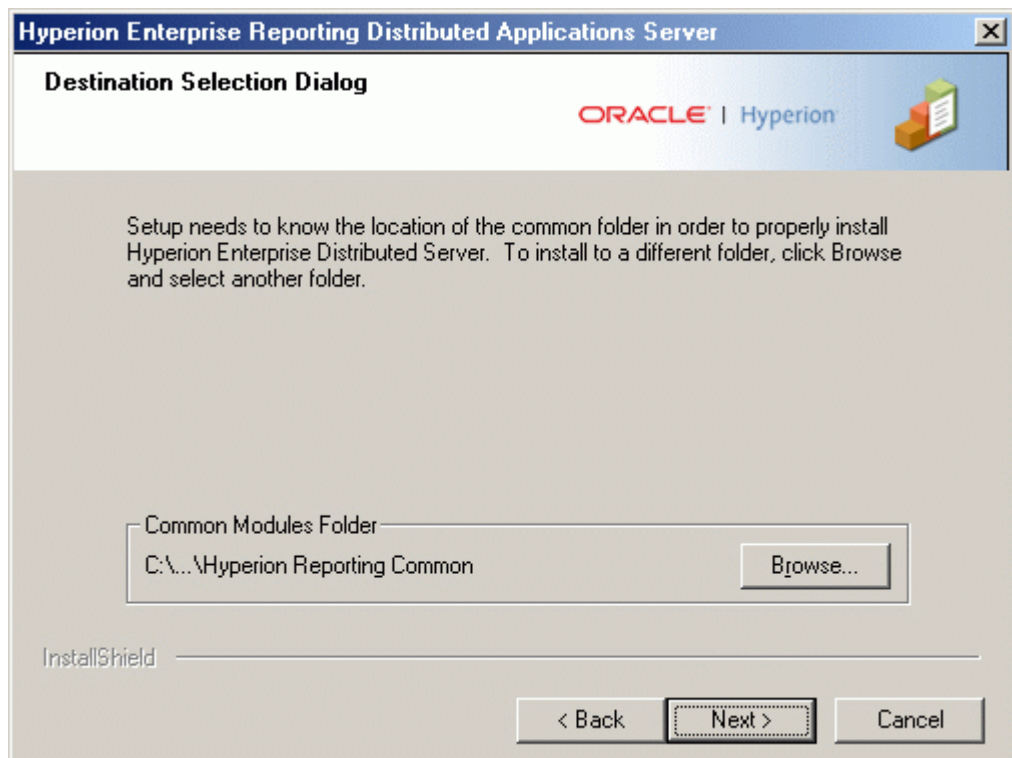


- ▶ Hyperion Enterprise Distributed Applications Server をインストールするには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise Distributed Applications Server セットアップの [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。
[セットアップタイプ] ダイアログボックスが表示されます。

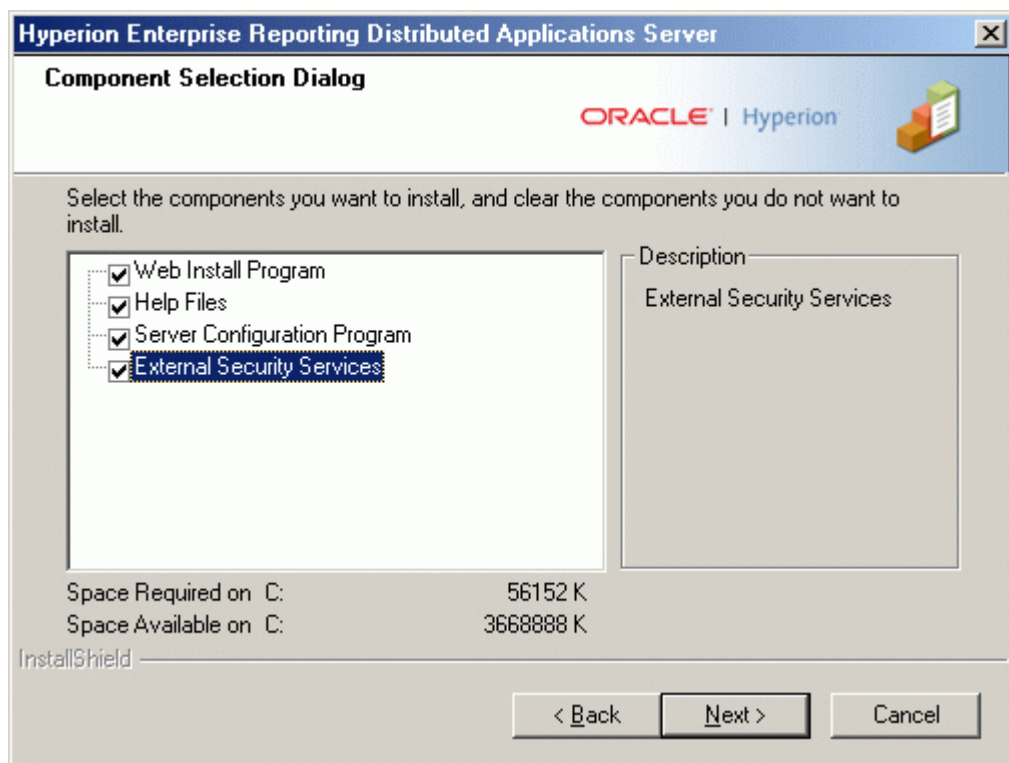


2 セットアップオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

セットアップオプションとして [標準] を選択した場合は、[インストール先選択] ダイアログボックスが表示されます。



セットアップオプションとして [カスタム] を選択した場合は、[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、すべてのコンポーネントが選択されています。



3 次のいずれかの操作を行います。

- セットアップオプションとして [標準] を選択した場合は、ステップ 4 に進みます。
- セットアップオプションとして [カスタム] を選択した場合は、インストールしないコンポーネントのチェックボックスをオフにします。インストールするコンポーネントのチェックボックスがオンになっていることを確認し、[次へ] をクリックします。

4 [インストール先選択] ダイアログボックスでファイルディレクトリを指定します。

- デフォルトのディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- 別のディレクトリを指定する場合は、[参照] ボタンをクリックして目的のディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。

[ユーザーアカウント] ダイアログボックスが表示されます。

Hyperion Enterprise Reporting Distributed Applications Server

Server Account Dialog

ORACLE | Hyperion

Enter the name and password of a valid user account on this NT server. This account will be used by the server components to access the Hyperion application data files.

NT Username: JohnDoe

Password: xxxxxxx

Confirm Password: xxxxxxx

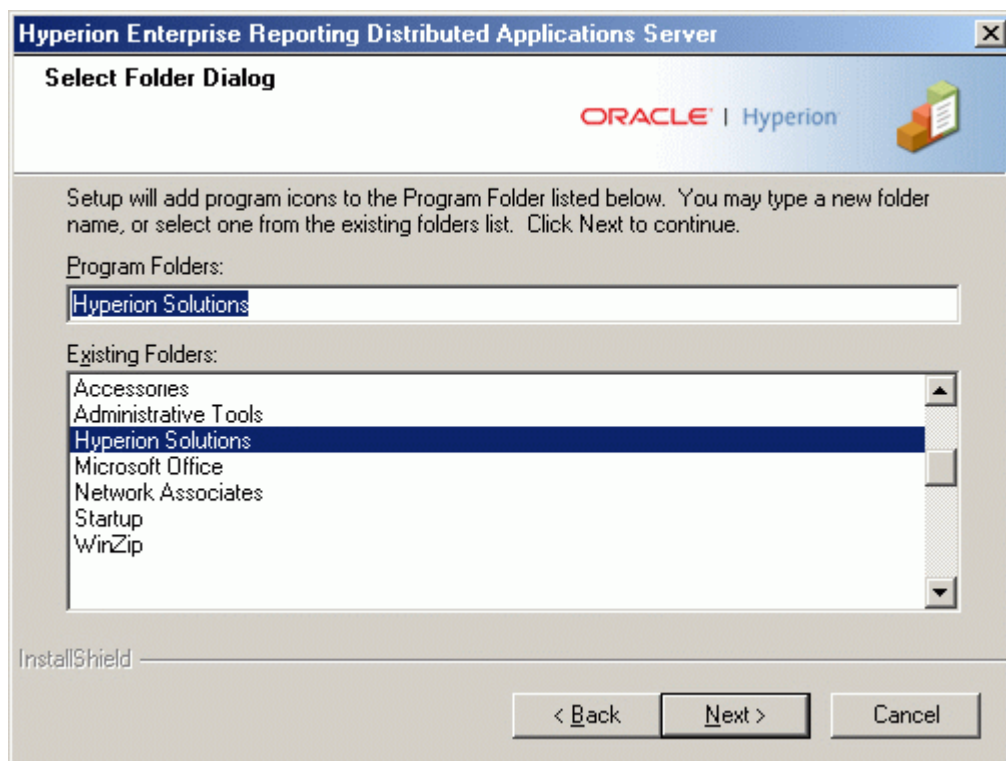
InstallShield

< Back Next > Cancel

- 5 [NT ユーザー名] および [パスワード] ボックスにサーバのユーザ名とパスワードを入力します。[パスワードの確認] ボックスにパスワードを再度入力し、[次へ] をクリックします。

注： このアカウントは、サーバコンポーネントが Hyperion アプリケーションデータファイルにアクセスするために使用します。

[フォルダの選択] ダイアログボックスが表示されます。



6 Hyperion Enterprise Distributed Applications Server プログラムのアイコンを保存するディレクトリを指定します。

- デフォルトのディレクトリ（[プログラムフォルダ] ボックス内に表示されているディレクトリ）にするには、**[次へ]** をクリックします。
- アイコンを別のディレクトリに保存するには、**[既存のフォルダ]** リストのディレクトリ名をクリックし、**[次へ]** をクリックします。

Hyperion Enterprise Distributed Applications Server がインストールされます。

7 次のいずれかの操作を行います。

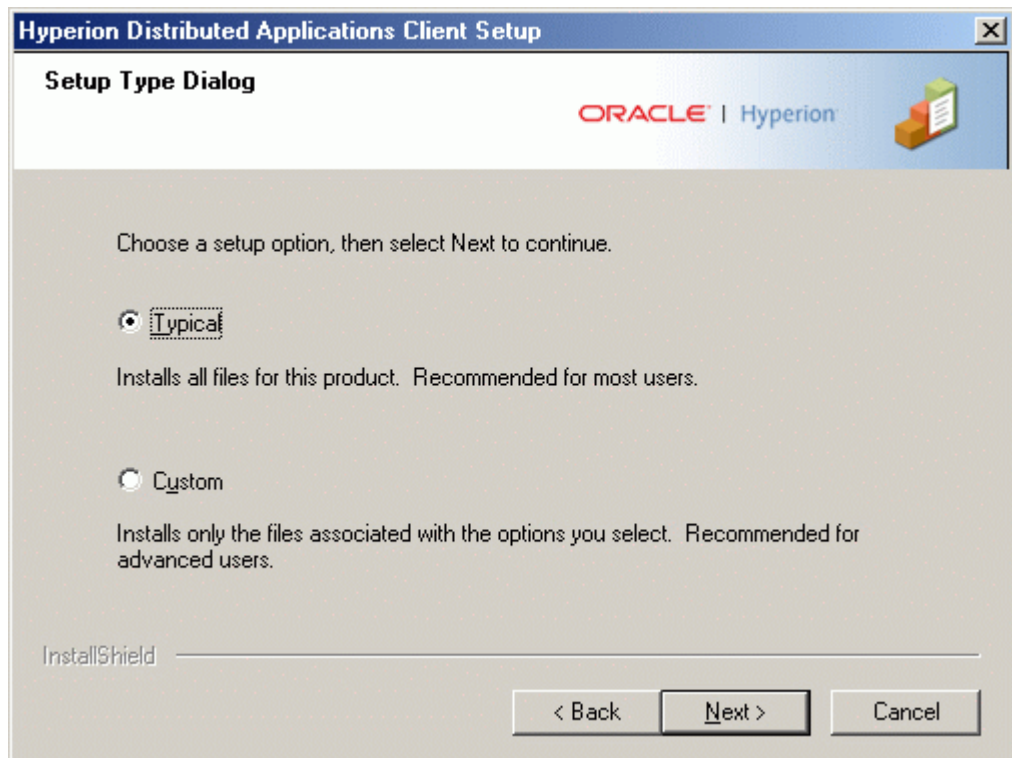
- [外部セキュリティサービス] サービスが選択されている場合は、[57 ページの「Common Security Services \(CSS\) のインストール」](#)を実行します。
- Hyperion Enterprise Reporting のその他のコンポーネントのインストール画面が表示された場合は、そのコンポーネントのインストール手順が記述されている章を参照します。
- 選択したコンポーネントのインストールがすべて終了した場合は、コンピュータを再起動するかどうかを選択するためのメッセージが表示されます。**[はい]** または **[いいえ]** をクリックし、**[完了]** をクリックします。

Hyperion Enterprise Distributed Applications Client のインストール

- ▶ Hyperion Enterprise Distributed Applications Client をインストールするには、次の手順に従います。

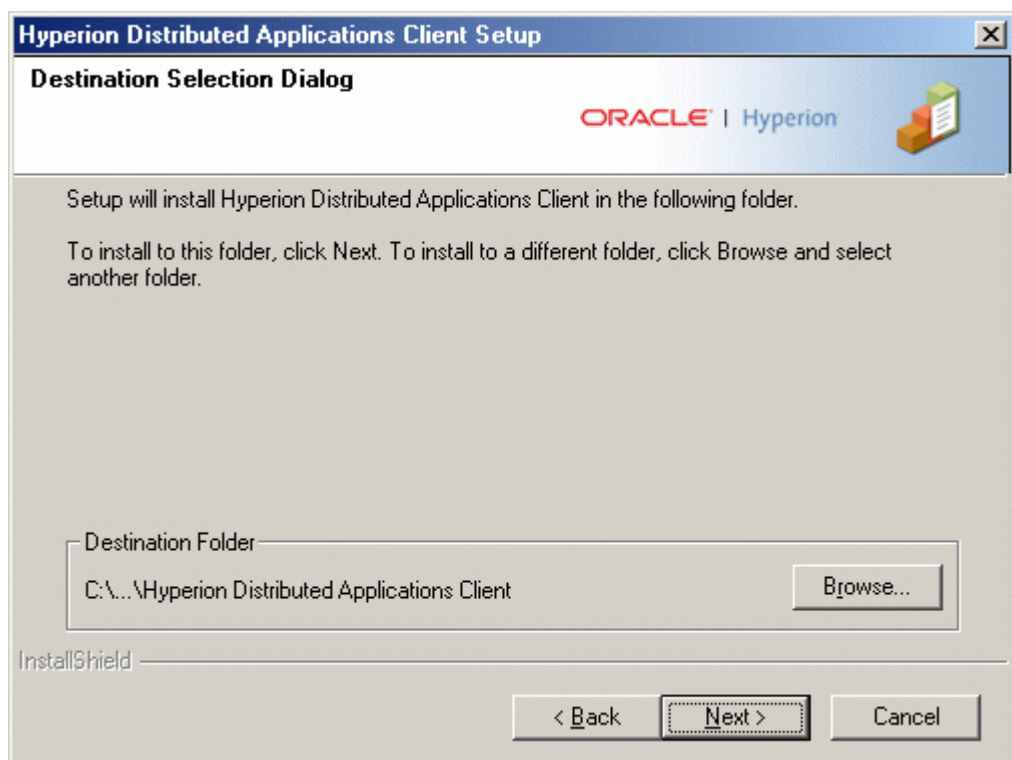
1 Hyperion Enterprise Distributed Applications Client セットアップの [ようこそ] 画面で、[次へ] をクリックします。

[セットアップの種類] ダイアログボックスが表示されます。



2 セットアップオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

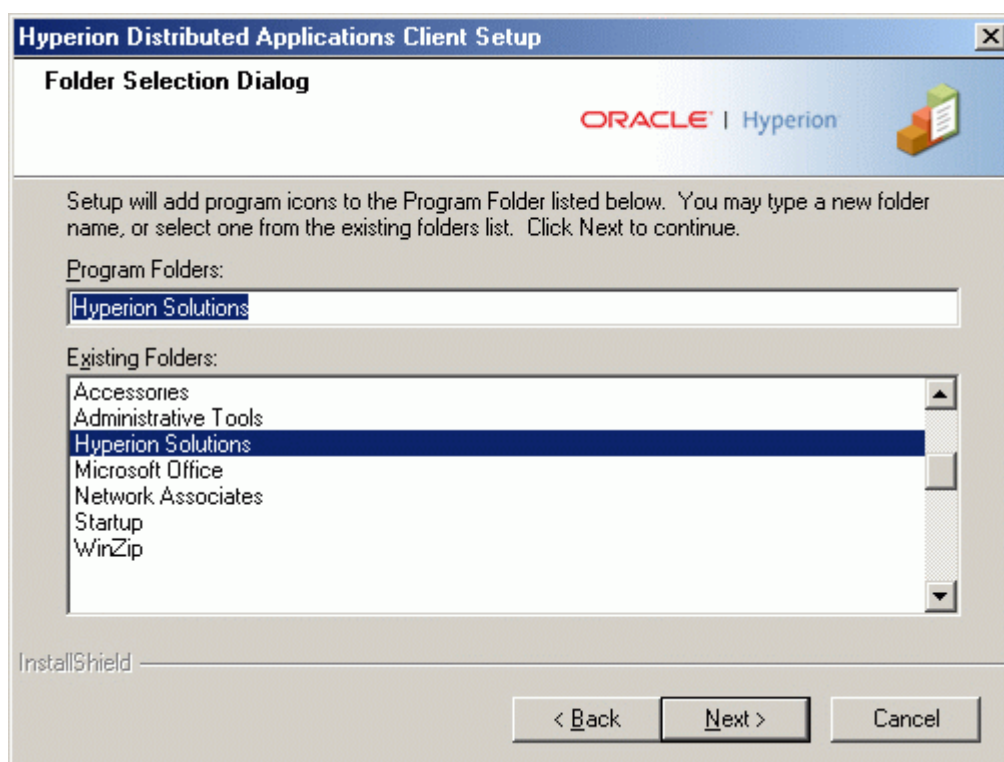
[インストール先選択] ダイアログボックスが表示されます。



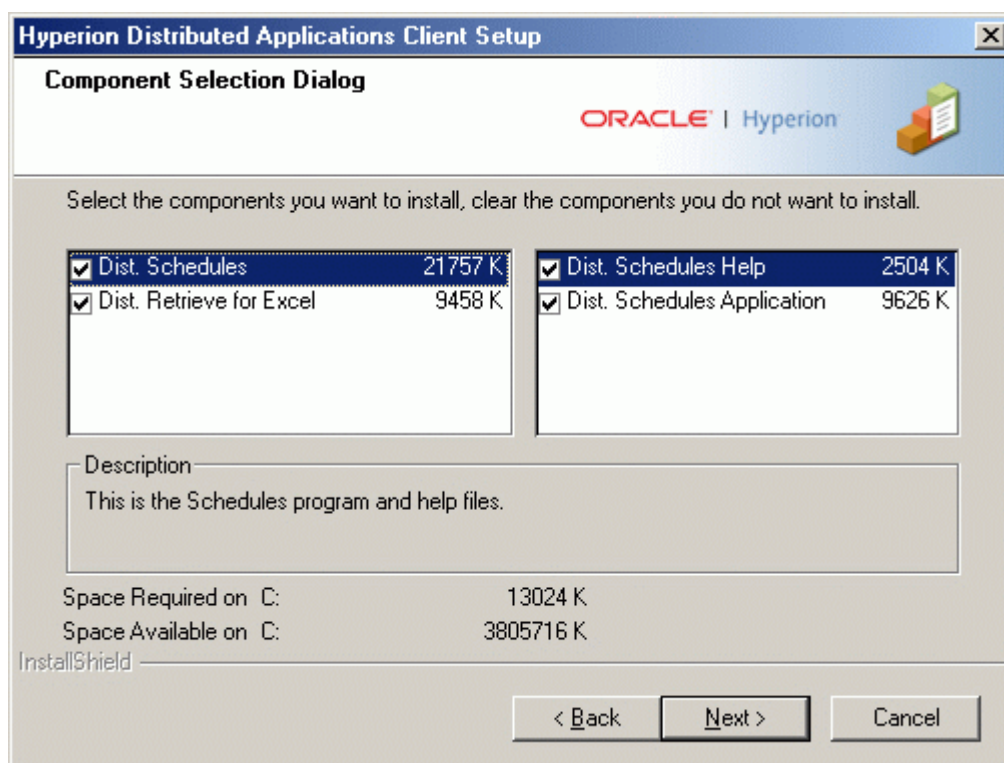
3 インストール先ディレクトリを指定します。

- デフォルトのディレクトリを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- 別のディレクトリを指定する場合は、[参照] ボタンをクリックして目的のディレクトリを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 2 で [標準] を選択した場合は、[フォルダ選択] ダイアログボックスが表示されます。



ステップ 2 で [カスタム] を選択した場合は、[コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、すべてのコンポーネントが選択されています。



4 次のいずれかの操作を行います。

- [フォルダ選択] ダイアログボックスが表示された場合は、ステップ 5 に進みます。
- [コンポーネントの選択] ダイアログボックスが表示された場合は、次の手順に従います。
 1. 左側のボックスで、インストールしないコンポーネントのチェックボックスをオフにします。
 2. 左側のボックスで、インストールする各コンポーネントのチェックボックスをオンにします。次に、右側のボックスで、インストールしないサブコンポーネントのチェックボックスをオフにします。
 3. [次へ] をクリックします。

[フォルダ選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 Hyperion Enterprise Distributed Applications Client プログラムのアイコンを保存するディレクトリを指定します。

- デフォルトのディレクトリ ([プログラムフォルダ] ボックス内に表示されているディレクトリ) にするには、[次へ] をクリックします。
- アイコンを別のディレクトリに保存するには、[既存のフォルダ] リストのディレクトリ名をクリックし、[次へ] をクリックします。

コンピュータを再起動するかどうかどうかを選択するメッセージが表示されます。Hyperion Enterprise Reporting を使用するには、必ず再起動する必要があります。

6 コンピュータを再起動する場合は [はい] をクリックし、コンピュータを再起動しないで別の作業を行う場合は [いいえ] をクリックします。次に、[完了] をクリックします。

7

Hyperion Reporting Clientインストール後のタスク

この章の内容

クライアント用 ODBC データソースの作成 (Essbase のみ)	73
Essbase のインストールの確認	76
Hyperion Enterprise のインストールの確認	76
トラブルシューティング	76
Hyperion Enterprise Reporting Client で使用する Hyperion DataExtend のセットアップ	77
Hyperion Enterprise Reporting Client .INI ファイルのカスタマイズ (Essbase のみ)	78

この章では、Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール後に必要な作業について説明します。

- ODBC データソースの作成 (Essbase のみ)。
- インストールの確認。
- Hyperion Enterprise Reporting Client で使用する Hyperion DataExtend のセットアップ (必要に応じて)。
- クライアント INI ファイルのカスタマイズ (Essbase のみ、必要に応じて)。

クライアント用 ODBC データソースの作成 (Essbase のみ)

Essbase には、レポート、パッケージ、およびセットのカatalogのために ODBC (Open Database Connectivity) が必要です。Hyperion Enterprise Reporting Client を Essbase で使用する場合、ODBC システムデータソース名 (DSN) と、Hyperion レポートについての情報を保存するための Microsoft Access データベース (.mdb) ファイルを作成する必要があります。 .mdb ファイルには実際のレポートは含まれません。Hyperion Enterprise Reporting Client のインストール処理中に指定した Essbase Reports ディレクトリに、レポートファイルが含まれます。

ODBC をセットアップするには、次のタスクを示されている順序で実行する必要があります。

1. ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースを作成します。
2. ODBC ワークステーションエントリを作成します。

ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースの作成（Essbase のみ）

ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースは、1 回の処理で作成します。Hyperion Enterprise Reporting Client の 1 種類のインストールに対してのみ、ODBC システムエントリと Microsoft Access データベースが必要です。他の Hyperion Enterprise Reporting Client インストールについては、[74 ページの「ODBC ワークステーションエントリの選択（Essbase のみ）」](#)を参照してください。

- ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
 - 2 Windows 2003 または Windows 2008 を使用している場合は、[管理ツール] をダブルクリックしてから [データソース(ODBC)] を選択します。
 - 3 [システム DSN] タブを選択します。
 - 4 [追加] をクリックします。
 - 5 Microsoft Access ドライバ (*.mdb) を選択します。
 - 6 [完了] をクリックします。
 - 7 [ODBC Microsoft Access セットアップ] ウィンドウが表示されます。
 - 8 データソース名を入力します。基本インストールの場合は、DSN として Essbase9 を使用するようお勧めします。詳細設定については、[75 ページの「ODBC の詳細設定」](#)を参照してください。
 - 9 [作成] をクリックして、.mdb ファイルの保存場所を参照します。
 - 10 DSN と同じ名前を使用して mdb ファイルに名前を付けます。
 - 11 [OK] を 3 回クリックして ODBC Manager を閉じます。

ODBC ワークステーションエントリの選択（Essbase のみ）

各ワークステーションは、[74 ページの「ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースの作成（Essbase のみ）」](#)の手順に従って作成した Microsoft Access データベースに接続する必要があるため、Hyperion Enterprise Reporting Client ワークステーションインストールごとに次の手順を実行する必要があります。

注： データソースを作成した後、データソースを参照するようにワークステーションを設定する必要があります。

- ODBC ワークステーションデータソースを選択するには、次の手順に従います。
 - 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
 - 2 Windows 2003 または Windows 2008 を使用している場合は、[管理ツール] をダブルクリックしてから [データソース(ODBC)] を選択します。

- 3 [システム DSN] タブを選択します。
- 4 [追加] をクリックします。
- 5 [Microsoft Access Driver] を選択して [完了] をクリックします。
- 6 [ODBC Microsoft Access セットアップ] ウィンドウで [選択] をクリックします。
- 7 [データベースの選択] ダイアログボックスで、74 ページの「ODBC システム DSN および Microsoft Access データベースの作成 (Essbase のみ)」の手順に従って作成したディレクトリと Microsoft Access .mdb を指定し、[OK] をクリックします。

注意 Essbase\BIN\ディレクトリ内にある essbase.mdb ファイルは使用しないでください。

- 8 [OK] を 2 回クリックします。

ODBC の詳細設定

レポート情報は、すべての Hyperion Enterprise Reporting Client データベースに対応する 1 つの Microsoft Access データベース、またはいくつかの異なる Microsoft Access データベースに保存することができます。レポート情報データベースには、サーバ、アプリケーション、データベースごとに分割してレポート情報を保存したり、すべての Hyperion Enterprise Reporting Client データベースのレポート情報を 1 か所に保存することもできます。

名前付け規則はユーザ名およびシステム DSN によって指定されます。次の表に、ODBC DSN の名前の指定方法の例を示します。

設定	DSN 形式
データベース	Essbase_servername_appset_database
アプリケーション	Essbase_servername_appset
サーバ	Essbase_servername
すべてのデータベース	Essbase

Essbase データベースへのログオン時、Hyperion Enterprise Reporting Client によってユーザ DSN が検索され、与えられた Essbase データベースに関するレポート情報を保存する .mdb ファイルが取得されます。Hyperion Enterprise Reporting Client では、一意性の高いものから低いものへと DSN が検索されます。次の例のように、一意性の高いものから検索されます。

Essbase_server1_sample_basic

次に、repeng.ini ファイルのレポートディレクトリが確認されて、レポートが保存されている場所が検索されます。

Essbase のインストールの確認

➤ Essbase のインストールを確認するには、次の手順に従います。

- 1 Essbase Analytic Services サーバが稼動しているかどうかを確認します。
- 2 オプション : Essbase Spreadsheet アドインをインストールした場合、Essbase Spreadsheet アドインを使用して Essbase データベースに接続できるかどうかを確認します。

注 : Essbase Spreadsheet アドインに接続するときに問題が発生した場合は、ARBORPATH 環境変数が設定されており、Essbase\BIN ディレクトリがシステムパスで指定されているかどうかを確認してください。例えば、この環境変数は"ARBORPATH=drive:\essbase"のように設定されている必要があります。また、システムパスは"path=drive:\essbase\bin"のようになります。

- 3 Windows の [スタート] メニューで、[Hyperion Solutions] プログラムグループから [Hyperion Enterprise Reporting Client] を選択します。
- 4 ログオンのためのダイアログボックスで、Essbase サーバにログオンし、[接続] をクリックします。
- 5 アプリケーションセットおよびアプリケーションを選択して [OK] をクリックします。
- 6 プロンプトが表示されたら、アプリケーションに対して初期のデータの視点を設定します。

注 : Hyperion Analyst または Hyperion Retrieve for Reporting を使用している場合、テストの後、アドインを削除してください。

Hyperion Enterprise のインストールの確認

➤ Hyperion Enterprise のインストールを確認するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise で初期のデータの視点を設定します。
- 2 Windows の [スタート] メニューで、[Hyperion Solutions] プログラムグループから [Hyperion Enterprise Reporting Client] アイコンを選択します。
- 3 ログオンのためのダイアログボックスで、有効なユーザ名とパスワードを使用して Hyperion Enterprise にログオンし、[接続] をクリックします。
- 4 アプリケーションを選択して [OK] をクリックします。

トラブルシューティング

ソフトウェアに関する問題が生じた場合は、次の一覧を参照してください。

- Hyperion Enterprise Reporting Client を起動できない場合、repeng.ini ファイルを開いて次の行を追加するとエラーメッセージが表示されるため、トラブルシューティングの際に参考にできます。

[OPTIONS]
Display Driver Error=Yes

- 既存のレポートを開いたり実行したりできない場合、すべてのレポートを再コンパイルしてください。詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting ユーザガイド』を参照してください。
- [書式] ダイアログボックスで問題が生じた場合は、repeng.ini ファイルの [DEFAULT] セクションにある、次のパラメータを削除してください。[書式] メニューの調査コマンドおよび展開コマンドは使用できなくなり、デフォルトで [タスク] メニューの展開機能の管理コマンドが使用できなくなります。調査および展開コマンドを有効にするには、HYPENT_HOME ディレクトリにある repeng.ini ファイルの DEFAULT セクションを編集する必要があります。このセクションを次に示します。

[DEFAULT]

ONTRACK=1

Hyperion Enterprise Reporting Client で使用する Hyperion DataExtend のセットアップ

Hyperion DataExtend は、Hyperion Schedules にテキストを入力し、データや見出しとしてそのテキストをレポート内に取り込むことのできる、柔軟性に富むデータ管理ツールです。Hyperion DataExtend は、Hyperion Enterprise Reporting に次の機能を追加します。

- 説明やコメントなどのテキストを入力する注釈機能
- レポート内の他のディメンション設定を基に個々のディメンションの説明を置換できるローカル見出し設定機能

Hyperion DataExtend を使用するには、Hyperion アプリケーションごとに Hyperion DataExtend システムデータソースを作成する必要があります。システムデータソースを追加するには、Windows ODBC データソースアドミニストレータを使用します。

Hyperion DataExtend に既にユーザデータソースがセットアップされている場合は、ODBC データソースアドミニストレータを使用してこれらのデータソースを削除し、既存のデータベースを使用するシステムデータソースを作成します。次の手順の説明に従ってください。

注： Hyperion DataExtend は Essbase ではサポートされていません。

► Hyperion DataExtend をセットアップするには、次の手順に従います。

- 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
- 2 Windows 2003 または Windows 2008 を使用している場合は、[管理ツール] をダブルクリックしてから [データソース(ODBC)] を選択します。
- 3 [システム DSN] タブを選択します。
- 4 [追加] をクリックします。

- 5 インストールされた ODBC ドライバの領域で、[Microsoft Access Driver] を選択し、[完了] をクリックします。
- 6 [データソース名] ボックスに、データソース名を次の形式で入力します。
PRODUCT_APPLICATION

PRODUCT は repeng.ini ファイル内で指定されている製品識別コードで、APPLICATION は Hyperion DataExtend を使用する既存の Hyperion Enterprise アプリケーションです。例えば、Enterprise_TestApp1 などと指定します。
- 7 [説明] ボックスに、データソースの説明を入力します。
- 8 [作成] をクリックします。
- 9 [ディレクトリ] リストボックスで、Hyperion DataExtend を使用する既存の Hyperion Enterprise アプリケーションのパスを選択します。
- 10 [データベース名] ボックスに次の形式でファイル名を入力します。

Application.MDB Application は、Hyperion DataExtend を使用する既存の Hyperion Enterprise アプリケーション（例えば TESTAPP1.MDB）です。

注： 関連付けられている .mdb ファイルがネットワーク内のコンピュータに保存されている場合は、パーマネントドライブのドライブ名をネットワークドライブにマッピングする必要があります。
- 11 [OK] をクリックしてデータベースを作成します。
- 12 データベースが作成されたことを示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。次に、[OK] を再度クリックして [ODBC Microsoft Access セットアップ] ダイアログボックスを閉じます。
- 13 Hyperion Distributed Schedules で Hyperion DataExtend を使用するアプリケーションごとに、ステップ 2 ～ 12 を繰り返してデータソースを作成します。
- 14 [閉じる] をクリックして [データソース] ダイアログボックスを閉じます。
- 15 データソースを作成した後、各ワークステーションがそのデータソースを参照していることを確認します。

Hyperion Enterprise Reporting Client .INI ファイルのカスタマイズ（Essbase のみ）

Hyperion Enterprise Reporting Client は、次の .INI ファイルを参照します。

- repeng prod-server-set-app.ini
- rw32.ini
- shared.ini
- repeng.ini

Essbase 用のこれらのファイルはカスタマイズすることができます。

Repeng prod-server-set-app.ini ファイルのカスタマイズ

repeng prod-server-set-app.ini ファイルは、ローカルの Windows ディレクトリに作成され保存されます。repeng prod-server-set-app.ini ファイルの名前付け規則を次の表で説明します。

変数 定義

prod Hyperion Solutions 製品

server アプリケーションセットを実行するサーバ

set アプリケーションセット

app アプリケーション

例えば、Essbase に次の名前を使用することができます。

REPENG ESSBASE-ESSBASE1-DEMOA-DEMO.INI

各項目の意味は次のとおりです。

- Essbase は Hyperion Solutions 製品の名前です。
- Essbase1 はアプリケーションセットが実行されているサーバ名です。
- DemoA はアプリケーションセットの名前です。
- Demo はアプリケーションの名前です。

repeng prod-server-set-app.ini ファイルには、次のセクションが含まれています。

- [DIMNAME-KEY-DIALOGINFO] - [ディメンションの編集] ダイアログボックスの設定。
- [DIALOGINFO] - [一般] ダイアログボックスの設定。
- [KEYINFO] - 内部システムの設定、データの視点、および計算式バーのボタンに関する情報。
- [CUSTOMBITMAPS] - 各ディメンションのビットマップの設定。
- [DOCUMENTS] - 最後に実行したレポート／パッケージ／レポートセットの設定。
- [POV] - ディメンションのデータの視点(POV)の設定。
- [PAGE] - ページの設定。

Rw32.ini ファイルのカスタマイズ

rw32.ini ファイルはセットアッププログラムによって作成され、ローカルの WINDOWS ディレクトリに保存されます。このファイルには次のセクションが含まれます。

- [RECENT FILE LIST] - Hyperion Enterprise Reporting Client で最後に使用された 4 つのファイル。

- [FORMAT] - ユーザー定義のカスタム数値書式。
- [DEFAULT] - デフォルト設定。

Shared.ini ファイルのカスタマイズ

shared.ini ファイルには、データの視点およびフィルタの情報が保存され、ユーザが最初にログオンする際の操作を容易にします。このファイルはシステム管理者によって作成され、各アプリケーションの"Report"ディレクトリに保存されます。複数のユーザ間での共有が設定された共通.INI ファイルとして使用することもできます。

ユーザがアプリケーションにログオンすると、対応する repeng prod-server-set-app.ini ファイルがシステムで検索されます。このファイルが見つからない場合、shared.ini ファイルにアプリケーションの設定があるかどうかを検索されます。shared.ini ファイルからアプリケーションの設定が見つかった場合、この設定を使用してアプリケーションが開かれ、ユーザのコンピュータに repeng prod-server-set-app.ini ファイルが作成されます。shared.ini ファイルにアプリケーションの設定が見つからない場合、アプリケーションの各ディメンションに対してデータの視点を選択するように要求するメッセージが表示されます。

注意 shared.ini ファイルを作成するには、次に示す順序で操作を実行してください。ステップ 5 で、repeng prod-server-set-app.ini ファイルからセクションおよび設定をコピーして貼り付ける場合には十分注意して作業してください。コピーおよび貼り付けの際にエラーを起こすと、既に設定された内容が失われる可能性があります。

➤ shared.ini ファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting Client の新しいアプリケーションにログオンし、データの視点を設定します。
- 2 Hyperion Enterprise Reporting Client を初めて使用するユーザの場合、データの視点を設定してから、この設定をフィルタします。
- 3 Hyperion Enterprise Reporting Client からログオフします。
- 4 テキストエディタを使用して repeng prod-server-set-app.ini ファイルを開きます。
- 5 repeng prod-server-set-app.ini ファイルからすべてのセクションおよび設定を選択してコピーし、使用しているアプリケーションの Report ディレクトリにある shared.ini ファイルに貼り付けます。

注： ユーザがログオンしてデータの視点の変更や設定のフィルタを行うと、ユーザのローカルコンピュータの Hyperion Enterprise Reporting Client で repeng prod-server-set-app.ini ファイルが使用されます。

Repeng.ini ファイルの設定のカスタマイズ

repeng.ini ファイルはセットアッププログラムによって作成され、ローカルの HYPENT_HOME ディレクトリに保存されます。repeng.ini ファイルは、ユーザのコンピュータにアクセス権のある Hyperion Solutions 製品に付属の情報を保存するために使用されます。このファイルには次のセクションが含まれます。

- [DRIVERS32] - インストールされている 32 ビットの Hyperion Solutions 製品 1 つにつき、1 つのエントリ。
- [Essbase] : サーバ、エイリアステーブル、レポートディレクトリ、および並べ替えのセットなどの、Essbase の一般的な設定
- [OPTIONS] - 言語の設定。
- [DEFAULT] - フォント、色、および説明／名前などの、データの視点バーの設定。
- [PE] - プリントエンジンの設定。

次に、repeng.ini ファイルに作成された設定の例を示します。セクション名は角カッコ ([]) で示されています。

注： [DRIVERS32] セクションのドライバ名を変更できます。但し、セクション名はドライバ名と一致する必要があります。セクションとドライバの名前は、大文字と小文字を区別しません。

```
[DRIVERS32]
Essbase = EBRED32.DLL
[Essbase]
ServerNames=
ReportDir=
AliasTable=Default
```

項目	説明
----	----

Essbase	ドライバ名
---------	-------

ServerNames	Essbase のサーバ名または TCP/IP アドレス。複数のサーバは縦線 () で区切ります。
-------------	--

ReportDir	すべてのレポート／パッケージおよびセットが保存されるディレクトリ
-----------	----------------------------------

AliasTable	Essbase で識別されるエイリアステーブル
------------	-------------------------

異なる Essbase レポートディレクトリの定義

"Report"ディレクトリは、ローカル、Essbase サーバ上、ファイルサーバ上、または Hyperion Enterprise Reporting Client ユーザが書き込みアクセス権を持つどの場所にも配置できます。この設定は次のようにします。

```
[Essbase]
ReportDir=path
```

path は、"Report"ディレクトリへのパスです。

例は次のとおりです。

```
[Essbase]  
ReportDir=C:\Essbase\Reports
```

Essbase への複数のサーバ名の定義

1 つまたは複数のサーバ名を指定するには、各サーバ名を縦線 (|) で区切る必要があります。TCP/IP アドレスをサーバ名の代わりに使用することができます。

この設定は次のようにします。

```
[Essbase]  
ServerNames=Name
```

Name は、Essbase アプリケーションが配置されているサーバの名前です。

例は次のとおりです。

```
[Essbase]  
ServerNames = server1|server2|123.45.67.89
```

サーバ名または TCP/IP アドレスを指定しない場合、Hyperion Enterprise Reporting Client では、essbase.ini ファイル内で使用可能なサーバを検索します。

8

Hyperion Enterprise Reporting Webアプリケーション インストール後のタスク

この章の内容

ネットワークを介した Hyperion データアクセスのための Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのセットアップ.....	84
エージェントモニタのログオン設定.....	84
FrontPage 2000 サーバ拡張機能のインストールと設定.....	85
インストールの確認.....	86
INI ファイル設定の必要条件.....	92
エージェントに対する ODBC の設定.....	93

この章では、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール後に必要な作業について説明します。

- Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ以外のネットワークデバイスに配置されている Hyperion アプリケーションにアクセスするには、ネットワーク経由で Hyperion データにアクセスできるようにシステムを設定します。
- ネットワークデバイスにインストールされている Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションサーバ以外の Hyperion アプリケーションにアクセスするエージェントを使用している場合は、エージェントモニタのログオンアカウントでユーザ名を設定します。
- ユーザがレポートを PDF 形式で表示したり印刷する場合は、各ユーザのワークステーションに Adobe Acrobat Reader をインストールします。
- Web サイトウィザードを使用する場合は、FrontPage 2000 サーバ拡張機能をインストールします。
- Hyperion Enterprise データベースにアクセスするすべてのユーザは、デフォルトの DCOM プロパティにアクセス許可および起動許可が与えられている必要があります。Windows 2003 の場合、デフォルトではこれらの許可は与えられていません。

ネットワークを介した Hyperion データアクセスのための Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのセットアップ

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションは、Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ以外のネットワークデバイスにインストールされている Hyperion アプリケーションにアクセスできます。これらの他のアプリケーションにアクセスするには、そのアプリケーションがあるネットワークデバイスへの適切なアクセス権をシステムに与える必要があります。このプロセスで行うタスクは次の 2 つです。

- ユーザ名を設定してホストの NT サーバにログオンし、アプリケーションが保存されているネットワークデバイスにアクセスする際に使用するユーザ名およびパスワードを Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションに提供します。Hyperion Enterprise Reporting Web サーバ管理プログラムを使用して、ユーザ設定を変更します。
 - ユニバーサル命名規則（UNC）に従って、Web サーバ上に保存されている各製品のアプリケーションの INI ファイル内のパス名を編集します。
- ネットワークを介して Hyperion データにアクセスするために Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションをセットアップするには、次の手順に従います。
- 1 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションと Hyperion アプリケーションの両方に、NT コンピュータに設定されているものと同じ ID とパスワードを設定します。さらに、ID 管理権限を設定します。
 - 2 ドライブ指定の文字ではなく、ユニバーサル命名規則に従って製品の INI ファイル内のパス名を編集します。次の形式を使用します。

\\Servername\Sharename

パラメータ 説明

Servername ホストサーバの名前

Sharename アプリケーションが含まれているサーバ上の共有フォルダ名

注： Hyperion 製品の INI ファイル内のパスの長さ制限は製品ごとに異なります。

エージェントモニタのログオン設定

ネットワーク装置にインストールされている Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションサーバ以外の Hyperion Solutions アプリケーションにアクセスするエージェントを使用している場合、エージェントモニタのログオンアカウントでユーザ名を設定する必要があります。

- エージェントモニタのログオンを設定するには、次の手順に従います。
- 1 [コントロール] パネルから [サービス] モジュールを開きます。

- 2 [Agent Monitor] をハイライトして [スタートアップ] を選択します。
- 3 [ログオン] から [アカウント] を選択し、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックし、[閉じる] をクリックします。

FrontPage 2000 サーバ拡張機能のインストールと設定

Web サイトウィザードを使用するには、FrontPage 2000 サーバ拡張機能が必要です。Windows 2003 サーバの標準インストール時に、デフォルトで Microsoft Internet Information Server と FrontPage サーバ拡張機能がインストールされます。このセクションは、カスタムの仮想 Web サイトで Hyperion Enterprise Reporting Web を実行する場合に役に立ちます。追加情報については、下記の Web サイトを参照してください。

<http://www.microsoft.com/>

- ▶ FrontPage 2000 サーバ拡張機能を設定するには、次の手順に従います。

- 1 新しい Web サイト名を右クリックします。
- 2 [すべてのタスク]、[サーバー拡張の設定] の順に選択します。
[Web サービス拡張] が表示されます。
- 3 カスタム変更を実行する場合は、デフォルト設定を変更し、ウィザードを閉じます。
- 4 新しい Web サイト名を右クリックします。
- 5 [すべてのタスク]、[サーバー拡張の確認] の順にクリックしてインストールを確認します。

Windows 2003 Server の場合は、FrontPage 2002 サーバ拡張機能がインストールされているかどうかを確認します。

- ▶ FrontPage 2002 サーバ拡張機能がインストールされているかどうかを確認するには、次の手順に従います。

- 1 [Internet Information Services Manager] を開きます。
- 2 [Web サービス拡張] をクリックします。
- 3 FrontPage 2002 サーバ拡張機能が存在するかどうかを確認します。

FrontPage 2002 サーバ拡張機能がインストールされていない場合は、次の手順に従ってインストールします。

- ▶ install FrontPage 2002 サーバ拡張機能をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 [コントロールパネル]、[プログラムの追加と削除] の順に選択します。
- 2 [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックします。
- 3 [アプリケーションサーバー]、[Internet Information Services (IIS)]、[FrontPage 2002 サーバ拡張] の順に選択します。

4 [次へ] をクリックします。

カスタムの仮想 Web サイトで Hyperion Enterprise Reporting Web を実行する場合は、FrontPage 2002 サーバ拡張機能を設定します。

インストールの確認

すべてのインターネットベースのアプリケーションはレイヤ構造を持っているので、さまざまなレイヤを別々にテストすることをお勧めします。次のテストでは、システム全体が正しく動作するように各レイヤを別々にチェックします。

注： これらのテストは、デモアプリケーションとサンプルの Web サイトがインストールされていることを前提としています。

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションでは、エラーが発生した場合に備えて、テスト中に一連のログファイルが作成されます。テスト中にエラーが発生した場合は、構成チェッカーの SpCheck を実行することもできます。ログファイルまたは SpCheck の実行について詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting Web Application Technical Reference Guide』（テクニカルリファレンスガイド）を参照してください。

注： この章のテスト 1～5 は Hyperion Enterprise または Essbase のユーザを対象としており、テスト 6～10 は Hyperion Enterprise のユーザのみを対象としています。

テスト 1 - Hyperion Enterprise Reporting のチェック

このテストを完了すると、Hyperion Enterprise Reporting を使用して Hyperion Enterprise または Essbase アプリケーションにアクセスできます。

► Hyperion Enterprise Reporting をチェックするには、次の手順に従います。

1 次のタスクを実行して Hyperion Enterprise Reporting を開きます。

1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、**rw32.exe** と入力して [OK] をクリックします。
2. [ログオン] 画面でユーザ名とパスワードを入力し、[接続] をクリックします。
 - Hyperion Enterprise デモアプリケーションを使用する場合は、ユーザ名に **admin** と入力します。パスワードは必要ありません。
 - Essbase を使用する場合は、アプリケーションセットとアプリケーションを選択して [OK] をクリックします。
3. Hyperion Enterprise を使用する場合は、アプリケーションを選択して [OK] をクリックします。
4. データの視点のプロンプトが表示された場合は、すべてのユーザに有効なデータの視点を選択します。

- 2 [ファイル] メニューから [新規作成] を選択します。
 - 3 [標準レポート] を選択し、[OK] をクリックします。
 - 4 [編集] メニューから [ディメンション] をクリックし、ディメンションを選択します。[ディメンションの編集] ダイアログボックスの左側にあるメンバーの一覧から有効なメンバーを選択し、[OK] をクリックします。
 - 5 レポートの列見出しをクリックして最初の列を選択します。[編集] メニューから [ディメンション] を選択し、列のディメンションを選択します。メンバーの一覧から有効なメンバーをダブルクリックして選択し、[OK] をクリックします。
 - 6 [ファイル] メニューから [プレビュー] を選択します。レポートがプレビューモードで表示されます。
- 注：** [プレビュー] オプションを正しく機能させるには、デフォルトのプリンタを選択する必要があります。
- 7 [閉じる] をクリックしてプレビューウィンドウを閉じます。
 - 8 Hyperion Enterprise を使用している場合は、次の手順に従ってレポートをレポートセットに追加します。
 - [タスク] メニューから [レポートおよびパッケージの管理] を選択します。
 - [新規セットの挿入] アイコンをクリックします。
 - **MYFIRST** と入力し、[OK] をクリックします。
 - [閉じる] をクリックします。
 - 9 [ファイル] メニューから [保存] を選択し、レポートに **MYFIRST** という名前を付けます。次に、MYFIRST レポートセットを選択し、[OK] をクリックします。
 - 10 Hyperion Enterprise Reporting を終了します。

テスト 2 - 静的レポートの作成

このテストを完了すると、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション管理プログラムを使って Hyperion アプリケーションやレポートにアクセスしたり、レポートを静的 HTML ファイルに変換することができます。Hyperion Enterprise または Essbase を使用する場合は、このテストを実行できます。

- ▶ 静的レポートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、admin.exe と入力して [OK] をクリックします。
 - 2 [静的レポート/チャート] を選択します。
 - 3 アプリケーションにログオンします。
 - 4 実行するレポートを選択します。
 - 5 ウィンドウ上部の POV バーを使ってデータの視点 (POV) を選択します。
 - 6 [出力オプション] タブを選択して [レポート] をクリックします。

- 7 [テンプレート] の場所を HSPIDER ディレクトリに設定します。デフォルトでは、このディレクトリはセットアップ時に `admin.exe` がインストールされたディレクトリです。次にその例を示します。

`\Hyperion Solutions\Hyperion Enterprise Reporting Web Server`

- 8 [HTML に保存] をクリックします。

- 9 HTML 出力ファイルを指定します。このファイルは、`wwwroot` ディレクトリまたはサブディレクトリにあります。次にその例を示します。

`\inetpub\wwwroot`

- 10 Web サーバ管理プログラムを終了します。

テスト 3 - Web サーバへのアクセス

このテストを完了すると、Web サーバが動作し、テスト 2 で作成した静的レポートを Web ブラウザを使ってリモートで表示できることが確認されます。Hyperion Enterprise または Essbase を使用する場合は、このテストを実行できます。

- Web サーバにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 クライアントコンピュータから Web ブラウザを開きます。
- 2 次の形式で、Web ブラウザに静的レポートの URL を入力します。

`http://servername/path/reportname`

パラメータ 説明

<code>servername</code>	サーバの名前
<code>path</code>	レポートのパス
<code>reportname</code>	静的レポート名

例えば、Web サーバの名前が Reporting で、`test1.htm` が `wwwroot` ディレクトリにある場合は、次の URL を入力します。

`http://Reporting/test1.htm`

- 3 NT のユーザ名を入力するプロンプトが表示されます。NT の有効なユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

テスト 4 - Spider.dll へのアクセス

このテストを完了すると、クライアントコンピュータから Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのダイナミックリンクライブラリ (`spider.dll`) にアクセスできます。Hyperion Enterprise または Essbase を使用する場合は、このテストを実行できます。

- クライアントコンピュータの Web ブラウザから `spider.dll` にアクセスするには、Web サーバの URL を入力します。次の形式を使用します。

`http://Servername/HSPIDER/spider.dll`

Servername は、サーバの名前です。

spider.dll にアクセスできたことを示すメッセージが画面に表示されます。

テスト 5 - 製品一覧からレポートへのドリルダウン

SYSLIST 関数を使用すると、すべての Hyperion 製品、アプリケーション、およびレポートが正しく一覧表示されることを確認できます。URL に?syslist パラメータを追加してこの関数を使用します。SYSLIST により、Web ページに Hyperion 製品を一覧表示するためのハイパーテキストリンクが生成されます。各一覧のリンクを選択してレポートにドリルダウンできます。

Hyperion Enterprise または Essbase を使用する場合は、このテストを実行できます。

▶ 製品の一覧からレポートにドリルダウンするには、次の手順に従います。

- 1 Web ブラウザの URL フィールドに、Web サーバの URL と?syslist パラメータを入力します。次の形式を使用します。

```
http://Servername/HSPIDER/spider.dll?syslist
```

Servername は、サーバの名前です。

- 2 Hyperion 製品が一覧表示されます。製品名を選択すると、その製品のアプリケーションの一覧が表示されます。アプリケーションへのログインを要求するメッセージが表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力します。

注： Essbase を使用している場合は、選択した製品で使用可能なサーバの一覧が Web ブラウザに表示されます。サーバを選択すると、そのサーバへのログインが要求されます。次に、そのサーバで使用可能なアプリケーションの一覧が Web ブラウザに表示されます。

- 3 アプリケーションを選択すると、そのアプリケーションのレポートセットの一覧が表示されます。

注： Essbase を使用している場合は、選択したアプリケーションで使用可能なデータベースの一覧が Web ブラウザに表示されます。データベースを選択すると、そのデータベースで使用可能なレポートセットの一覧が Web ブラウザに表示されます。

- 4 レポートセットを選択すると、そのセットのレポートの一覧が表示されます。
- 5 Web ブラウザで表示するレポートを選択します。

テスト 6 - 動的レポートへのアクセス

このテストを完了すると、Hyperion Enterprise のデモアプリケーションにアクセスして、レポートの Web ページを動的に作成できます。

注： このテストは、Hyperion Enterprise のユーザのみを対象としています。

► 動的レポートにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 クライアントコンピュータから Web ブラウザを開きます。
- 2 サンプル Web サイトにアクセスする URL を入力します。次の形式を使用します。

`http://Servername/spider.htm`

Servername は、サーバの名前です。

- 3 例えば、Web サーバの名前が Spider の場合は、次の URL を入力します。

`http://spider/spider.htm`

- 4 デモでフレーム形式を使用するかどうかを選択します。
- 5 Hyperion Enterprise レポートを選択するには、[Mgmt Briefing] アイコンを選択し、[P&L - Actual vs. Budget] を選択します。

アプリケーションへのログインフォームが表示されます。

注： アプリケーションにまだログオンしていない場合は、ログオンを要求するメッセージが表示されます。

テスト 7 - 動的チャートへのアクセス

このテストを完了すると、Hyperion Enterprise のデモアプリケーションにアクセスして、レポートのチャートを動的に作成できます。

注： このテストは、Hyperion Enterprise のユーザのみを対象としています。

► 動的チャートにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 クライアントコンピュータから Web ブラウザを開きます。
- 2 サンプル Web サイトにアクセスする URL を次の形式で入力します。

`http://Servername/spider.htm`

Servername は、サーバの名前です。

例えば、Web サーバの名前が Spider の場合は、次の URL を入力します。

`http://spider/spider.htm`

- 3 デモでフレーム形式を使用するかどうかを選択します。
- 4 [Mgmt Briefing] アイコンをクリックして Hyperion Enterprise チャートを選択し、[Product Line Profitability] を選択します。

テスト 8 - 基準ベースのページへのアクセス

このテストを完了すると、基準ベースの Web ページにアクセスできます。

注： このテストは、Hyperion Enterprise のユーザのみを対象としています。

▶ 基準ベースのページにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 クライアントコンピュータから Web ブラウザを開きます。
- 2 基準スクリプトのサンプル Web ページにアクセスする URL を入力します。

`http://Servername/HSPIDER/spider.dll?criteria&summary`

Servername は、サーバの名前です。

テスト 9 - エージェントの使用（サーバインストールのみ）

このテストを完了すると、エージェントの設定とエージェントへのアクセスが可能であることが確認されます。このテストを実行する前に、Windows の [コントロールパネル] でサービスアプレットを開いてエージェントモニタサービスが既に開始されていることを確認してください。

注： このテストは、Hyperion Enterprise のユーザのみを対象としています。
Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションをサーバにインストールした場合は、このテストを実行する必要があります。

▶ エージェントを使用するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション管理プログラムを開始して、[エージェント] を選択します。
- 2 [財務エージェント管理] ダイアログボックスで [margin_comp] を選択して [開く] をクリックします。
- 3 [データ入力表] タブを選択し、次のタスクを実行します。
 1. [追加] をクリックし、エージェントを実行する日付と時刻を入力して [OK] をクリックします。
 2. 入力した時刻を選択します。
- 4 [セキュリティ] タブを選択し、[ユーザーを追加] をクリックします。一覧からユーザ名を選択し、[OK] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックしてエージェントへの変更を保存します。
- 6 Web ブラウザに次の URL を入力します。

`http://Servername/spider.htm`

Servername は、サーバの名前です。

例えば、Web サーバの名前が Spider の場合は、次の URL を入力します。

`http://spider/spider.htm`

- 7 フレームを使用する場合は、フレーム付きのデモを選択し、フレームを使用しない場合はフレームなしのデモを選択して、[財務エージェント] を選択します。
- 8 [エージェントの登録] をクリックします。

一覧に margin_comp エージェントが表示されます。

9 次の手順に従って、margin_comp の登録を行います。

1. [margin_comp] を選択します。
2. 電子メールと Web ページによる通知を選択して登録オプションを入力し、[登録] を選択します。

10 ステップ 3 で設定した時刻以降に、Web ブラウザに次の URL を入力してアクセスします。

`http://Servername/spider.htm`

Servername は、サーバの名前です。

例えば、Web サーバの名前が Spider の場合は、次の URL を入力します。

`http://spider/spider.htm`

11 [財務エージェント] を選択して、[通知の表示] を選択します。エージェントから通知を受信します。

テスト 10 - Web ページからのスプレッドシートの実行

このテストを完了すると、Web ページから Microsoft Excel のスプレッドシートを実行することができます。

注： このテストは、Hyperion Enterprise のユーザのみを対象としています。

► Web ページからスプレッドシートを実行するには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションサーバから Web ブラウザを開きます。
- 2 サンプル Web サイトにアクセスする URL を入力します。次の形式を使用します。

`http://Servername/spider.htm`

Servername は、サーバの名前です。

例えば、Web サーバの名前が Spider の場合は、次の URL を入力します。

`http://spider/spider.htm`

- 3 デモでフレーム形式を使用するかどうかを選択します。
- 4 [Mgmt Briefing] アイコンを選択し、[Key Accounts] を選択します。Microsoft Excel のスプレッドシートが表示されます。

注： アプリケーションにまだログオンしていない場合は、ログオンを要求するメッセージが表示されます。

INI ファイル設定の必要条件

この項では、Hyperion Enterprise Reporting Web の INI ファイルの必須の設定について説明します。Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションをインストール

ルすると、セットアッププログラムによってこれらの設定が自動的に追加されます。INI ファイルからこれらの設定を削除しないでください。

注： spider.ini ファイルについて詳しくは、『Hyperion Enterprise Reporting Technical Reference Guide』（テクニカルリファレンスガイド）を参照してください。

次に示す設定はエージェントのオプション定義の際に追加されます。この設定は、エージェントの電子メール機能が正しく動作するために必要です。

```
SPIDER.INI [AGENT-EMAIL]
RemotePort=portRemoteHost=hostTemplate=path
\filenameReturnAddress=address
```

パラメータ 説明

port	電子メールに使用するポート番号
host	IP アドレスまたは SMTP ホスト名
path	emailtmp.txt ファイルのパス、またはカスタマイズした電子メールテンプレートのパス（他のテンプレートファイルを使用している場合）
filename	emailtmp.txt（標準の電子メールテンプレートファイルを指定した場合）、または他のファイル名（カスタマイズしたテンプレートファイルを使用している場合）
address	送信できなかった電子メール通知が返送される電子メールアドレス

エージェントに対する ODBC の設定

財務エージェント機能を使用するには、システム DSN にエージェントのエントリが必要です。Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションでは、システム DSN にエージェントのエントリを作成して、次のデータベースを admin.exe プログラムと同じディレクトリにインストールします。

- agdemo.mdb - Microsoft Access データベースファイル。このデータベースファイルには、デモアプリケーションで使用するサンプルエージェント定義が含まれています。インストールプログラムでは、このデータベースを参照してエージェントのデモにアクセスするように、システム DSN が設定されます。
- master.mdb - 空の読取り専用エージェントデータベース。このデータベースは、ファイルマネージャまたは Windows エクスプローラを使用してコピーできます。このデータベースには、電子メールまたは Web ページ通知オブジェクトの定義のみが含まれています。独自のエージェントを作成する際にこのデータベースをコピーして使用します。

エージェントの DSN エントリを agdemo.mdb データベースまたは master.mdb データベースのコピーを参照するように切り替えることができますが、DSN エントリ名はエージェントである必要があります。2つのデータベースに異なる名前を付けて2つのエントリを作成することはできません。また、エージェントとして使

用するデータベースの名前を変更せずにデータベースを切り替えることはできません。

- ▶ master.mdb のコピーを使用するには、次の手順に従います。
- 1 master.mdb データベースにファイル名を付けて目的のディレクトリにコピーします。
- 2 Windows エクスプローラを使用して読み取り専用のチェックボックスをオフにし、書き込み可能な新しいコピーを作成します。
- 3 作成した新しいデータベースを参照するために、システム DSN でエージェントのエントリを変更します。

この章の内容

Hyperion Distributed Schedules での Hyperion DataExtend の使用.....	95
Hyperion Distributed Schedules クライアントソフトウェアの更新.....	97
サーバ INI ファイル設定の必要条件	97
サーバコンポーネントのインストール.....	98
ネットワークを介した Hyperion データアクセスのためのシステムセットアップ.....	100

この章では、Hyperion Distributed Schedules と Hyperion Distributed Retrieve のインストール後に必要な作業について説明します。

- Hyperion Enterprise および Hyperion Distributed Schedules に Hyperion DataExtend を使用するには、Hyperion Distributed Schedules を使用する各 Hyperion Solutions アプリケーションごとに Hyperion DataExtend システムデータソースを作成する必要があります。
- Hyperion Distributed Schedules ソフトウェアを更新します。
- server.ini ファイルの設定を確認します。
- サーバコンポーネントをセットアップします。
- 必要に応じて、ネットワークを介した Hyperion データアクセスのためにシステムをセットアップします。

Hyperion Distributed Schedules での Hyperion DataExtend の使用

注： Hyperion DataExtend は Oracle Essbase ではサポートされていません。

Hyperion DataExtend は、データ入力表にテキストを入力し、データや見出しとしてそのテキストをレポート内に取り込むことのできる、柔軟性に富むデータ管理ツールです。Hyperion DataExtend は、Hyperion Enterprise Reporting に次の機能を追加します。

- 説明やコメントなどのテキストを入力する注釈機能
- レポート内の他のディメンション設定を基に個々のディメンションの説明を置換できるローカル見出し設定機能

Hyperion Distributed Schedules では、注釈機能およびローカル見出し設定機能がサポートされています。

Hyperion Distributed Schedules で Hyperion DataExtend を使用するには、Hyperion Distributed Schedules を使用する Hyperion Solutions アプリケーションごとに Hyperion DataExtend システムデータソースを作成する必要があります。システムデータソースを追加するには、Windows ODBC データソースアドミニストレータを使用します。

Hyperion DataExtend 用にセットアップされた既存のユーザデータソースがある場合は、ODBC データソースアドミニストレータを使用して削除します。削除したら、次の手順に従って、既存のデータベースを使用してシステムデータソースを作成します。

- ▶ Hyperion DataExtend システムデータソースをセットアップするには、次の手順に従います。

- 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。
- 2 Windows 2003 または Windows 2008 を使用している場合は、[管理ツール] をダブルクリックしてから [データソース(ODBC)] を選択します。
- 3 [システム DSN] を選択します。
- 4 [追加] をクリックします。
- 5 インストールされた ODBC ドライバの領域で、[Microsoft Access Driver] を選択し、[完了] をクリックします。
- 6 [データソース名] ボックスに、データソース名を次の形式で入力します。

PRODUCT_APPLICATION

PRODUCT は repeng.ini ファイル内で指定されている製品識別コードで、APPLICATION は Hyperion DataExtend を使用する既存の Hyperion Enterprise アプリケーション（例えば、Enterprise_TestApp1）です。

- 7 [説明] ボックスに、データソースの説明を入力します。
- 8 [作成] をクリックします。
- 9 [ディレクトリ] リストボックスで、Hyperion DataExtend を使用する既存の Hyperion Enterprise アプリケーションのパスを選択します。
- 10 [データベース名] ボックスに次の形式でファイル名を入力します。

Application.MDB

Application は、Hyperion DataExtend を使用する既存の Hyperion Enterprise アプリケーションです。例えば、TESTAPP1.MDB などと入力します。

注： 関連付けられている .mdb ファイルがネットワーク内のコンピュータに保存されている場合は、ユニバーサル命名規則（UNC）を使用する必要があります。

- 11 [OK] をクリックしてデータベースを作成します。

- 12 データベースが作成されたことを示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。[OK] をクリックして [ODBC Microsoft Access セットアップ] ダイアログボックスを閉じます。
- 13 Hyperion Distributed Schedules で Hyperion DataExtend を使用するアプリケーションごとに、ステップ 2 ~ 10 を繰り返してデータソースを作成します。
- 14 [閉じる] をクリックして [データソース] ダイアログボックスを閉じます。
- 15 Hyperion DataExtend にログオンして起動します。

Hyperion Distributed Schedules クライアントソフトウェアの更新

Hyperion Distributed Schedules サーバソフトウェアがクライアントソフトウェアよりも新しいバージョンの場合は、Web バージョンのクライアントインストールプログラムでクライアントソフトウェアを更新するためのプロンプトが表示されます。このプロンプト表示は、管理者によって新しいバージョンの Hyperion Distributed Schedules サーバソフトウェアがインストールされていても、クライアントソフトウェアが更新されていない場合に発生します。

管理者は、サーバ設定プログラム (srvcfg.exe) を使用してサーバ上にダウンロードディレクトリをセットアップすることができます。クライアントソフトウェアとサーバソフトウェアのバージョンが一致せず、管理者によってダウンロードディレクトリがセットアップされていない場合、Hyperion Distributed Schedules は、クライアントソフトウェアとサーバソフトウェアのバージョン番号を示すメッセージを表示します。Hyperion Distributed Schedules では、ユーザがクライアントインストールプログラムの Web バージョンをダウンロードすることはできません。

管理者がサーバ設定プログラムを実行すると、ダウンロードディレクトリのパスを持った DownloadRoot (REG_SZ) と呼ばれる HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Hyperion Software\Hyperion Enterprise Reporting Web Server\HypPkgr にレジストリ値が追加されます。クライアントソフトウェアとサーバソフトウェアのバージョンが異なり、hsdist.exe (Web バージョンのクライアントインストールプログラム) がダウンロードディレクトリ内に存在している場合は、新しいバージョンのクライアントインストールプログラムをダウンロードし、新しいバージョンをインストールする前に既存のクライアントコンポーネントをアンインストールするようにユーザに要求するプロンプトが Hyperion Distributed Schedules によって表示されます。

サーバ INI ファイル設定の必要条件

この項では、Hyperion Solutions 分散型ツールを配置するサーバ INI ファイルの必須の設定について説明します。このセットアッププログラムは、Hyperion Solutions 分散型ツールのインストール時に次の設定追加します。INI ファイルからこれらの設定を削除しないでください。

INI ファイルに次の設定が含まれていることを確認してください。

HYPENT.INI

[DEFAULT]

SuppressErrMsg=YES

サーバコンポーネントのインストール

この項では、Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve サーバコンポーネントをインストールする方法について説明します。

始める前に

この項に説明するインストール処理を実行する前に、使用する各 Hyperion Solutions 製品の正しいバージョンがインストールされていることを確認してください。

Hyperion 分散型ツールサーバのセットアップ

Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve を使用する場合は、まずサーバをセットアップする必要があります。

- ▶ リモートデータにアクセスできるようにサーバをセットアップするには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- Hyperion Enterprise Reporting ソフトウェアを Oracle E-Delivery のサイトからダウンロードした場合は、ステップ 2 に進みます。

注： セットアッププログラムを実行する前に、アプリケーションおよびユーティリティをすべて閉じてください。

2 Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。次のコマンドを入力して [OK] をクリックします。

Drive:\location of HER installation\HSServe\install.exe

ここで、Drive は DVD-ROM ドライブまたはハードディスクドライブです。

[セットアップタイプ] ダイアログボックスが表示されます。

3 [カスタム] をクリックし、[次へ] をクリックします。

注： [標準] を選択すると、Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve の実行に必要なすべてのサーバコンポーネントがインストールされます。[カスタム] を選択すると、Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve 用に選択したオプションの実行に必要な関連ファイルのみがインストールされます。

4 次のいずれかのタスクを実行し、Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve をインストールするディレクトリを選択します。

- セットアッププログラムによって選択されたフォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。

- パスを変更する場合は **【参照】** をクリックし、インストール先のサーバディレクトリを選択します。**【OK】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。

【コンポーネントの選択】 画面が表示されます。

次の表に示すように、選択したメインコンポーネントおよびサブコンポーネントがセットアッププログラムによってインストールされます。

表 3 メインコンポーネントとサブコンポーネント

メインコンポーネント	サブコンポーネント
HTTP サーバ*	Microsoft Web サーバ
Web インストールプログラム*	なし
Schedules のヘルプ*	なし
サーバ設定プログラム*	なし

注： 上記の表でアスタリスク（*）が付いているメインコンポーネントおよびサブコンポーネントは、セットアッププログラムによってデフォルトで選択されます。

5 次のいずれかの操作を行います。

- デフォルトで選択されているメインコンポーネントおよびサブコンポーネントをインストールするには、**【次へ】** をクリックします。
- いずれかのメインコンポーネントをインストールしない場合は、そのコンポーネントのチェックボックスをオフにします。**【次へ】** をクリックします。
- サブコンポーネントを追加または削除するには、メインコンポーネントをハイライトし、**【詳細】** をクリックします。サブコンポーネントのチェックボックスを選択または選択解除し、**【継続】** をクリックして **【コンポーネントの選択】** ダイアログボックスに戻ります。**【次へ】** をクリックします。

6 **【インストール先】** ダイアログボックスで、インターネット HSPIDER 仮想ディレクトリとインターネット WWWROOT ディレクトリを次のいずれかの方法で選択します。

- デフォルトのディレクトリを使用する場合は、**【次へ】** をクリックします。
- ディレクトリを変更する場合は、それぞれの **【参照】** ボタンをクリックしてディレクトリを選択します。次に、**【OK】** をクリックし、**【次へ】** をクリックします。

注： インターネット WWWROOT ディレクトリに対して wwwroot 以外のディレクトリを選択し、Web バージョンのクライアントインストールプログラムを使用する場合は、ファイル hsdist.htm 内のリンクを変更する必要があります。Web バージョンのクライアントインストールプログラムをダウンロードするには、ユーザに実行アクセス権を与えていない仮想ディレクトリに hsdist.exe ファイルが置かれている必要があります。

7 サーバへの管理者権限を持つユーザアカウントの名前とパスワードを入力します。このアカウントは、サーバが Hyperion Solutions アプリケーションデータファイルにアクセスするために使用します。

注： インストール後、Hyperion Server Manager プログラム（Hyperion Solutions Common ディレクトリに保存されている `srvrcfg.exe` ファイル）を使用してこの設定を変更することができます。

8 次のいずれかのタスクを実行し、プログラムフォルダを選択します。

- デフォルトの [Hyperion Solutions] フォルダを使用する場合は、[次へ] をクリックします。
- 既存のプログラムフォルダにインストールする場合は、目的のフォルダを選択して [次へ] を選択します。
- 新規プログラムフォルダにインストールする場合は、フォルダの名前を入力して [次へ] をクリックします。

[セットアップの完了] 画面が表示されます。

ネットワークを介した Hyperion データアクセスのためのシステムセットアップ

Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve は、Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション Web サーバ以外のネットワークデバイスに配置されている Hyperion Solutions アプリケーションにアクセスすることができます。Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve が他の Hyperion Solutions アプリケーションにアクセスできるようにするには、アプリケーションが保存されているネットワークデバイスへの適切なアクセス権をサーバシステム上で設定する必要があります。このプロセスでは、次の2つのタスクを実行します。

- Hyperion Distributed Schedules および Hyperion Distributed Retrieve に対して、ホスト NT サーバにログオンし、アプリケーションが保存されているネットワークデバイスにアクセスするために使用するユーザ名およびパスワードを提供するためのユーザ名設定をセットアップします。ユーザ名設定のセットアップは Hyperion Server Manager を使用して行います。
- ユニバーサル命名規則（UNC）に従って、Web サーバ上に保存されている各製品のアプリケーションの INI ファイル内のパス名を編集します。

注： Hyperion 製品の INI ファイル内のパスの長さ制限は製品ごとに異なります。

➤ ネットワークを介して Hyperion データにアクセスできるようにシステムをセットアップするには、次の手順に従います。

- 1 Novell サーバにデータベースがあり、Novell サーバログオンを使用している場合は、Windows コンピュータ上で設定されているものと同じ ID とパスワードをセットアップします。両システムとも、同じ ID およびパスワードを設定する必要があります。さらに、ID 管理権限を設定します。
- 2 Hyperion Software Applications プログラムグループから、[Hyperion Distributed Server Manager] アイコンを選択します。
- 3 [ネットワーク] タブを選択します。

- 4 [HTTP クライアントの他のネットワーク装置へのアクセスを許可] を選択します。
- 5 アプリケーションデータファイルが保存されているファイルサーバへのアクセス権を持つアカウントのユーザ名とパスワードを入力します。
- 6 [OK] をクリックして Hyperion Server Manager を終了します。
- 7 ドライブ指定の文字ではなく、UNC に従って製品の.INI ファイル内のパス名を編集します。次の形式を使用します。

\\Servername\Sharename

変数	定義
----	----

Servername	ホストサーバの名前
------------	-----------

Sharename	アプリケーションが含まれているサーバ上の共有フォルダ名
-----------	-----------------------------

この章の内容

以前のリリースのアンインストール.....	103
-----------------------	-----

以前のリリースのアンインストール

今回のリリースをインストールする前に、旧リリースの Hyperion Enterprise Reporting をアンインストールするには、Web サーバを再起動し、その後に IIS サービスをすべて停止する必要があります。これにより、必要な DLL ファイルや OCX ファイルがアンインストールのときに削除されてしまうことを防ぐことができます。

以前のリリースの Hyperion Enterprise Reporting Web をアンインストールした後に今回のリリースをインストールする場合も同様に、以前のリリースの Hyperion Enterprise Reporting のその他すべてのコンポーネントをアンインストールしておく必要があります。

- ▶ 旧リリースをアンインストールするには、次の手順に従います。
 - 1 Web サーバを再起動し、サーバの起動直後にすべての IIS サービスを停止します。
 - 2 コントロールパネルから [サービス] を選択し、次のサービスをシャットダウンします。
 - World Wide Web Publishing Services
 - FTP Publishing Service
 - IIS Admin Service
 - Microsoft SMTP Service
 - Agent Monitor
 - 3 Hyperion Enterprise Reporting のコンポーネントごとに、アンインストールプログラムを実行します。
 1. [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
 2. プログラムの一覧から、Hyperion Enterprise Reporting の次の 2 つのコンポーネントを選択し、それぞれ [変更と削除] ボタンをクリックして、画面の指示に従います。
 - Hyperion Enterprise Reporting Windows Client
 - Hyperion Distributed Applications

注： 共有ファイルをすべて削除するオプションを必ず選択してください。

- 4 scripts、hspider、および common（通常、Program Files\Hysoft\Common）ディレクトリを調べ、OCX および DLL ファイルがすべて削除されていることを確認します。

この章の内容

インストールのアップグレード	105
インストールの修復	105
インストールの修復	106

インストールのアップグレード

今回のリリースでは、次の Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントをすばやくシームレスにアップグレードできます。

- Hyperion Enterprise Reporting Client
- Hyperion Common Logon
- Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション
- Hyperion Enterprise Reporting Distributed Applications Server
- Hyperion Enterprise Reporting Distributed Applications Client

▶ Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントをアップグレードするには、次の手順に従います。

- 1 Hyperion Enterprise Reporting セットアッププログラムを起動します。[21 ページの「セットアッププログラムについて」](#)を参照してください。
- 2 コンポーネントを指定します。[24 ページの「コンポーネントの指定」](#)を参照してください。

[コンポーネントの選択] で、アップグレードする Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを指定します。コンポーネントは順番にアップグレードされます。

- 3 コンポーネントごとに、[ようこそ] 画面で [次へ] をクリックします。
- 4 コンポーネントごとに、[メンテナンスの完了] 画面で [完了] をクリックします。

インストールの修復

次のいずれかの手順に従って、前にインストールした Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを修復できます。但し、修復の前に Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントをアップグレードする必要があります。[105 ページの「インストールのアップグレード」](#)を参照してください。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting セットアッププログラムを使用して Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを修復するには、次の手順に従います。
 - 1 Hyperion Enterprise Reporting セットアッププログラムを起動します。21 ページの「[セットアッププログラムについて](#)」を参照してください。
 - 2 24 ページの「[コンポーネントの指定](#)」を参照してください。

[コンポーネントの選択] で、アップグレードする Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを指定します。コンポーネントは順番にアップグレードされます。
 - 3 コンポーネントごとに、[ようこそ] 画面で [次へ] をクリックします。
 - 4 コンポーネントごとに、[メンテナンスの完了] 画面で [完了] をクリックします。

インストールの修復

次のいずれかの手順に従って、前にインストールした Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを修復できます。但し、修復の前に Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントをアップグレードする必要があります。105 ページの「[インストールのアップグレード](#)」を参照してください。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting セットアッププログラムを使用して Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを修復するには、次の手順に従います。
 - 1 オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting セットアッププログラムを起動します。21 ページの「[セットアッププログラムについて](#)」を参照してください。
 - 2 24 ページの「[コンポーネントの指定](#)」を参照してください。

[コンポーネントの選択] で、修復する Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを指定します。コンポーネントは順番に修復されます。
 - 3 コンポーネントごとに、[セットアップの種類] 画面で [インストールの修復] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - 4 コンポーネントごとに、[メンテナンスの完了] 画面で [完了] をクリックします。
- ▶ [プログラムの追加と削除] を使用して Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを修復するには、次の手順に従います。
 - 1 Windows デスクトップの [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル]、[プログラムの追加と削除] の順に選択します。
 - 2 修復する Hyperion Enterprise Reporting コンポーネントを選択し、[プログラムの変更と削除] をクリックします。
 - 3 [セットアップの種類] で、[インストールの修復] を選択し、[次へ] をクリックします。
 - 4 [メンテナンスの完了] で、[完了] をクリックします。



Web環境の手動設定

この付録の内容

IIS の設定	107
IIS 認証	110

IIS の設定

Microsoft Windows 2003 Server または Microsoft Windows 2008 Server を使用する場合は、IIS を設定する必要があります。Windows 2003 の場合は、そのインストール時に IIS 6.0 のインストールと設定が自動的に行われます。

- ▶ Hyperion Enterprise Reporting Web で使用するために IIS を設定するには、次の手順に従います。

- 1 IIS は、<http://www.microsoft.com> から入手できます。
- 2 Web サーバと IIS を設定します。
 - Microsoft Windows 2003 または Windows 2008 を使用している場合は、Web サーバを設定してから Microsoft IIS 7.0 を設定します。手順については、[107 ページの「Web サーバの設定」](#)を参照してください。

Web サーバの設定

Microsoft Windows 2003 Server または Windows 2008 Server を Hyperion Enterprise Reporting Web で使用できるように設定する必要があります。設定作業では、サーバにアクセスするユーザのユーザ ID とパスワードの追加と、ドメイン名の確認を行う必要があります。Web サーバの設定が完了した後、Microsoft IIS 7.0 を設定します。

- ▶ Microsoft Windows 2003 用にサーバを設定するには、次の手順に従います。
- 1 [管理ツール] プログラムグループから、[コンピュータの管理] を選択します。
 - 2 [システムツール] を展開表示して [ローカルユーザーとグループ] を開き、[ユーザー] フォルダを選択します。
 - 3 NT サーバにアクセスするユーザのユーザ ID とパスワードを追加します。追加する各ユーザに対して、[ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要] チェックボックスをオフにします。

ヒント： 設定に NT ドメインを含める場合は、そのドメイン内にグループを設定して Hyperion Enterprise ReportingWeb のユーザをグループに追加し、Web サーバへのアクセス権をそのグループに与えます。

- 4 ローカルでログオンする権限をすべての新規ユーザに割り当てたことを確認するか、またはこれらの新規ユーザをこのような権限を持つグループに割り当てたことを確認してください。
 1. [管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー] を選択します。
 2. [ローカルポリシー] ディレクトリを選択します。
 3. [ユーザー権限の割り当て] を選択します。
- 5 [ユーザーマネージャ] ダイアログボックスを閉じます。
- 6 Windows の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] の順に選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。
- 7 [ローカルエリア接続] を右クリックして [プロパティ] を選択します。
- 8 [インターネットプロトコル(TCP/IP)] クリックして [プロパティ] をクリックします。
- 9 [詳細] をクリックします。
- 10 [DNS] タブを選択し、[この接続の DNS サフィックス] ボックスに会社またはインターネットサービスプロバイダの正しいドメイン名が指定されていることを確認します。
- 11 DNS 検索順序の TCP/IP アドレスを書留めます。このアドレスは、ネットワーク管理者が維持しているコンピュータのアドレスです。このアドレスには、この新規サーバのホスト名および TCP/IP アドレスを含める必要があります。
- 12 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

➤ Microsoft Windows 2003 用にサーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 [管理ツール] プログラムグループから、[コンピュータの管理] を選択します。
- 2 [システムツール] を展開表示して [ローカルユーザーとグループ] を開き、[ユーザー] フォルダを選択します。
- 3 NT サーバにアクセスするユーザのユーザ ID とパスワードを追加します。追加する各ユーザに対して、[ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要] チェックボックスをオフにします。

ヒント： 設定に NT ドメインを含める場合は、そのドメイン内にグループを設定して Hyperion Enterprise ReportingWeb のユーザをグループに追加し、Web サーバへのアクセス権をそのグループに与えます。

- 4 ローカルでログオンする権限をすべての新規ユーザに割り当てたことを確認するか、またはこれらの新規ユーザをこのような権限を持つグループに割り当てたことを確認してください。
 1. [管理ツール]、[ローカルセキュリティポリシー] を選択します。
 2. [ローカルポリシー] ディレクトリを選択します。
 3. [ユーザー権限の割り当て] を選択します。
- 5 [ユーザーマネージャ] ダイアログボックスを閉じます。

- 6 Windows の [スタート] メニューから [設定]、[コントロールパネル] の順に選択し、[ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。
- 7 [ローカルエリア接続] を右クリックして [プロパティ] を選択します。
- 8 [インターネットプロトコル(TCP/IP)] クリックして [プロパティ] をクリックします。
- 9 [詳細] をクリックします。
- 10 [DNS] タブを選択し、[この接続の DNS サフィックス] ボックスに会社またはインターネットサービスプロバイダの正しいドメイン名が指定されていることを確認します。
- 11 DNS 検索順序の TCP/IP アドレスを書留めます。このアドレスは、ネットワーク管理者が維持しているコンピュータのアドレスです。このアドレスには、この新規サーバのホスト名および TCP/IP アドレスを含める必要があります。
- 12 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

Microsoft IIS の設定

Microsoft Internet Information Server のリリースノートに記載されている手順に厳正に従ってインストールします。インストール完了後、オラクル社の Hyperion(R) Enterprise(R) Reporting Web で使用できるように Microsoft IIS 7.0 を設定します。

► Microsoft Internet Information Server を設定するには、次の手順に従います。

- 1 Windows の [スタート] メニューから、[プログラム]、[管理ツール]、[インターネットサービスマネージャ] の順に選択します。

注： インターネットサービスマネージャは Microsoft Management Console のプラグインソフトウェアです。インターネットサービスマネージャは、開いたときに Microsoft Management Console 内に表示されます。

- 2 左側のウィンドウで、[デフォルトの Web サイト] を選択します。
- 3 [アクション] プルダウンメニューから [プロパティ] を選択します。

ヒント： [デフォルトの Web サイト] を右クリックし、ポップアップメニューから [プロパティ] を選択することもできます。

- 4 [ディレクトリセキュリティ] タブを選択します。
- 5 [匿名アクセスと認証制御] で [編集] をクリックします。
- 6 [匿名アクセスの許可] チェックボックスをオフにします。
- 7 [基本認証] をクリックします。
- 8 [統合 Windows 認証] チェックボックスをオフにします。
- 9 [OK] を 2 回クリックします。
- 10 既にセキュリティが確保されているディレクトリのセキュリティ設定を変更しないでそのまましておくには、[OK] をクリックします。このとき、[子ノード] 一覧からは何も選択しないでください。
- 11 Internet Information Service を閉じ、コンピュータを再起動します。

外部認証を使用する HER の設定

CSS がインストールされている場合は、デフォルトで [匿名アクセス] チェックボックスがオンになっています。ユーザが匿名ユーザとして指定されていることを確認します。

次のセクションを spider.ini ファイルに追加します。

```
[CSS]
```

```
Enabled=1
```

```
ConfigFile=file:///C:/Hyperion/filename.xml
```

IIS 認証

➤ IIS でユーザを認証するには、次の手順に従います。

- 1 Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、[名前] フィールドに **inetmgr** と入力します。

[インターネットインフォメーションサービス] ウィンドウが表示されます。

- 2 [インターネットインフォメーションサービス] ウィンドウの左側のウィンドウで、HSpider か、または Hyperion Enterprise Reporting のインストール時に指定した仮想ディレクトリに移動します。

- 3 [Hspider] を右クリックして [プロパティ] を選択します。

[HSpider のプロパティ] ウィンドウが表示されます。

- 4 [ディレクトリセキュリティ] タブの [匿名アクセスおよび認証コントロール] グループボックスから [編集] をクリックします。

[認証方法] ウィンドウが表示されます。

- 5 [認証方法] ウィンドウの [認証済みアクセス] グループボックスで、[基本認証 (パスワードはクリアテキストで送信)] または [統合 Windows 認証] を選択します。

注： IWA はインターネット上で動作しません。IWA が使用されている場合は、Web サーバには企業のドメイン構造内でアクセスする必要があります。

- 6 [OK] をクリックします。

- 7 IIS Admin Service と World Wide Web Publishing Services を停止し再起動します。

索引

A - Z

AGDEMO.MDB ファイル, 93

Essbase

Hyperion Enterprise Reporting でサポートされるバージョン, 13

Hyperion DataExtend

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションで使用するためのセットアップ, 77

Hyperion Schedules での使用, 95

Hyperion Enterprise

Hyperion Enterprise Reporting でサポートされるバージョン, 13

インストール後の確認, 86-92

Hyperion Enterprise Reporting Client

MDAC との互換性, 14

アップデートのインストール, 9, 37

インストール, 29, 36, 41, 52, 60, 62, 68

インストール後の確認, 86

インストールの確認, 76

インストールの概要, 9

インストールの要件, 8

基本インストール, 9

コンポーネントの内容, 9

互換性があるアドインアプリケーション, 14

互換性のあるオペレーティングシステム, 13

標準インストール, 9

ワークステーションのセットアップ, 9

Hyperion Enterprise Reporting Client のテストのトラブルシューティング, 76

Hyperion Enterprise Reporting Web

Hyperion Essbase, インストール, 15

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション

Hyperion DataExtend, セットアップ, 77

Hyperion Enterprise とともにインストール, 15

インストール後のタスク, 83

インストール手順, 43

インストールの確認, 86

サーバ, 設定, 15

サーバインストール, 43

ネットワークセットアップ, 84

ワークステーションインストール, 52

Hyperion Essbase

Hyperion DataExtend がサポートされない, 95

Hyperion Enterprise Reporting Client での確認, 76

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションとともにインストール, 15

INI ファイル, カスタマイズ, 78

ODBC システムデータソース名およびデータベース, 作成, 74

ODBC データソース, 作成, 73

REPENG.INI ファイル, 81

インストール後の確認, 86-89

ディレクトリ, レポート, 81

Hyperion Retrieve

インストール, 63

インストール後のタスク, 95

インストールのカスタマイズ, 97

インストールの要件, 11

インストール前の準備作業, 98

サーバ, インストール, 98

標準インストール, 63

Hyperion Schedules

Hyperion DataExtend, 使用, 95

インストール, 63

インストール後のタスク, 95

インストールのカスタマイズ, 97

インストールの要件, 11

インストール前の準備作業, 98

クライアントソフトウェア, 更新, 97

サーバコンポーネント, インストール, 98

標準インストール, 63

Hyperion 分散型ツール

インストール後のタスク, 95

インストールのカスタマイズ, 97
 インストールの要件, 11
 サーバ, インストール, 98
 標準インストール, 63
 INI ファイル, Hyperion Enterprise Reporting Client 用にカスタマイズ, 78
 MASTER.MDB ファイル, 93
 Microsoft Data Access (MDAC)
 Hyperion Enterprise Reporting Client との互換性があるバージョン, 14
 Microsoft FrontPage 2000, サーバ拡張機能のインストール, 85
 NOCACHE.REG ファイル, 97
 ODBC
 エージェントに対する設定, 93
 システム DSN およびデータベース, Hyperion Essbase 用に作成, 74
 設定, 詳細, 75
 データソース, Hyperion Essbase 用に作成, 73
 REPENG.INI ファイル
 設定, 81
 トラブルシューティング, 76
 命名規則, 79
 RW32.INI ファイル, 79
 SERVER.INI ファイル, 97
 SHARED.INI ファイル, 79
 SPIDER.DLL ファイル, 88
 SYSLIST 関数, 89
 Web サイトウィザード, 85
 Web サーバ, アクセス, 88

あ行

アップデートのインストール
 Hyperion Enterprise Reporting Client, 9
 アップデートのインストール, Hyperion Enterprise Reporting Client, 37
 インストール
 Hyperion Enterprise Reporting Client, 29, 36, 41, 52, 60, 62, 68
 Hyperion Enterprise Reporting Client インストール後のタスク, 36, 41, 52, 60, 62, 68
 Hyperion Enterprise Reporting Client の確認, 76
 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション, 43

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションの確認, 86
 Hyperion Retrieve, 63
 Microsoft FrontPage 2000 サーバ拡張機能, 85
 カスタマイズ, Hyperion 分散型ツール用, 97
 コンポーネントの内容, 7
 サイレント, 16
 インストールコンポーネント
 Hyperion Enterprise Reporting Client, 9
 Hyperion Enterprise Reporting に含まれている, 7
 インストール後のタスク
 Hyperion Enterprise Reporting Client, 36, 41, 52, 60, 62, 68
 Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション, 83
 Hyperion 分散型ツール, 95
 インストールの概要
 Hyperion Enterprise Reporting Client, 9
 インストールの要件
 Hyperion Enterprise Reporting Client, 8
 Hyperion 分散型ツール, 11
 インストール前の準備作業
 Hyperion Retrieve, 98
 Hyperion Schedules, 98
 Hyperion 分散型ツール, 98
 ウィザード, Web サイト, 85
 エージェント
 ODBC, 設定, 93
 使用, 91
 エージェントモニタのログオン, セットアップ, 84
 オペレーティングシステム
 Hyperion Enterprise Reporting Client との互換性, 13

か行

関数, SYSLIST, 89
 外部認証, 7
 基準ベースのページ, アクセス, 90
 クライアントソフトウェア, Hyperion Schedules の更新, 97

さ行

サイレントインストール, 16
 サーバ

Hyperion Distributed Applications 用にインストール, 98

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション用に設定, 15

サーバ, Web, アクセス, 88

サーバインストール, Hyperion Enterprise

Reporting Web アプリケーション, 43

サーバ名, Hyperion Essbase で定義, 82

スプレッドシート, Web ページからの実行, 92

静的レポート, 作成, 87

製品, ドリルダウン, 89

設定, INI ファイル, 92

た行

チャート, 動的, アクセス, 90

注釈, 77

テスト

Hyperion Enterprise Reporting Client のトラブルシューティング, 76

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションのインストール, 86-92

データソース

Hyperion Enterprise Reporting Client 用, 13

データソース名, Hyperion Essbase 用に作成, 74

データベース, Hyperion Essbase 用に作成, 74

動的チャート, アクセス, 90

動的レポート, アクセス, 89

な行

名前, サーバ, Hyperion Essbase で定義, 82

ネットワーク

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーションで使用するためのセットアップ, 84

は行

標準インストール

Hyperion Retrieve, 63

Hyperion Schedules, 63

Hyperion 分散型ツール, 63

標準セットアップ

Hyperion Enterprise Reporting Client, 9

ファイル

AGDEMO.MDB, 93

INI, カスタマイズ, 78

INI の設定, 92

MASTER.MDB, 93

NOCACHE.REG, 97

REPEND.INI

設定, 81

トラブルシューティング, 76

命名規則, 79

RW32.INI, 79

SERVER.INI, 97

SHARED.INI, 79

SPIDER.DLL, 88

ページ, 基準ベース, 90

ま行

見出し, ローカル, 77

や行

ユーザ設定, セットアップ, 84

ユーザ名の設定, セットアップ, 84

ら行

レポート

動的, アクセス, 89

レポート, 静的, 作成, 87

レポートディレクトリ, Hyperion Essbase に定義, 81

ログオン, エージェントモニタ, 84

ローカル見出し, 77

わ行

ワークステーションインストール

Hyperion Enterprise Reporting Client, 9

Hyperion Enterprise Reporting Web アプリケーション, 52

